

第二十六條 此規則ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

第六章 水産

●縣令第四十八號 (明治三十五年七月九日)

静岡縣漁業取締規則左ノ通定ム

漁業取締規則

第一條 左ニ掲クル漁業ヲ爲サントスル者ハ一種類毎ニ許可ヲ受クヘシ

- 一 鰯刺目網漁業
- 一 鰯夜流網漁業
- 一 鵜使漁業
- 一 鱈刺網漁業
- 一 赤海龜漁業
- 一 鮭夜網漁業
- 一 覗水器漁業
- 一 「わめんど」打瀬網漁業

一 鵜繩罾引網漁業

前項ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シテハ鑑札ヲ下付ス

第二條 前條ニヨリ鑑札ヲ下付サレタル者漁業ニ従事スルトキハ必ス之ヲ携帯スヘシ

第三條 鑑札ハ他人ニ貸付スルコトヲ得ス

第四條 當該官吏ニ於テ漁業鑑札漁業免狀及許可指令書等ノ掲示ヲ命シタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五條 湖河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ河川流幅ノ五分ノ一以上ノ範圍内ニ於テ魚道ヲ開通スヘシ

第六條 左ニ掲クル水産動物ハ之ヲ捕獲シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

- 一 う あ き (のぼり子ヲ含ム) 休長五寸以下
- 一 あ わ び 長三寸五分以下
- 一 あ さ り 長(介殼ノ前端ヨリ後端ニ至ル)一寸以下但駿河國清水灣ニアリテハ長サ一寸二分以下
- 一 は ま ぐ り 長(介殼ノ前端ヨリ後端ニ至ル)一寸以下
- 一 あかうみがめ 腹甲二尺以下及其卵子
- 一 しんじゆがい 長二寸五分以下

第七條 眞珠貝ハ其長如何ヲ問ハス駿河國清水灣内ニ於テハ明治四十年六月三十日迄之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第八條 左ニ掲クル水産動物ハ指定ノ期間ニ限り之ヲ採捕シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

- 一 あ ゆ 毎年一月一日ヨリ五月三十一日迄
- 一 あ わ び 毎年十一月一日ヨリ全十二月三十一日迄
- 一 あ さ り 毎年六月一日ヨリ九月三十日迄但駿河國清水灣ニ在テハ六月一日ヨリ十二月三十一日迄

- 一 は ま ぐ り 毎年六月一日ヨリ九月三十日迄
- 一 い せ ん び 毎年七月一日ヨリ九月三十日迄
- 一 し ら す 毎年二月一日ヨリ四月十日迄
- 一 て ん ぐ さ 毎年十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄

第九條 漁具及漁具使用期間ノ制限左ノ如シ

- 一 夜打瀬網(鰈引網ヲ含ム)ハ其網目五寸ニ付十二節鰈引網ハ全二十節以下ヲ使用スヘシ
- 二 夜打瀬網ノ使用期ハ毎年九月十五日ヨリ十二月三十一日迄トス
- 三 手繰網使用期ハ毎年十月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

四 覗水器使用期ハ毎年十月一日ヨリ翌年二月二十八日迄トス

第十條 漁具使用ニ關スル場所ノ制限ハ左ノ如シ

- 一 流網及揚繰網ノ使用區域ハ田方郡西浦村大瀬崎ヨリ駿東郡原町大塚東端ヲ見通シタル線ヨリ西南方面ニ限ル
- 二 夜打瀬網使用區域ハ濱名湖ニ在テハ濱名郡雄踏村ト伊佐見村ノ境ヨリ新居町ト吉津村ノ境ヲ見通シタル線ヨリ以南東海道鐵道線路ニ至ル間ニ限ル
- 三 「わめんご」打瀬網及鰈引網ノ使用區域ハ濱名湖ニ在テハ猪鼻湖及細江湖入口ヨリ以南東海道線路ニ至ル間ニ限ル

第十一條 鵜使漁業ハ天龍、大井、安倍、富士ノ四川ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 養殖、學術研究其他特別ノ理由ニ據リ第六條第七條第八條ニ規定シタル水産動物ヲ採捕セントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ許可ヲ受クヘシ

- 一 種類
- 一 目的
- 一 場所
- 一 時期

一 方法

第十三條 第一條ノ許可ヲ受クスシテ漁業ヲ爲シタルモノ及第六條第七條第八條第九條ノ規定ニ違背シタルモノハ參圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス許可條件ニ違背シタルトキ亦同シ
前項ノ場合ニ於テハ漁具漁獲物ヲ沒收ス但既ニ漁獲物ヲ讓渡シ若ハ消費シタルトキハ代金ヲ退
徴ス

第十四條 第十條第十一條ノ規定ニ違背シタルモノハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第二條第三條第四條ノ規定ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

第十六條 使用人漁夫其他從業者ノ所爲ハ漁業者ノ所爲ト見做シ本則ニ定メタル罰則ハ之ヲ漁業者ニ適用ス

附 則

第十七條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス(三十五年縣令第五十二號ヲ以テ但書追加)

但第九條第一號ニ關スル施行期限ハ明治三十六年七月一日トス

第十八條 本則發布前ニ係ル漁業ニ關スル規定ニシテ本則ニ抵觸セサルモノハ其効力ヲ妨ケス

●縣令第四十九號 (明治三十五年七月九日)

漁業法施行規則及漁業取締規則施行細則左ノ通定ム

漁業法施行規則及漁業取締規則施行細則

第一條 農商務大臣ニ出願申請又ハ届出ヲ爲サントスルトキハ水面所轄郡市長及町村長ヲ經由スヘシ

第二條 漁業法施行規則及本縣令第四十八號漁業取締規則ニ依リ知事ニ差出スヘキ出願申請届出等ノ書面ハ水面所轄郡市長及町村長ヲ經由スヘシ

第三條 前二條ノ出願申請又ハ届出ヲ爲サントスルモノニシテ水面所轄ノ町村長明確ナラサルトキハ其水面所轄ノ郡長ヲ經由シ水面所轄ノ郡市長明確ナラサル場合ハ直ニ其書面ヲ知事ニ差出スヘシ

第四條 漁業法施行規則第五十六條及本縣令第四十八號漁業取締規則第一條ニ掲ケタル漁業ヲ許可スルトキハ漁船一艘毎ニ鑑札ヲ下付スヘシ

第五條 漁業法施行規則第五十六條及本縣令第四十八號漁業取締規則第一條ニ掲ケタル漁業ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 漁業ノ名稱
- 二 漁業ノ場所
- 三 漁獲物ノ種類

四 許可期間

第六條 漁業法施行規則第五十六條及本縣令第四十八號漁業取締規則第一條ニ掲ケタル漁業ヲ爲サ
ントスル者ハ左ノ各號ニ從フヘシ

一 鑑札ヲ亡失毀損シタルトキ又ニ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ再下付又ハ書換ヲ願出ツ
ヘシ

二 廢業又ハ鑑札ノ無効ニ歸シタルトキハ十日以内ニ死亡シタルトキハ相續者ヨリ相續ヲ戸籍
吏ニ届出タル日ヨリ十日以内ニ届出ヲ爲シ同時ニ鑑札ヲ返納スヘシ

第七條 免許ヲ得タル漁業者休業シタルトキハ漁期ノ終日ヨリ十日以内ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ハ第六條ノ漁業者ニ之ヲ準用ス但引續キ二箇年間休業シタルトキハ廢業ト看做シ下
付ノ鑑札ヲ無効トス

第八條 漁業法施行規則第六十二條ノ申請書ハ爭議ノ相手方ニ送付スル爲メ副本ヲ添付スヘシ

第九條 漁場ノ標識ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 漁場ノ區域及方位
- 一 漁業權者ノ氏名

前項ノ標識ハ四寸角以上ノ木石ヲ用井水面又ハ地上ヨリ高サ五尺以上タルヘシ

第十條 本則第六條第七條ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

附 則

第十一條 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●告示第五百五十九號 (明治三十五年六月二十日)

漁業法施行規則ニ依リ差出スヘキ願書、申請書、届書ノ書式左ノ通定ム
書式第一號

收 入
紙 入

定置(區劃)(特別)漁業免許願書

- 一 漁場ノ位置及區域
- 一 別紙漁場圖ノ通
- 一 漁業ノ種類及名稱
- 一 漁獲物ノ種類
- 一 漁業時期
- 一 免許期間

前記ノ通(從來ノ慣行ニ依リ)漁業免許相受度別紙漁場圖及關係書類相添此段相願候也

年 月 日 住 所 出願者 氏 名 印
(何々漁業組合理事氏名印)

知事宛

附屬書類ノ表示

一 漁場圖正副二通

一 (慣行證據書何通)

第何號ヨリ第何號迄

一 何々 何通

以上何通

注意

一 二人以上共同出願ノ場合ニ於テ代表者ノ届出ヲナシタルトキハ其願書ニ代表者記名捺印スヘシ

二 代表者ノ届出ヲナサスシテ願書ニ其記載ヲナサントスルトキハ左ノ例ニ依ルヘシ
以下之ニ準ス

(個人ノ共同出願ナルトキハ)

出願者 甲 某印
乙 某印

全 丙 某印

右代表者 甲 某印

(漁業組合ノ共同出願ナルトキハ)

出願者 甲何々漁業組合理事某印
全 乙何々漁業組合理事某印
全 丙何々漁業組合理事某印
右代表者 甲何々漁業組合理事某印

一 漢字ヲ以テ漁獲物ノ種類ヲ記載スルトキハ必ス傍訓ヲ付スヘシ以下之ニ準ス
一 文書綴續ノ處ニハ適宜契印スヘシ以下之ニ準ス

第二號

收入紙

定置(區劃)(特別)漁業免許變更願

何年何月何日免許第何號

一 (漁獲物ノ種類)

一 (漁業時期)

一 (漁場區域)

前記ノ通變更ノ免許相受度別紙免許狀(漁場圖)及關係書類相添此段相願候也

年月日

知事宛

住所

氏

名印

附屬書類ノ表示

一 何々 何通

一 何々 何通

以上何通

注意

一 漁場區域變更ノ出願ニ付テハ漁場圖正副二通ヲ添付スヘシ

二 何年何月何日免許第何號トアルハ免許狀ニ記載シタル免許年月日及免許番號トス以下之

ニ準ス

第三號

印紙入

定價(區劃)(特別)漁業免許狀訂正申請書

何年何月何日免許第何號

一 漁業權者(代表者)ノ氏名(名稱)住所

前記ノ通變更候ニ付免許狀訂正相成度別紙免許狀及關係書類相添此段申請候也

年月日

知事宛

住所

氏

名印

附屬書類ノ表示

一 何々 何通

以上

第四號

印紙入

定價(區劃)(特別)漁業免許期間更新申請書

何年何月何日免許第何號

一 更新期間

一 更新ノ理由

前記ノ通免許期間更新ノ免許相受度別紙免許狀及關係書類相添此段申請候也

年月日

知事宛

住所

申請者 氏

名印

附屬書類ノ表示

一 何々

何通

以上

第五號

收入
印紙

定置(區劃)(特別)漁業免許狀書換申請書

一 何年何月何日免許第何號

前記漁業權何年何月何日相續(讓渡)(共有)(代表者某ニ變更)致候ニ付免許狀書換相成度別紙免許狀及關係書類相添此段申請候也

年月日

知事宛

住所

相續人(又ハ當事者)氏

名印

附屬書類ノ表示

一 何々

何通

一 何々 何通

以上何通

注意

- 一 相續ノ場合ニハ戶籍謄本又ハ遺言書等ノ寫ヲ添付スヘシ
- 二 讓渡ノ場合ニハ讓渡人、讓受人共有ノ場合ニハ共有者記名連印之ニ關スル契約書等ヲ添付スヘシ
- 三 代表者變更ノ場合ニハ共同者ハ記名連印シ其理由書ヲ添付スヘシ

第六號

收入
印紙

定置(區劃)(特別)漁業免許狀再下付申請書

一 何年何月何日免許第何號

前記ノ免許狀何々ノ事由ニ依リ亡失(毀損)致候ニ付再下付相成度(別紙毀損免許狀相添)此段申請候也

年月日

知事宛

住所

申請者 氏

名印

注意

一 國免許狀記載ノ免許年月日ハ免許番號分明ナラサルトキハ其漁業ノ種類名稱漁業權者ノ氏名若ハ名稱又ハ代表者ノ氏名ヲ申請書中ニ記載スヘシ

第七號

印紙入

定置(區劃)(特別)漁業休業認可申請書

何年何月何日免許第何號

一 何年何月何日(免許)(休業)(休業認可期限満了)後何年何月何日ニ至ル間前記ノ漁業休業認可相受度別紙理由書相添此段申請候也

年月日

住所

漁業權者 氏

名印

知事宛

第八號

定置(區劃)(特別)漁業權貸付登録申請書

一 何年何月何日免許第何號

前記ノ漁業權貸付致候ニ付登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年月日

住所

貸渡人 氏

名印

借受人 氏

名印

知事宛

附屬書類ノ表示

一 契約書謄本一通

一 何々 何通

以上何通

第九號

定置(區劃)(特別)漁業權借主ノ權利相續(讓渡)(共有)ニ關スル登録申請書

何年何月何日免許第何號

一 借主ノ氏名

前記漁業權借主ノ權利相續(讓渡)(共有)致候ニ付登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

住所

相續人(又ハ當事者)氏

名印

年月日

知事宛

附屬書類ノ表示

- 一 戸籍謄本 一通
- 一 遺言書(契約書) 一通
- 一 何々 何通
- 以上何通

注意

- 一 借主ノ權利處分ニ付漁業權者ノ承諾ヲ要スヘキ場合ニ在テハ其承諾アリタルコトヲ證スヘキ書面ヲ添付スルカ又ハ申請書中ニ漁業權者記名連印スヘシ
- 二 借主ノ權利處分ニ付漁業權者ノ承諾ヲ要セサル慣行又ハ契約アル場合ニ在テハ之ヲ證スヘキ書類ヲ添付スヘシ

第十號

定置(區劃)(特別)漁業權ニ付共有者ノ持分相續(讓渡)(共有)(貸付)
ニ關スル登録申請書

- 何年何月何日免許第何號
- 一 共有者ノ氏名

前記共有者ノ持分相續(讓渡)(共有)(貸付)致候ニ付登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

年月日 住所
知事宛 相續人(又ハ當事者)氏 名印

附屬書類ノ表示

- 一 何々 何通
- 一 何々 何通
- 以上何通

第十一號

定置(區劃)(特別)漁業權ニ付共同借主ノ持分相續(讓渡)
(共有)ニ關スル登録申請書

- 何年何月何日免許第何號
- 一 共同借主ノ氏名
- 前記共同借主ノ持分相續(讓渡)(共有)致候ニ付登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

住所
相續人(又ハ當事者)氏 名印

知事宛

附屬書類ノ表示

一 何々 何通

一 何々 何通

以上何通

注意

一 共同借主ノ持分處分ニ付テハ第九號注意參照スヘシ

第十二號

定置(區劃)(持分)漁業權ニ付共有者(共同借主)ノ持分

變更ニ關スル登録申請書

何年何月何日免許第何號

一 共有者(共同借主)ノ氏名

前記共有者(共同借主)ノ持分變更候ニ付登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

住所

年月日

知事宛

共有者(共同借主)氏

名印

附屬書類ノ表示

一 何々 何通

一 何々 何通

以上何通

注意

共同借主ノ持分變更ニ付テハ第九號注意參照スヘシ

第十三號

定置(區劃)(特別)漁業權ニ付共有者(共同借主)ノ氏名(名稱)

(住所)變更登録申請書

何年何月何日免許第何號

一 舊氏名(名稱)(住所)

一 新氏名(名稱)(住所)

前記ノ通變更候ニ付登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

住所

年月日

知事宛

申請者 氏

名印

附屬書類ノ表示

一 何々 何通

一 何々 何通

以上何通

第十四號

定置(區劃)(特別)漁業ニ關スル登録事項變更(消滅)登録申請書

何年何月何日免許第何號

前記漁業種ニ關スル登録事項變更(消滅)候ニ付登録相成度別紙關係書類相添此段申請候也

住 所

年 月 日

當事者(又ハ代表者)氏

名 印

知 事 宛

附屬書類ノ表示

一 何々 何通

一 何々 何通

以上何通

第十五號

收入
紙入

定置(區劃)(特別)漁業免許期間指定申請書

一 漁業ノ種類及名稱

一 漁獲物ノ種類

一 漁業時期

一 免許期間

前記漁業免許期間指定相成度別紙漁場圖及關係書類相添此段申請候也

住 所

申請者 氏

名 印

知 事 宛

年 月 日

附屬書類ノ表示

一 漁場圖正副二通

一 前免許書 一通

一 何々 何通

以上何通

注意

第一號注意参照スヘシ

第十六號

代表者選定届

一 代表者ノ氏名(名稱)及住所

前記ノ者漁業法施行規則第十八條ニ依リ代表者ニ選定候ニ付此段及御届候也

住所

年月日

共同出願者(共同申請者)連 名 印

知事宛

注意

共同出願者又ハ共同申請者ニ於テ代表者ヲ選定シ行政廳ニ届出タルトキハ爾後總テ代表者ノ名ヲ用フヘシ

第十七號

代表者變更届

一 新代表者ノ氏名(名稱)及住所

前記ノ通代表者變更候ニ付漁業法施行規則第十八條ニ依リ此段及御届候也

住所

年月日

共同出願者(共同申請者)連 名 印

知事宛

第十八號

定置(區劃)(特別)漁業着手(再度從事)届

一 何年何月何日免許第何號

何年何月何日ヨリ前記漁業ニ着手(再ヒ漁業ニ從事)候ニ付此段及御届候也

住所

年月日

漁業權者(又ハ代表者)氏 名 印

知事宛

注意

再ヒ漁業ニ從事セントスルモノハ休業認可ノ年月日及番號ヲ届書中ニ記載スヘシ

第十九號

定置(區劃)(特別)漁業權ノ差押(假差押)(假處分)ノ命令
(取消ノ命令)ニ關スル届

一 何年何月何日免許第何號
前記ノ漁業權ニ付何年何月何日差押(假差押)(假處分)(差押取消)(假差押取消)(假處分取消)ノ命令相受候ニ付別紙關係書類相添此段及御届候也

年月日

知事宛

住所
命令申請者 氏

名印

附屬書類ノ表示

一 何々 何通

一 何々 何通

以上何通

第二十號

(三十五年告示第百八
十號ヲ以テ以下追加)

印紙入

免許漁業原簿ノ閱覽(謄本又ハ抄本下付)申請書

一 閱覽セントスル免許原簿ノ部分

何々ノ部分

一 謄本(抄本)ノ部分

何々ノ部分

右閱覽(謄本又ハ抄本下付)御許可相成度此段申請候也

年月日

知事宛

住所
申請者 氏

名印

第二十一號

漁場標識建設ノ爲メ他人ノ土地立入(使用)認可願

何年月日免許第何號

一 漁場標識建設ノ場所

何地何々ノ箇所

一 立入(使用)スル土地

何某所有何地何ノ箇所

一 立入(使用)スル期間

何年何月何日ヨリ何年何日マテ

右漁場標識建設ノ爲前記ノ土地立入(使用)ヲ要シ候條認可書下付相成度此段相願候也

年月日

土地管轄郡長宛

住所
漁業權者 氏

名印

第二十二號

印紙入

漁業爭議裁決申請書

住 所
申請者 氏 名
住 所
相手方 氏 名

申請ノ目的

一 何々ト裁決相成度候

理 由

一 何々ニ付何々ニ有之候

立 證

一 何々ニ付テハ甲第何號證何々ニ付テハ甲第何號證ヲ以テ立證仕候

右

年 月 日

申請者 氏

名 印

知 事 宛

附屬書類ノ表示

一 證據書類何通

但甲第何號ヨリ甲第何號ニ至ル

(一委任狀 何通)

以上何通

注 意

争議ノ關係者中免許ヲ與ヘタル官廳ヲ異ニスルモノアルトキハ裁決申請書ハ農商務大臣宛ト
ス

●告示第六十號

(明治二十五年六月三十日)

漁業法施行規則第五十六條第一項一ヨリ五ニ至ル漁業名稱左ノ通り定ム

一 藻手繰網漁業

蝦引網

二 藻打瀬網漁業

夜打瀬網

アメント打瀬網

三 藻曳網漁業

藻曳網

四 潜水器漁業

潜水器

五 空釣細漁業

空釣細

●告示第七十七號

(明治三十五年七月十八日)

漁業法施行規則第五十六條及明治三十五年本縣令第四十八號漁業取締規則第一條ノ規定ニ依リ下付スヘキ漁業鑑札離形左ノ通定ム

三寸五分

第 號
何々漁業鑑札
漁業者住所氏名

裏 面	烙 印
年 月 日	縣 日 靜
	印 岡

●縣令第二號

(明治三十五年一月三十一日)

濱名湖採藻取締規則左ノ通定ム

濱名湖採藻取締規則

第一條 濱名湖内採藻區域ハ從來ノ慣行ニ依リ關係ノ町村又ハ字ニ於テ之ヲ定メ標識ヲ建設シ明治三十五年四月十五日マテニ關係町村長ノ連署ヲ以テ知事ニ届出ヘシ

第二條 濱名湖ニ於テ採藻セントスルモノハ其所屬ノ町村又ハ字ノ採藻區域ニ於テ之ヲ爲スヘシ
第三條 採藻區域ニ關シ關係ノ町村又ハ字ノ間ニ紛議ヲ生シタルトキハ知事ニ於テ其區域ヲ指定シ標識ノ建設ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 第二條ニ違背シ又ハ標識ヲ移轉シ若クハ亡失毀損シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス
●甲第八十七號 (明治十年九月十八日)

捕魚採藻ノ爲メ海川面所用之義ニ付テハ追々公布ノ旨モ有之候處右ハ一般其地ノ舊慣ニ依リ營業差許候尤税金賦課ノ義ハ追テ可相達候條右營業ノ者へ無洩可相達候事
●甲第六號 (明治十一年一月十八日)

十年本縣甲第八十七號ヲ以テ捕魚採藻ノ爲メ海川面所用ノ義ハ其地ノ舊慣ニ依リ營業差許候旨及布達候處舊慣ノ文義ヲ誤リ無謂故障申立候向モ有之候哉ニ相聞候得共右布達セシ現時ノ習慣ニ因リ營業差許候趣意ニ係條此旨更ニ布達候事
●甲第九十一號 (明治十三年六月二十五日)

本年本縣甲第八十八號ヲ以テ漁業稅採藻稅徵收規則改正布達候處該營業ノ義ハ總テ其地舊來ノ區域及慣例ニ據リ候儀ト可相心得此旨布達候事

第七章 山林

●縣令第五十一號 (明治二十七年九月二十三日)

民有山林組合規則左ノ通相定ム

民有山林組合規則

第一條 山林ヲ所有スル者ハ其地形ニ依リ每町村又ハ數町村聯合シ適宜地區ヲ劃シ組合ヲ設クヘシ

但土地ノ情況ニ依リ町村内ヲ分割シ又ハ他ノ町村若クハ其幾部分ト聯合シテ組合ヲ設クルコトヲ得

第二條 組合ハ森林ノ保護繁殖ヲ圖ルヲ以テ目的トナスヘシ

第三條 組合ノ組織ハ山林所有者中ヨリ創立委員ヲ設ケ其規約ヲ作り當廳ノ認可ヲ受クヘシ其委員ハ各町村又ハ大字ヨリ三名乃至五名宛選出シ委員ノ議決ハ出席者ノ過半數ニ依ルモノトス

第四條 山林ヲ所有スル者ハ總テ其地ノ組合ヘ加入スヘシ

但他ノ山林ト接續セサル僅少反別ノ山林ハ組合ニ於テ適宜制限ヲ設ケ當廳ノ認可ヲ經テ之ヲ員外ト爲スコトヲ得

第五條 組合區域外ニ居住スル山林所有者ニシテ自ラ組合ニ關スル權利義務ヲ行フコトヲ得サル事情アル者ハ山林所在地ニ代理人ヲ置キ其人名ヲ組合長ヘ届出ヘシ

第六條 組合區域内ニ山林ヲ所有スル者ハ員外ニ屬スルモノト雖第八條第八ノ發火蟲害ノ豫防方法ニ付テハ其山林所在地ノ組合規約ヲ遵守スヘシ

第七條 組合ニハ組合長及山林取締人ヲ置クヘシ
但其人姓名ハ所轄郡役所ヘ届出ヘシ

第八條 組合規約ニ掲クヘキ事項ノ概目左ノ如シ

- 一 組合ノ名稱及事務所位置
- 二 組合ノ目的
- 三 組合市町村名字又ハ區劃
- 四 用材薪炭木輪伐ノ方法
- 五 伐木シタル跡地又ハ荒蕪ノ山野ニ植樹ノ方法
- 六 種苗植樹副產物改良等ノ方法

- 七 水源涵養土砂扞止風潮除等國土保安林及魚寄林保護ノ方法
 - 八 發火、盜伐、蟲害等ノ豫防方法
 - 九 役員ノ撰舉方法及其權限
 - 十 會議ニ關スル規定
 - 十一 組合員出入ニ關スル手續
 - 十二 費用ノ徵收支出及賦課方法
 - 十三 違約者處分方法
- 右ノ外組合ニ於テ必要ト認ムル事項
- 第九條 組合ハ規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立又ハ合併セントスルトキハ當廳ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十條 組合事務所ニハ組合ノ人員并植字反別伐採反別等ヲ記載シタル帳簿ヲ備ヘ置クヘシ
- 第十一條 組合長ハ組合ノ收支豫算決算其他組合會員決議事項ノ要領ヲ記シ毎年四月限リ所轄郡役所ヘ報告スヘシ
- 第十二條 第四條ニ依リ組合員タルヘキ者ニシテ其組合ヘ加入スルコトヲ拒ミ又ハ山林所有者ニシテ第六條ニ違背シタル者ハ貳圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 従前山林組合準則ニ據リ設立セシ山林組合ニシテ其區域ニ依リ存續セントスルモノハ本則第三條ノ手續ヲ爲スヲ要セス直ニ其組合會ニ於テ規約ヲ議定シ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條 本組合規則ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス

●縣令第五十六號 (明治三十一年十月二十六日)

森林法第十條保安林編入解除申請手續左ノ通相定ム

保安林編入解除申請手續

第一條 保安林ノ編入解除ヲ申請セントスル者ハ別紙第一號様式ノ申請書ヲ調製シ其地籍所在ノ町村長郡長若クハ市長ヲ經由シテ縣知事ニ差出スヘシ

申請地ノ利害關係ニ町村以上又ハ二郡市以上ニ涉ルトキハ其所轄各町村長各郡市長ヲ經由スヘシ

第二條 前條ノ申請書ニハ左ノ書類並ニ圖面ヲ添付スヘシ

- 一 保安林編入ノ申請書ニハ別紙第二號様式ノ保安林編入調査及地圖
- 二 保安林解除ノ申請書ニハ別紙第三號様式ノ理由書及地圖

第三條 第一條ノ申請書ニシテ郡市ノ申請ニ係ルトキハ直ニ縣知事ニ差出シ町村ノ申請ニ係ルトキハ郡長ヲ經由シテ縣知事ニ差出スヘシ

第一號樣式

保安林編入(解除)申請書

縣郡市町村大字字地番(全反別ナルトキノ例)

一 林何町反畝步

所有者住所氏名(御料林ナルトキノ御料國有林ナルトキノ國有ト記スヘシ)

縣郡市町村大字字番地

林何町反畝步ノ内(米書)(内反別ナルトキノ例)

所有者住所氏名(同上)

右者別紙調書ノ理由ニ依リ(保安林ニ編入)(從來保安林ニ有之候處別紙理由書ノ通ニ付解除)相成度此段及申請候也

住所

申請者 氏

名 印

年 月 日

縣知事 某殿

第二號樣式

保安林編入調書

一 國郡市町村大字字地番地目

二 所有者住所氏名(御料林ナルトキノ御料國有林ナルトキノ國有ト記スヘシ)

三 全筆面積及土地畧帳地價(御料林又ハ國有林ナルトキノ地價ヲ記入セス)

四 編入面積

五 境界

六 樹竹種(主ナル種名ヲ記スヘシ)

七 樹竹齡

八 疎密

九 保安林種類

十 關係區域(直接利害ノ關係ヲ有スル郡市町村名ヲ記スヘシ)

十一 編入ヲ要スル理由

(附屬圖式畧ス)

第三號樣式

保安林解除理由書

一 編入年月日

二 國有市町村大字字地番地目

三 所有者住所氏名(御料林ナルトキノ御料國有林ナルトキノ國有ト記スヘシ)

- 四 全面積(保安林ノ全面積ヲ配スヘシ)
- 五 解除面積
- 六 境界
- 七 樹竹種(主ナル種名ヲ記スヘシ)
- 八 關係區域(直接利害ノ關係ヲ有スル郡市町村名ヲ記スヘシ)
- 九 解除ヲ要スル理由

(附屬圖式容)

●告示第百三十一號 (明治三十年十二月二十八日)

本縣下ニ於ケル從來ノ風致林及禁伐林ハ別冊之通

但別冊ハ郡市役所町村役場ニ配付ス

(別冊ハ省ク)

●縣令第三十七號 (明治三十二年七月一日)

明治三十一年二月二十五日縣令第十七號森林開墾出願手續自今左ノ通り改正ス

森林開墾出願手續

第一條 森林法第六條ニ依リ森林ヲ開墾セントスルモノハ第一號様式願書ニ第二號離形ノ圖面ヲ

添付シ市役所又ハ町村役場へ差出スヘシ

第二條 市町村長第一條ノ願書ヲ受ケタルトキハ其目的箇所ノ地籍、地目、地番、反別、及所有者等ヲ公簿ニ照合シ圖面ノ正否及實地ノ景况森林法第八條ノ各號ニ關係ノ有無ヲ調査シ第三號様式調書ヲ添付シ町村長ハ郡長ニ郡市長ハ意見ヲ付シテ知事ニ差出スヘシ

第一號様式

森林開墾願

何郡(市)何町(村)大字字地番

一 山林反別何反歩

立木種類(無立木ナレバ其旨ヲ配ス)

右地所(田)(畑)(燒畑)(宅地)ニ開墾致度候間御許可相成度圖面相添此段相願候也

右

年月日

知事宛

何ノ誰

(第二號離形零)

第三號様式

實況調書

何郡(市)何町(村)大字地番

一 山林反別何反歩

一 地 質 何々

一 地 勢 山岳、平坦又ハ傾斜地等ノ別及河川、溝渠、池沼等ノ状態

一 林 况 立木ノ種類、樹齡、疎密(無立木ナレハ其旨ヲ記ス)

一 利 害 法第八條ノ各號ニ關係ノ有無(各號ニ就キ詳記スヘシ)

右之通候也

年 月 日

市町村長 氏

名 印

●縣令第三十二號

(明治三十一年四月二十六日)

森林法施行細則第一條ニ依リ森林内ニ火入ノ許可ヲ警察官ニ請ハントスルモノハ願書ニ地名地番反別、境界及延焼豫防法防火線ニ依ルモノハ其幅員及構造人力ヲ詳記シ圖面ヲ添ヘ所轄警察署ヘ差出スヘシニ依ルモノハ人員ノ配置及消防具等

●告示第八十號

(明治三十一年六月八日)

御料林ニ接續スル民林ヲ伐採セントスルトキハ着手以前伐採者ヨリ所轄御料局静岡支廳出張所ヘ

其旨届出ツヘシ

第八章 銀行會社

●甲第三十八號

(明治二十六年十一月二十一日)

郡役所 市役所 町村役場

銀行並ニ貯蓄銀行出張所代理店ニ關スル取扱手續左ノ通り心得可シ

- 一 銀行又ハ貯蓄銀行ニ於テ出張所其他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ハラズ一定ノ場所ヲ設ケ銀行又ハ貯蓄銀行事業ノ全部若クハ其一部ヲ營ムトキハ其場所ヲ支店ト見做シ貯蓄銀行ニ在リテハ之ヲ設置スルノ認可ヲ得タル上ニ開業期日及印鑑ヲ銀行ニ在リテハ其名稱營業所開業期日及印鑑ヲ主務大臣宛届出ノ手續ヲ爲サシムヘシ(三十年甲第十八號ヲ以テ改正)

- 一 貯蓄銀行ニ於テ代理店ヲ置クトキハ契約書ヲ添ヘ主務大臣ヘ届出ノ手續ヲ爲サシムヘシ

●甲第十九號

(明治二十七年六月十日)

郡役所 市役所 町村役場

自今銀行事業ヲ營ム會社ヨリ差出ス資本増減ノ認可申請書ニハ資本増減ノ理由及ヒ其拂込拂戻ノ期日方法等總會ノ決議案ヲ具シタル参考書ヲ添付セシムヘシ

但各人ハ申請書ニ増減ノ理由ヲ記載セシムヘシ

第九章 度量衡

●縣令第二十八號

(明治三十二年六月十日)

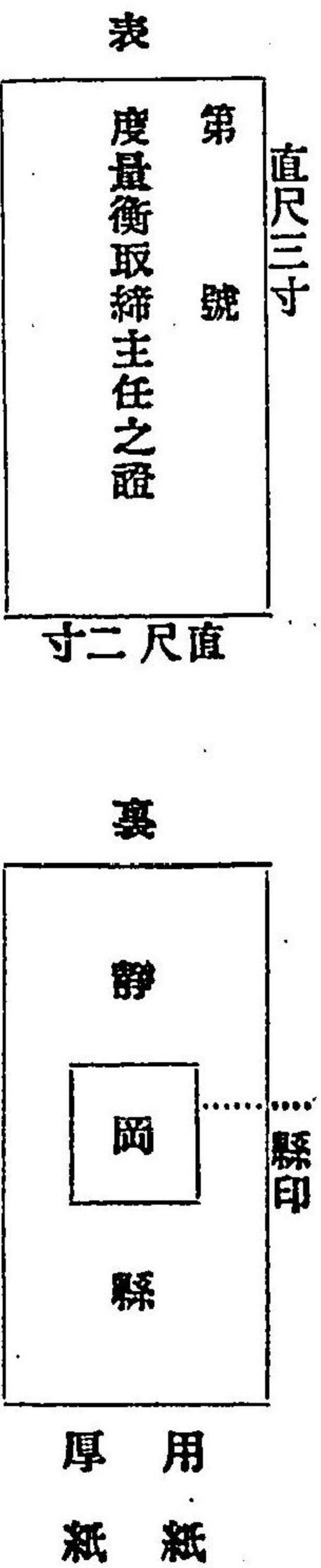
明治二十八年三月縣令第二十號度量衡取締規則左ノ通改正ス

度量衡取締規則

第一條 此規則ニ於テ營業者ト稱スルハ度量衡法ニ依リ免許ヲ受ケタル度量衡器ノ製作者修覆者及販賣者ヲ謂ヒ使用者ト稱スルハ度量衡器ヲ營業ノ目的ニ使用スルモノ及度量衡法第九條第四項ニ該當スルモノヲ謂フ

第二條 度量衡器ノ取締ハ度量衡檢定官吏警察官吏及市町村長ヲシテ之ヲ行ハシム

第三條 檢定官吏及市町村長取締ノ爲メ營業者及使用者ニ就キ臨檢ヲ爲ストキハ左ノ證票ヲ携帶セシム



第四條 營業者ハ其營業ノ種類及氏名ヲ記載シタル標札ヲ營業所ノ戶外ニ掲クヘシ

第五條 營業者免許狀受領ノ日ヨリ六十日以内ニ開業セサルカ若クハ三十日以上休業スルトキハ届出ヘシ

第六條 度量衡法施行規則第四十一條ニ依リ桿秤ノ取締錘系ニシテ金屬ニアラサルモノハ左ノ事項ヲ具シ届出ヘシ

- 一 修覆場ノ位置
- 一 秤架ノ種類及個數
- 一 分銅ノ種類及個數
- 一 開業ノ年月日

營業ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ届出ヘシ

第七條 前條ニ依リ桿秤ノ取締及錘系ノ修覆ヲ爲シタルトキハ少クトモ其直点盛出并感量ヲ檢スヘシ

第八條 度量衡法施行規則第四十三條ノ届書ニハ所有者ノ職業住所氏名桿秤ノ物質秤量記號年號番號及差狂ト認ムル廉ヲ詳記スヘシ

第九條 營業者ハ其營業ニ係ル帳簿ヲ備ヘ置キ製作修覆輸入買入若クハ販賣シタル度量衡器ノ形

狀物質種類個數價格及年月日ヲ記載スヘシ但買入ニ係ルモノハ其製作者又ハ輸入販賣者ノ住所氏名ヲ附記シ其販賣ニ係ルモノハ販賣者ニ販賣シタルモノト使用者ニ販賣シタルモノトヲ區別シ販賣者ニ販賣シタルモノハ其販賣者ノ住所氏名ヲ附記スヘシ

第十條 營業者ハ第一號様式ニ依リ前年四月一日ヨリ其年三月三十一日ニ至ル一ケ年間ノ營業實況表ヲ調製シ毎年四月十五日迄ニ當廳ニ報告スヘシ但桿秤ノ取締及錘糸ヲ修覆シタル個數ハ別ニ之ヲ取調營業實況表ニ添付スヘシ

第十一條 度量衡器ノ差狂アルモノ并度量衡器ニ類似ノモノハ營業者ハ販賣所ニ使用者ハ營業所ニ置クヘカラス(三十四年縣令第四十號ヲ以テ改正)

第十二條 度量衡器ニ類似ノ器物ハ之ヲ販賣シ若クハ營業ノ目的ニ使用スヘカラス(全上)

第十三條 使用者ハ第二號様式ニ依リ其使用スル度量衡器ノ形狀物質種類秤量及個數ヲ毎年一月十五日迄ニ其使用ノ個數ニ増減ヲ生シ又ハ他ノ市町村ニ轉住シタルトキハ十日以内ニ市役所又ハ町村役場ニ届出ヘシ但官廳公署官立公立ノ諸建設場ニ係ルモノハ此限ニアラス

第十四條 當該吏員ニ於テ臨檢ノ際差狂アリト認め其販賣使用ヲ停止シ若クハ檢定ヲ受クシメ又ハ修覆ヲ命シタルトキハ所有者又ハ使用者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 修覆者ハ正當ノ理由ヲシテ修覆ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條 第十二條第十五條ニ違背シタルモノハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第十一條第十四條ニ違背シタルモノハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十八條 使用者ハ明治三十二年七月末日現在使用ノ度量衡器ヲ同年八月十五日限り本則第十三條ニ依リ市役所又ハ町村役場ニ届出ヘシ

第十九條 本則第十二條外國式度量衡器ニ關スル規定ハ明治三十二年八月三十一日マテ之ヲ適用セス

様式第二號 (用紙左束)

度量衡器御届

使用	器	形	狀	物	質	種	類	秤	量	個	數
度	器	直	形	竹	鯨	尺	何	尺	何	個	個
全	何	形	何		何	尺			全		
量	器	方	形	槍(穀又ハ水量)	何	升			全		
全	圓	形	何	(全)	何	升			全		
斗	概				大				全		

全	分	全	秤	全	全	全	全	合
	銅							計
	圓							
	環							
	形							
	眞							
	銖							
	中							
	又							
	ハ							
	小							
	何							
	夕							
	何							
	夕							
	何							
	夕							
	何							
	貫							
	全							
	全							
	全							
	全							
	全							
	全							

右使用ノ度量衡器及御届候也

年月日

市長(町村長)宛

郡市町村大字番地 職業氏

名印

様式第壹號

(用紙美濃)

自明治何年何月何日 度量衡器製作(修復)(輸入)(仕入)(販賣)營業實況表
至明治何年何月何日

住 所 何器製作(修復)(輸入)(販賣)者 氏 名

種 別	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	計			
											本邦系	メトリル系	仕入	卸賣
種類	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	個數	代價	個數	代價
											個數	代價	個數	代價
種類	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	何尺何寸何分何厘	個數	代價	個數	代價
											個數	代價	個數	代價

農園工 度量衡

九百四十五

九百四十四

製作者ニシテ修覆シタルトキ又ハ輸入シタルトキハ製作個數ノ欄下ニ同様ノ欄ヲ増設シ其個數ヲ記入スヘシ

記入ノ要ナキ欄ハ削除スヘシ

他府縣ヨリ仕入ヲナスモノ及他府縣へ御賣ヲナスモノハ終尾ニ備考欄ヲ設ケ其府縣名ヲ記載スヘシ

各器毎ニ別表ニスヘシ

●告示第五十九號 (明治二十五年十二月二十八日)

明治二十四年八月農商務省令第十一號度量衡施行規則第一條ニ據リ常置檢定所ヲ本縣廳内ニ設置ス

●告示第八十一號 (明治三十年八月六日)

明治三十年七月農商務省令第十一號度量衡法施行規則第一條ニ據リ常置檢定所ヲ濱名郡濱松町濱名郡役所内ニ設置ス

●甲第十二號 (明治三十二年六月十日)

警察部 郡役所 警察署 警察分署 市役所 町村役場

度量衡取締規則施行手續左ノ通り相定ム

度量衡取締規則施行手續

第一條 檢定官吏ハ毎年一回以上營業者及使用者ニ就キ度量衡器ノ臨檢ヲナスヘシ

第二條 警察官吏及市町村長ハ常ニ其部内ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲ爲シ毎年一回以上營業者及使用者ニ就キ臨檢ヲ行ヒ其臨檢了リタル後十五日以内ニ様式第一號及第二號ニ依リ知事ニ報告スヘシ

第三條 檢定官吏警察官吏及市町村長營業者若クハ使用者ニ就キ臨檢スルトキハ左ノ事項ヲ觀察スヘシ

營業者ニ就キ臨檢シタルトキ

一 設計實施ノ狀況

(イ)製作場修覆場又ハ販賣所ノ位置構造ニ變更シタル個所ノ有無

(ロ)資本金額異動ノ有無

(ハ)製作修覆ニ使用スヘキ技師職工ノ員數及其職業別并ニ諸器械ノ種類異動ノ有無

二 營業用帳簿ノ整否

三 製作修覆ニ用ユル材料及販賣品ノ良否

四 製作修覆原器保管上ノ良否

五 其他法律命令ニ違背ノ有無

使用者ニ就キ臨檢シタルトキ

一 度量衡器ノ證印證書ノ有無及汚染磨滅毀損等ニ依リ其證印證書ノ識別シ難キモノナキヤ否

度量器

一 一端若クハ兩端磨滅シテ全長ニ差ヲ生シタルモノナキヤ否

二 疊尺及鏡尺ノ接續部ニ緩ミヲ生シ全長ニ差ヲ生シタルモノナキヤ否

三 目盛全長ノ表記磨滅シタルモノナキヤ否

四 構造ニ異狀ヲ生シタルモノナキヤ否

量器

一 内面ニ糟糠其他容量ヲ減スヘキ物質ノ附着シタルモノナキヤ否

二 全量ノ表記磨滅シタルモノナキヤ否

三 斗概ノ撓撓シ若シクハ側面ニ凹凸ヲ生シタルモノナキヤ否

四 適法ノ斗概ヲ使用セルヤ否

五 構造ニ異狀ヲ生シタルモノナキヤ否

六 欠損又ハ磨滅等ニ依リ容量ニ差ヲ生シタルモノナキヤ否

衡器

一 桿ノ撓撓シタルモノナキヤ否

二 桿秤ノ取緒及錘糸ノ不正ナルモノナキヤ否

三 分銅ノ重量及錘糸若クハ増錘ノ掛量ニ差ヲ生シタルモノナキヤ否

四 指針ノ曲リタルモノ及睨ミノ一致セサルモノナキヤ否

五 秤量ノ表記及目盛ノ磨滅シタルモノナキヤ否

六 構造ニ異狀ヲ生シタルモノナキヤ否

第四條 臨檢ニ際シ前條各項ニ該當スルモノアルトキハ販賣又ハ使用ヲ停止シ其器物ハ速ニ檢定若クハ修覆ノ手續ヲナシメ其所有者ヨリ受書ヲ徴シ置クヘシ

第五條 犯則者ヲ發見シタルトキハ相當ノ手續ヲナシ左ノ事項ヲ報告スヘシ

- 一 犯則ノ事項ニシテ器物ニ關スルトキハ其器物ノ種類形狀物質及製作者ノ記號年號番號并ニ製作廳府縣
- 二 告發書ノ寫

第六條 市町村長ハ度量衡法施行規則第四十三條ノ届書ヲ受ケタルキハ直チニ其器ヲ檢査シ所有者ノ職業住所氏名并ニ器物ノ形狀物質種類記號年號番號及差狂ト認ムル点ヲ詳記シ當廳ヘ報告シ第四條第五條ノ手續ヲナスヘシ其所有者他市町村ニ係ルキハ速ニ當該市町村長ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル市町村長ハ第四條第五條ノ手續ヲナスヘシ

第七條 市町村長ハ度量衡器ノ原簿ヲ調製シ度量衡取締規則第十三條ノ届出ニ依リ毎年一月其市町村内ノ使用者ヲ調査シ其度量衡器ノ形狀物質種類秤量個數及使用者ノ職業住所氏名ヲ原簿ニ記載シ異同アル毎ニ是ヲ訂正スヘシ

第八條 市町村長ハ前條ノ原簿ニ依リ二月一日現在ヲ調査シ別紙第三號様式ニ依リ毎年二月二十八日迄ニ當廳ニ報告スヘシ

但町村長ヨリノ報告ハ郡役所ヲ經由スヘシ

第九條 檢定主任ノ證票ヲ毀損若クハ紛失シタルトキハ其事由ヲ具シ速ニ引換又ハ再交附ヲ請求スヘシ

第十條 警察官吏及市町村長ハ差狂其他偽造變造ノ疑アル度量衡器ヲ發見シタルトキハ之ヲ檢定所ニ差出シ其鑑定ヲ請求スルコトヲ得

第十一條 警察官吏及市町村長ハ度量衡取締ニ關シ檢定官吏ノ出張ヲ必要ト認ムルトキハ其事由ヲ具シ申請スルコトヲ得

附 則

第十二條 第八條ノ報告ハ明治三十二年ニ限リ九月一日現在ヲ調査シ九月三十日マテニ報告スヘシ

シ

第十三條 明治二十八年^{三月}甲第三號度量衡取締心得ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス
様式第一號

明治何年何月何日度(量)(衡)(營業者臨檢報告

住 所

度量衡器製作(修覆)(輸入)(販賣)者 氏 名

名

- 一 設計實施ノ狀況
 - 二 營業用帳簿ノ整否
 - 三 販賣器物ノ正否
 - 四 製作修覆ニ用ユル材料ノ良否
 - 五 製作者修覆者原器保管ノ良否
 - 六 違法ノ有無(違法ノ所爲アリタルトキハ其事項ヲ詳記スヘシ)
 - 七 其他必要ト認ムル事項
- 右 及 報 告 候 也

年 月 日

知 事 宛

官 職 氏

名 印

(一、三樣式省略)

訓令甲第二十八號

(明治三十五年十月三十一日)

市役所 町村役場

明治三十二年六月縣令第二十八號度量衡取締規則施行手續第七條ニ依リ市町村役場ニ於テ備フヘキ度量衡使用者臺帳樣式別紙之通相定ム

樣式

斗概	量器	度器	種別		種	類	秤	量	箇	數	事	由	
			形	狀									質
圓 壺 形	圓 錐 形	鏈 帶 狀	直 角 形	直 角 形	直 尺 尺	曲 尺 尺	又ハ 「メ トル」	何 箇	何 箇	何 箇	何 箇	何 箇	
			骨、竹、木	金屬、象牙									又ハ 尺
			革、麻布	金屬、鐵葉									又ハ 「メ トル」
大、	金 屬、 鐵 葉	骨、 象牙、 木	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」	何 箇	何 箇	何 箇	何 箇	何 箇	何 箇	
													又ハ 「メ トル」
中、	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」	何 箇	何 箇	何 箇	何 箇	何 箇	何 箇	
小、	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」	何 箇	何 箇	何 箇	何 箇	何 箇	何 箇	

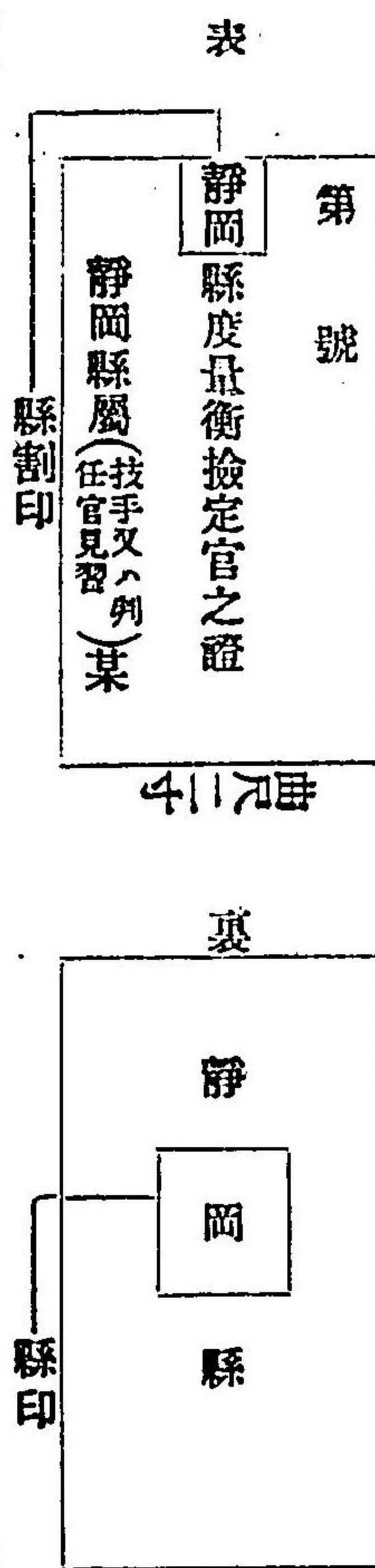
秤	分銅		
	圓 壺 形	方 壺 形	圓 錐 形
金 屬	鐵、 銅、 白銅	アル ミニ ウム、 真 鍍	又ハ 「メ トル」
骨、 象牙、 木	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」	又ハ 「メ トル」
天 秤	臺 秤	桿 秤	又ハ 「メ トル」
何 箇	何 箇	何 箇	何 箇

備考

- 一 量器ノ種類欄ニハ水量及穀量ノ區別ヲ記スヘシ
- 一 事由欄ニハ使用者ノ届出年月日ヲ記入スヘシ

●告示第十二號 (明治二十六年二月二十二日)

度量衡取締規則ニ依リ臨檢スル檢定員及取締員ノ携帶スヘキ證票ハ左ノ如シ



農商工 度量衡

紙製 曲尺三寸

第 號

表 靜岡縣度量衡取締員之證

何郡何市町村長某

411 25

裏

靜

岡

縣

縣割印

縣印

●告示第七十七號

(明治二十九年十二月二十三日)

度量衡法施行規則第三十八條ニ據リ當廳ニ納入スヘキ身元保證金預ケ入レ銀行左ノ通指定ス

賀茂郡下田町	株式會社下田銀行	賀茂郡松崎村	合資會社松崎銀行
田方郡三島町	株式會社伊豆銀行	田方郡三嶋町	株式會社三島銀行
駿東郡沼津町	沼津銀行	駿東郡沼津町	御厨銀行
富士郡吉原町	吉原銀行	富士郡大宮町	大宮銀行
安倍郡清水町	清水銀行	靜岡市吳服町	三十五銀行 <small>(明治三十年告示第七十七號ヲ以テ更正)</small>
靜岡市吳服町	靜岡銀行	全 市兩替町	靜岡實業銀行
全 市馬場町	安倍銀行	志太郡藤枝町	藤枝銀行
志太郡藤枝町	共盛銀行	全 郡島田町	島田銀行

榛原郡川崎町	全	東遠銀行	榛原郡相良町	全	相良銀行
小笠郡掛川町	全	掛川銀行	小笠郡南山村	全	南山銀行
全 郡西方村	全	堀ノ内銀行	全郡大須賀村	全	橫須賀銀行
周智郡森町	全	森町銀行	磐田郡見付町	全	中遠銀行
磐田郡二俣町	全	百井八銀行 <small>(明治三十一年告示第八號ヲ以テ更正)</small>	全 郡山名町	全	袋井銀行
濱名郡濱松町	全	西遠銀行	濱名郡濱松町	全	濱松銀行
全 郡全 町	全	資産銀行	引佐郡氣賀町	全	氣賀銀行 <small>(明治三十一年告示第八號ヲ以テ並井銀行ヲ除ク)</small>

●甲第九號

(明年三十二年四月六日)

警察部 郡役所 警察署 警察分署 市役所 町村役場

度量衡取締ノ重要ナルハ各法律命令ニ依リ知悉セラル、處第一期定期檢定モ既ニ終了セル今日營業上有効ニ使用シ得ヘキ度量衡器ハ「改」又ハ「定」ノ檢印ヲ附シタルモノナラサルヘカラス假令官廳公署官立公立ノ諸建設場又ハ貧院病院等ニ於テ賣買授受若クハ證明ノ爲メニ使用スルモノト雖モ右檢印ナキモノハ之ヲ使用スルコトヲ得ス犯スモノハ夫々制裁ヲ加フルノ規定アルヲ以テ明治三十二年六月縣令第二十八號及甲第十二號ニ依リ營業者及使用者ニ就キ一層取締ヲ嚴密ニスヘシ

第十章 博覽會等

●告示第五十六號 (明治十七年三月五日)

内外博覽會及ヒ共進會ニ於テ授與ノ褒證水火盜難ニ罹リ失ヒタル者ヨリ請求候節ハ證明狀附與可相成候條右等事故有之候ハ、其失ヒタル事由及年月日取調願出ツヘシ此旨告示候事

但本縣ヨリ下渡候褒證モ本文ニ準スヘシ

○甲第七十九號 (明治十九年七月一日)

博覽會共進會其他之ニ類似ノ會ヲ開設セントスルトキハ開會前該會規則相添届出尙閉會後直チニ左ノ書式ニ準シ其景况ヲ報告スヘシ
右布達ス

何會報告書

會場地名	國郡町村名
會名	何博覽會何共進會ト記スヘシ譬ヘハ水産博覽會蕪茶共進會品評會ト記スヘシ
會主	何郡役所何戶長役場或ハ何町村或ハ何某
開場	何月何日

褒賞授與式	何月何日
閉場	何月何日
出品區域	何郡又ハ何町村或聯合
出品人員	何人
出品員數	若干
出品總價	何圓錢
出品種類	農産水産或ハ陶器漆器織物等成ルヘク詳細ニ記スヘシ且農産水産ハ其物品ヲ詳細ニ記スヘシ
出品賣數	若干
出品賣價總額	何圓錢
褒賞總人員	何人
褒賞等級別	一等人二人三等人褒狀何人追償何人功勞賞何人協贊賞何人
褒賞々與物件	杯或ハ何物品或ハ金圓(譬ヘハ一等物品或ハ金何圓二等何々)等成ルヘク詳細ニ記スヘシ
來觀人員	何人

通券價格 何錢(日曜日平日等ノ區別アレハ各別ニ記スヘシ)

通券收額 何圓錢

會費總額 何圓錢

會費區別 町村費何圓通券料何圓或ハ鹽金義損金等成ルヘク詳細ニ記スヘシ

本會景况 (譬ヘハ特殊發見ノ鑛物或ハ有用動植物ノ近來生殖セルモノ或ハ陶漆器織物其

他製作品ノ著ルシク改良進歩セシモノ或ハ從來其地ニナクシテ新ニ製作移植セ

シモノ或ハ輸入品ニ代用スヘキモノ或ハ將來輸出ノ目的アルモノ或ハ近年輸出

ノ緒ニ就キシモノ等都テ工藝品農產物水產物ニ關シ會場ノ景况ハ勿論後來ニ希

圖スル意見及一般人民ノ意思傾向等成ルヘク詳密ニ記載シ且連年開設ノモノハ

前年ノ比較ヲ揭ケ又其損益及保續ノ目的等ヲ詳細記載スヘシ)

右報告候也

年月日

縣令宛

會主名

第十一章 氣象

●告示第三十三號

(明治三十年四月二十七日)

靜岡縣 沼津 測候所 天氣豫報暴風警報轉報規程左ノ通相定ム

天氣豫報暴風警報轉報規程

第一條 天氣豫報暴風警報ノ轉報ヲ依頼セントスルモノハ此規程ニ依ルヘシ

第二條 天氣豫報ハ毎日午後五時前後ニ發スルモノニシテ其有効時間ハ凡ソ當日午後六時ヨリ翌

日午後六時迄トス

第三條 天氣豫報ノ事項ハ風向天氣及寒暖ノ三種トス

第四條 第三條寒暖ノ豫報ハ溫度ノ激變若クハ不時降霜等ノ虞アル時ニ發スルモノトス

第五條 暴風警報ハ本邦又ハ本邦近海ニ於テ暴風雨來ラントスルノ虞アル時ニ發シ天候平穩ニ復

セントスルトキ先ノ警戒ヲ解除ス

第六條 天氣豫報暴風警報ノ轉報ヲ依頼セントスルモノハ左ノ依頼書ニ電信料ヲ添ヘ沼津又ハ濱

松測候所ヘ差出スヘシ

轉報依頼書

一 利用ノ目的 農蠶漁魚航海等ノ類

一 轉報種別 天氣豫報(特ニ寒暖ノミナ依頼スルモ)

(ノハ寒暖豫報ト記載スヘシ)

暴風警報

- 一 轉報期限 何月何日ヨリ何月何日迄
 - 一 轉報ヲ受クヘキ電信局及地名 何郵便電信局
 - 一 配達ノ種別 別使又ハ何郵便局ヨリ郵送ノ類
 - 一 依頼者 何町村若クハ何組合ノ代表者又何町村何某
- 右轉報相成度及御依頼候也

年月日 住所氏 依頼者 名印

静岡縣沼津(濱松)測候所御中

第七條 電信料ハ切手ノ外一切受理セス

第八條 轉報電信料ハ左ノ額ヲ要ス

- 一 天氣豫報 一日分一音信料
- 一 暴風警報 但寒波豫報ノミナルトキ亦一音信料ヲ要ス(午後十時後ナルトキハ二音信料)

第九條 臨時必要ノ場合ニ於テ電信ヲ以テ天氣寒暖風力等ノ模様ヲ尋問セントスル者ハ轉報料トシテ返信料前納電報ニヨリテ一音信料ヲ納付スヘシ但シ午後十時後ハ二音信料ヲ要ス

第十條 別使又ハ郵便配達ヲ要スルトキハ第八條及第九條ノ外相當料金ニ對スル電信料ヲ併納スヘシ

第十一條 第八條及第十條ノ電信料ハ豫メ其測候所へ前納シ置クモノトス

第十二條 轉報電報ノ符號ハ測候所ヨリ豫メ依頼者ニ通知スヘシ

第十三條 本規程ハ明治三十年四月二十七日ヨリ施行ス

●告示第二百四十五號 (明治十七年十二月十三日)

當管下駿河國庵原郡清水町受新田二百十八番地ニ於テ暴風標ヲ建設シ明治十七年十二月二十日ヨリ暴風警報ノアル毎ニ信號ヲ揭示ス

●告示第五號 (明治十九年一月十日)

當管下遠江國長上郡掛塚村字元八丁ニ於テ暴風標ヲ建設シ明治十九年一月十五日ヨリ暴風警報アル毎ニ信號ヲ揭示ス

●告示第一百五號 (明治三十四年五月二十四日)

來ル六月一日ヨリ左記ノ箇所ニ於テ暴風警報及天氣豫報ヲ開始ス
但駿東郡楊原村牛臥山上ニ設置ノ分ハ暴風警報ノミトス

一 静岡市舊城内

東經百三十八度二十二分

北緯三十四度五十八分甲圖中 ノ場所

一 濱松町大字高

東經百三十七度四十三分

北緯三十四度四十三分乙圖中 ノ場所

一 駿東郡楊原村牛臥山上

東經百三十八度五十二分

北緯三十五度四分丙圖中 ノ場所

●告示第三百三十八號

(明治三十四年八月二日)

左記ノ箇所ニ暴風警報標ヲ設置シ來ル八月十日ヨリ開始ノ儀許可シタリ

静岡縣田方郡三嶋町字小中嶋田方郡役所構内

一 静岡縣田方郡三島町字小中島

信號標位置

東經百三十八度五十五分二十七秒

北緯三十五度七分二十八秒

第十二章

雜

●縣令第二十八號

(明治三十四年三月二十九日)

物産陳列場補助規程左ノ通り定ム

物産陳列場補助規程

第一條 本縣産業ノ改良發達ヲ計ルノ目的ヲ以テ縣下農産物工産物水産物林産物及内外各國ノ商
品標本ヲ陳列シテ公衆ノ縦覽ニ供スル爲メ郡市町村及公共團體ニ於テ物産陳列場ヲ建設スルト
キハ縣費ヲ以テ其費用ヲ補助ス

第二條 物産陳列場ノ建設費ハ金參千圓以上タルヘシ

第三條 物産陳列場ハ一郡市内一ヶ所ヲ限ルモノトス

第四條 補助スヘキ金額ハ建設費ノ三分ノ一以内トス

第五條 補助金ノ下付ヲ受ケントスルモノハ左記事項ヲ詳細ニ記載シタル願書ヲ四月三十日迄ニ
郡市役所ヲ經由シテ縣廳ニ差出スヘシ

一 組織及方法

二 名稱及位置

三 建築設計書並建設費豫算

四 工事着手及落成期日

五 經費豫算

其他參考トナルヘキ事項

第六條 前條出願事項ヲ變更セントスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 補助金ハ建築工事進行ノ程度ヲ臨檢シタル上六月十五日十二月十五日ノ二回ニ於テ補助金ノ三分ノ一宛テ下付シ工事落成ノ上殘額ヲ下付ス

第八條 知事ハ必要ト認ムルトキハ其組織ニ變更ヲ命シ又ハ出願事項ト相違ノ廉アルヲ發見シタルトキハ之カ更改ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 前條ノ命令ニ應セザルトキハ補助金ノ下付ヲ取消シ又ハ遞減スルコトアルヘシ

●諭達 (明治十八年六月二十七日)

世の中に飢饉はと恐るべきものはあらず今をさる五十年前天保七年國內皆凶作にて終に飢饉となり餓死せしもの諸國に夥しく其甚しき村々にては一村擧げ死盡して人烟全く絶し處さへあり然るに平生の心掛等閑おらずして夫々の貯蓄ありし國々町村に於ては一人の餓死も亦く樂處に異ならざる處ありしとかや其飢饉の流行は古今の別なく人間の免れ難き災厄にして我御國にては崇神天皇六年より仁孝天皇の天保七年まで其年間千九百年餘凡そ四十度許りの飢饉あり古しへは人々質朴にして天を畏れ人事を盡し用意に怠らざりし故甚しき慘狀は見ざりし由後世に至りては

古への如くおらざる故にや享保天明天保の飢饉の節には一揆騒動さへも起り加之疫病等行れてはかき死を遂しもの極めて多かりき是れ畢竟平生の油断より生ぜしものなり豈淺ましき事ならずや近來諸國風雨洪水の災殃しげく氣候も亦順ならず或は天明天保度の凶作前の時候に似たるか如し實に油断すへからざる時節あり於茲町村各自能く其職業を勤め儉約を守り貯蓄の方法を講究し豫しめ飢饉の手當を備ふへし努々等閑に付すること勿れ

●號外 (明治十七年七月二十八日) 各 郡

本邦ノ繪事近年衰頽シ近世ニ至テハ妙技殆ント地ニ墜ントスルヲ患ヒ政府ニ於テハ既ニ第二回繪畫共進會ヲ開設シ大ニ其振興ヲ計畫セラル抑モ繪畫ハ美術ノ本分ニシテ陶器漆器其他凡百ノ工藝其間按裝飾一モ此技ニ依ラサルハナシ故ニ苟モ工藝ノ進歩ヲ希圖スルモノハ此道ヲ獎勵セサルヘカラサルナリ依テ各郡ニ於テハ厚ク注意ヲ加ヘ便宜方按テ以テ從來ノ畫工ヲシテ振起セシメ隨テ後進ヲ誘導獎勵スヘシ

●縣令第七號 (明治三十二年三月一日)

他人ノ堀採セル鑛物ヲ買入レ製煉スル者又ハ砂鑛ヲ製煉スル者ハ左ノ書式ニ依リ一箇年ノ工程ヲ取調ヘ翌年二月限り當廳ヘ報告スヘシ但明治二十七年三月縣令第十八號ハ廢止ス

(書式省略)

第九編 遞信

第一章 船舶

●告示第四十四號 (明治三十年五月二十六日)

船舶検査法ニ依リ當廳ノ検査ヲ受クヘキ船舶ノ検査執行地ヲ定ムルコト左ノ如シ

駿東郡沼津狩野川岸 安倍郡清水港

●郡第十九號 (明治二十九年十二月二十五日)

郡役所

船鑑札取扱手續左ノ通相定ム

船鑑札取扱手續

- 第一條 郡役所ハ船鑑札帳簿ヲ備置キ船鑑札規則ニ據リ鑑札ヲ受有スル船舶ノ件名船鑑札ノ番號及其ノ下付書換再授若ハ返納ノ年月日並ニ事由ヲ記載スヘシ
- 第二條 郡役所ニ於テ船鑑札規則第二條ニ據リ件名書ヲ受理シタルトキハ其船舶ニ就キ尺度及積量測度規則ニ從ヒ之ヲ審査スヘシ
- 船鑑札ニ記載シタル尺度積量ニ變更ヲ生シ其書換ヲ申請シタルトキハ郡役所ハ之ヲ審査シ必要

ト認ムル場合ニハ其船舶ニ臨檢スヘシ

第三條 船鑑札ニ記載スル長幅深總噸數登簿噸數ハ單位以下二位ヲ以テ限トス但長幅及深ハ尺ヲ以テ單位トス

第四條 船鑑札規則第五條第二項ニ據リ件名書ノ證明ヲ申請シタルトキハ郡役所ハ之ヲ船鑑札帳簿ニ照寫シ誤謬ナシト認ムル場合ニハ件名書ニ郡役所印ヲ捺シ之ヲ交付スヘシ

第五條 郡役所ハ毎年一月十日及七月十日迄ニ附録書式ニ從ヒ前六ヶ月間ノ船舶ノ異動ヲ當廳ニ報告スヘシ

書式

船舶報告書(明治三十年七月)

第一 新ニ船鑑札ヲ下付シタル船舶

西洋形船舶

船鑑札下付年月日	船鑑札下付事由(原名)	船名	主事務所	船質	搭載數	尺	度	總噸數	登簿噸數	製造地名	製造年月	造船工長氏名	所有者住所氏名
----------	-------------	----	------	----	-----	---	---	-----	------	------	------	--------	---------

計 艘

日本形船舶

船鑑札下付年月日	船鑑札下付事由	船名(原名)	定製所	檣數	積石數	製造地名	製造年月	造船長氏名	所有者住所氏名
計 艘									
第二 船鑑札ヲ書換ヘ下付シタル船舶									
船ノ種類	船名	船鑑札書換年月日	船鑑札書換事由	所有者氏名					
計 艘									
第三 船鑑札ヲ返納シタル船舶									
船ノ種類	船名	船鑑札返納年月日	船鑑札返納事由	所有者氏名					
計 艘									
備考									
一 船鑑札下付事由ノ欄内ニハ新造外國船購入若ハ管轄官廳ノ變更等船鑑札ヲ下付シタル原因ヲ記載シ且管轄官廳ノ變更ニ係ルトキハ舊管轄廳名ヲ記載スルヲ要ス									

一 船鑑札書換事由ノ欄内ニハ書換ニ係ル新舊船鑑札面ノ事項且所有者ノ變更ニ係ルトキハ新所有者ノ住所氏名ヲ記載スルヲ要ス

一 船鑑札ヲ再授スルニ當リ其ノ書換之ニ伴フトキハ第二表ニ編入スヘシ

一 船舶ノ製造地名製造年月若ハ製造工長氏名明ナラサルトキハ其欄内ニ不詳ト記載スヘシ

◎訓令甲第十六號 (明治三十五年六月二日)

警察署分署 市役所 町村役場

海技免狀ヲ受有スル者其職務ヲ行フニ當リ衝突乗揚觸礁等ノ海難ニ罹リタルトキハ當該船長ヨリ其他若クハ爾后始メテ到着シタル地ノ官署公署ニ届出ヲナシ之ヲ受理若クハ其事實ヲ認知シタル官吏公吏ハ當該海技免狀受有者及必要關係人ニ對シ事實ノ取調ヲナシ調書ヲ直ニ其船籍港ヲ管轄スル地方海員審判所理事官ニ送致スヘキ筋合ナルニ近來沿岸駐在警察官吏又ハ町村長ニ於テ海難ノ届出アルモ之ヲ受理シタル儘何等ノ取調ヲナサス又其事實ヲ認知スルモ何等ノ手續ヲナサ、ル向有之爲メニ審判所ハ海事局海務署ノ設置ナキ地方沿岸ニ於テ發生シタル海難事件ヲ認知スルノ機ヲ失シ偶々事件發生後月ヲ經テ船舶定期検査ノ際検査官ニ於テ之ヲ認知スルコトアルモ諸般ノ證據湮滅シテ審理スルニ由ナク結局當該海技免狀受有者ヲシテ不當ニ其懲戒ヲ免レシムル場合往々有之是ヲ等閑ニ付スルトキハ故意ニ届出ヲナサ、ルモノヲ増加スルノ虞アルノミナラス海員懲

戒法ノ精神ニ反シ船舶貨物旅客及海員ヲ保護スル所以ニアラサル儀ニ有之候條爾來縣下ニ於テ海難ニ罹リ若シハ他ヨリ到着シタル海難船舶ニシテ未タ取調ヲ受ケサルモノヲ認知シタルトキハ届出ノ有無ニ拘ハラズ進ンテ事實ノ取調ヲナシ其調書ヲ若シ取調ヲナスコト能ハサル事由アリタルトキハ其旨ヲ附記シ海難届書ヲ管轄地方海員審判所理事官ヘ送致スヘシ

●甲第四十二號 (明治十七年五月六日)

明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止事務左ノ浦役場ニ於テ爲取扱其證書用紙ハ同場ニ於テ定價ヲ以テ拂下ケ候條此旨布達候事

但明治十二年七月本縣甲第百五十八號及同年十二月甲第百二十三號布達ハ廢止ス

浦役場

- 一 伊豆國賀茂郡下田町 下田港
- 一 伊豆國賀茂郡網代村 網代港(十七年甲第百十號ヲ以テ追加)
- 一 伊豆國賀茂郡松崎村 松崎港(三十一年告示第四十號ヲ以テ追加)
- 一 伊豆國賀茂郡濱崎村 柿崎(全上告示第百三十號ヲ以テ追加)
- 一 駿河國有渡郡清水町 清水港
- 一 駿河國駿東郡靜浦村 江ノ浦港(三十一年告示第百十二號ヲ以テ追加)

- 一 駿河國益津郡城ノ腰村 燒津港
- 一 遠江國榛原郡靜波町 川崎港
- 一 遠江國榛原郡地頭方村 地頭方港
- 一 遠江國山名郡福田村 福田港
- 一 遠江國長上郡掛塚村 掛塚港(十九年甲第九號ヲ以テ追加)
- 一 遠江國敷知郡舞坂宿 濱名港

證書用紙定價

西洋形船海員雇入證書用紙	大形	一枚	金四錢
同	小形	同	金貳錢
同	雇止證書用紙	同	金貳錢

●號外 (明治十七年五月二十一日)

各 郡周知郡

日本形西洋形五十石未満并端船ヲ除ク難破及行方知レサル船舶ハ(難破船ハ遭難地及其近傍ノ粗圖相添ヘ)毎季別紙雛形ニ據リ取調上半季分ハ其年七月二十日下半季分ハ翌年一月二十日限リ届出ツヘシ此旨相達候事

但難破ノ次第積荷ノ摸様又ハ搜索ヲ要スル場合ニ於テハ其時々届出ツヘシ

(別紙離形容ス)

●甲第十號 (明治二十九年五月十日)

郡役所 市役所 警察署 町村役場

海難取調書中漁船ト和松若ハ漁船トノ衝突ニ關スル事項ヲ調査スルニ和松若ハ漁船ニ於テ成規ノ燈火ヲ標示セサルニヨリ此災害ヲ惹起スルモノ十中八九ニ居レリ元來衝突豫防法ハ此等ノ災害ヲ豫防セン爲メ制定セラレタルモノナルニ拘ラス和松若ハ漁船乗組員ニ在テハ往々該法ノ何タルヲ辨知セサルモノアリテ遂ニ船ヲ破損シ生命貨物ヲ亡失シ加之自己曲者トナリテ訴フル所ナキニ至ル寔ニ慨歎ニ堪ヘサル次第ニ付向後警察官又ハ町村長等ニ於テ右等營業者ニ對シ其業務上該法ノ遵守セサル可ラサル所以ヲ懇到諭告シ災害ヲ未然ニ防除セシムル様注意スヘシ

●告示第四十號 (明治二十五年七月二十二日)

凡ソ登簿噸數一百噸以上ノ内外國航船ヲ新造若クハ外國ヨリ買入タルモノアルトキハ海上運輸ニ係ル調査上必用ノ諸件ニ關シ海軍參謀部ニ於テ該船ニ臨檢調査候旨海軍大臣ヨリ達相來候條其旨心得ヘシ

但既ニ該調査ヲ了リタル船ト雖モ爾後其構造ヲ變更シタル等ノ場合ニ於テハ更ニ臨檢調査セ

ラルヘシ

●告示第三十二號

(明治二十九年五月一日)

明治二十五年七月告示第四十號海軍參謀部ニ於テ臨檢船ノ件ハ自今海軍軍令部ニ於テ臨檢調査可相成ニ付此旨各船主ヘ告示ス

●甲第十三號

(明治二十九年七月二十二日)

郡役所 市役所 町村役場

軍事上運輸ニ係ル必要ノ諸件調査ノ爲メ參謀本部員ヲ派遣シ各港ノ漁船ニ就キ實地調査セシムルコト可有之旨陸軍大臣ヨリ被達候條此旨豫メ各船主ニ達シ置クヘシ

●甲第一號

(明治二十四年一月二十日)

郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場

内外國艦船等危難ニ罹リタル節報告方左ノ通海軍大臣ヨリ達相成候條船會社及船主ハハ所屬町村役場ヨリ通達スヘシ

内外國艦船ニシテ本邦沿岸ニ於テ危難ニ罹リタルモノアルトキハ島廳郡區役所町村役場警察署等ヨリ電報ヲ以テ海軍省及該海軍區ノ鎮守府ニ報告スヘシ又軍艦其附近ニ在ルトキハ直ニ軍艦ニ報告スヘシ

船舶會社若クハ船主其所有ノ船舶危難ニ罹リタルトキハ該會社若クハ船主ヨリ電報ヲ以テ海軍省及該海軍區ノ鎮守府ニ報告シ又軍艦其附近ニ在ルトキハ直ニ軍艦ニ報告スヘシ
前兩項トモ海軍艦船ノ救護ヲ要スルニ及ハスト思考スルトキハ報告セサルモ妨ナキコト、心得ヘシ

第二章 海港及標識

●告示第七十九號 (明治三十年八月三日)

明治三十年七月勅令第二百四十號ニ依ル清水横濱稅關支署監視區域左記之通相定メ本月一日ヨリ事務開始候旨横濱稅關長ヨリ通牒アリ

清水横濱稅關支署監視區域

清水灣北與津川口ヨリ南出島出來烟ニ至ル一圓

●縣令第七十六號 (明治二十一年十二月十八日)

船舶繫留等ノ爲メ棧橋又ハ埠頭ニ標識ヲ設置若クハ變更セントスルトキハ左ノ書式ヲ具シ願出ヘク廢止スルトキハ其旨届出ヘシ
但從前設置ノ分モ本文ニ準シ更ニ願出ヘシ

一 標識設置ノ位置及其近傍ノ地圖

一 標識ノ圖面及其構造方法

●農第九百八十八號 (明治二十年十一月七日)

沿海郡役所

私設海路標識統計様式本年ヨリ左ノ雛形ニ倣ヒ調製シ翌年二月十日迄ニ當廳へ差出スヘシ

第一 明治何年分私設燈標統計表

何郡役所

燈標通號	何處何處	燈竿合計	維持費		合計	燈入高	入港船舶		守人	燈員
			給料	燈油代			修繕費	雜費		
合計										

第二 明治何年分私設燈標統計表

何郡役所

書標通號	給料修繕費雜費	維持費	合計	何處浮標	何處立標	何處陸標	何處海標	合計	入港船隻	日本形西洋形噸及石數各合計高	看人	守員

第十編 會計
第一章 國費

●五第一五九五號

(明治三十三年四月十六日)

國稅外諸收入收納取扱規程左ノ通改正シ明治三十三年度ヨリ施行ス

郡 役 所

國稅外諸收入收納取扱規程

第一條 郡役所ニ於テ收納スヘキ國稅外諸收入ハ率ヲ左ノ如シ

- 一 官有物貸下料
- 一 官有物拂下代
- 一 辨償金
- 一 返納金
- 一 雜入

第二條 郡役所ニ於テ收納スル國稅外諸收入金ハ總テ大藏省所管トシテ取扱フヘシ

第三條 郡長ヲ以テ歲入徵收官トシ諸收入ノ調定及收入ノ事務ヲ分任ス

第四條 歳入徴收官ハ諸收入調定元帳ヲ備ヘ該收入ヲ調定シ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外十五日以内ニ適宜納期日ヲ定メ各納人ニ對シ第一號書式ノ納入告知書ヲ發スヘシ

第五條 納入告知書ハ納人ヲシテ納金ヲ金庫ニ納付セシムルトキハ之ヲ添付セシムヘシ

第六條 歳入徴收官ハ納金ヲ其規限内ニ完納セサルモノアルトキハ直ニ督促シ尙ホ完納ニ至ラサルトキハ速ニ之レカ處分ノ意見ヲ知事ニ具申スヘシ

第七條 歳入徴收官ハ納入告知書ヲ調製シタルトキハ明治二十六年大藏省令第三十二號第十一號書式ノ徴收簿調定濟額ノ欄ニ其金額ヲ登記シ直ニ納人ニ交付スヘシ

第八條 歳入徴收官ハ金庫ヨリ領收濟ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ徴收簿收入濟額ノ欄ニ其金額ヲ登記スヘシ

第九條 歳入徴收官ハ徴收簿ニ依リ明治二十六年大藏省令第三十二號第四號書式甲ニ準シ徴收報告書ヲ調製シ第二號ノ調定濟額仕譯書並ニ收入未濟アル時ニ限り第三號書式ニ依リ收入未濟仕譯書ヲ添ヘ翌月五日迄ニ其地ヲ發シ之ヲ知事ニ送付スヘシ

第十條 歳入徴收官ノ徴收報告書ハ當月分ニ異動ナク單ニ前月迄ノ累計額ノミナルトキハ提出ニ及ハス其旨ヲ知事ニ報告スヘシ

第十一條 諸收入調定元帳其他事務整理上必要ナル帳簿ハ適宜ノ式ヲ以テ調製スヘシ

(書式ハ略ス)

●五第一五九五號ノ一

(明治三十三年四月十六日)

警 察 署 (附ク)

國稅外諸收入收納取扱規程左ノ通改正シ明治三十三年度ヨリ施行ス

國稅外諸收入收納取扱規程

第一條 警察署ニ於テ收納スヘキ國稅外諸收入ハ率チ左ノ如シ

一 罰金及科料

一 沒收金

一 辨償金

一 物品拂下代

第二條 警察署ニ於テ收納スル國稅外諸收入金ハ總テ大藏省所管トシテ取扱フヘシ

第三條 警察署長ヲ以テ歳入徴收官トシ諸收入ノ調定及收入ノ事務ヲ分任ス

第四條 歳入徴收官ハ諸收入調定元帳ヲ備ヘ該收入ヲ調定シタルトキハ明治二十六年大藏省令第三十二號第十一號書式ノ徴收簿調定濟額ノ欄ニ登記シ納人ニ對シテハ現金ヲ收入官吏ニ即納セシムヘシ

第五條 收入官吏ハ現金ヲ領收シタルハ明治二十六年大藏省令第三十二號第十四號書式ノ現金
 出納簿受入ノ欄ニ其金額ヲ登記シ領收證ヲ納人ニ交付シ領收簿ノ旨ヲ歲入徵收官ニ報告スヘシ

第六條 歲入徵收官ハ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ徵收簿徵收濟額ノ欄ニ其金額ヲ登記スヘシ

第七條 收入官吏ハ領收シタル現金ヲ毎日取纏メ明治二十六年大藏省令第三十二號第三號書式ノ
 現金拂込書ニ添ヘ翌日迄ニ之ヲ金庫ニ拂込ミ現金出納簿ニ拂出ノ記入ヲ爲スヘシ但收入金額五
 拾圓未滿ナルトキハ一ヶ月取纏メ金庫ニ拂込ムコトヲ得

第八條 歲入徵收官ハ徵收簿ニ依リ明治二十六年大藏省令第三十二號第四號書式甲ニ準シタル徵
 收報告書ヲ調製シ第一號書式ノ調定濟額仕譯書ヲ添ヘ翌月五日迄ニ其地ヲ發シ之ヲ知事ニ送付
 スヘシ

第九條 收入官吏ハ第二號書式ノ現金拂込仕譯書ヲ調製シ歲入徵收官ヲ經由シテ翌月五日迄ニ知
 事ニ報告スヘシ

第十條 歲入徵收官ノ徵收報告書ハ當月分ニ異動ナク單ニ前月迄ノ累計額ノミナルトキハ提出ニ
 及ハス其旨ヲ知事ニ報告スヘシ

第十一條 諸收入調定元帳其事務整理上必要ナル帳簿ハ適宜ノ式ヲ以テ調製スヘシ
 (書式ハ略ス)

◎縣令第三十七號 (明治二十三年九月二十日)

租稅外諸收入過誤納金下戻請求順序左ノ通相定ム

租稅外諸收入過誤納下戻請求順序

第一條 租稅外ノ諸收入下戻ヲ請求セントスルトキハ別紙第一號書式ニ據リ下戻ノ事由詳密記載
 シ所轄郡役所又ハ收稅部出張所ヲ經テ縣廳ヘ差出スヘシ
 但静岡市内ニシテ縣廳直轄ニ係ル收入ノ過誤納下戻請求書ハ直ニ縣廳ヘ差出スヘシ

第二條 静岡市内ハ會計主務官ヨリ通常仕拂命令書ヲ受ケタルトキ直チニ第二號書式ノ領收證書
 ヲ會計主務官ニ差出シ金庫ニ於テ該仕拂命令書ト引換ニ現金ヲ受取ルヘシ
 静岡市外ノ町村ニ住居セシモノハ會計主務官ヨリ通常仕拂命令ニ對スル規定ノ領收證書用紙及
 静岡本金庫ヨリ送金ヲ受ケタルトキ該領收證書用紙ニ年月日ヲ記入署名捺印シ直チニ之レヲ本
 金庫ニ送付スヘシ

第一號書式 (用紙通常野紙)

租稅外收入過誤納下戻金請求書
 一金 何程
 内

金 何 程
何 年 度
地 所 貸 下 料

但明治何年何月何日領收證第何號ノ内何々ノ事由ニ依リ過納ノ分

金 何 程
何 年 度
國稅滯納處分費辨納金

但全上

右過誤納金書面ノ通御拂戻有之度候也

年 月 日
靜岡縣知事殿
靜岡縣何市町村大字何番地
何
某 印

第二號書式 (用紙通常野紙)

領 收 證

一 金 何 程
何 年 度
物 品 拂 下 代

但書請求書ニ同シ

右 領 收 候 也

靜岡縣靜岡市何々何番地

會計主務官宛

年 月 日

何

某 印

●郡第十號 (明治二十四年四月十七日)

郡役所 直稅分署 間稅分署

明治二十三年九月縣令第三十七號租稅外諸收入過誤納下戻順序ニヨリ納入ヨリ諸收入下戻請求書ヲ受領シタルトキハ下戻ヲ要スヘキ金額事由及ヒ年度科目ノ調査ヲ了シ別紙書式ノ通り該請求書末尾へ郡長又ハ署長與書署名捺印シ縣廳へ差出スヘシ

但明治二十三年九月二十日郡第十七號達ハ廢ス

(別紙) 與書々式

前書金額相違無之候也

年 月 日

官 氏

名 印

●訓令丙第六六號 (明治三十三年七月七日)

警 察 署 (靜岡ヲ除ク)

明治二十七年九月費第五四號租稅外諸收入分任官證明規程左ノ通改正シ明治三十三年度所屬ノ會計ヨリ施行ス

右訓令ス

租税外諸收入分任官證明規程

第一條 租税外諸收入ヲ取扱フ分任收入官吏ハ明治三十三年五月會計檢査院達第二號收入證明規程別紙書式ニ準據シ收入計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌年度四月三十日限所轄分任歳入徴收官ヲ經由シ之ヲ主任收入官吏ニ差出スヘシ

第二條 分任收入官吏交替ヲ爲シタルトキハ在職期限經過後三十日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ主任收入官吏交替ヲ爲シタルトキハ交替當日ヲ以テ打切り三十日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 左ノ事項ハ收入計算書備考ニ記載スヘシ

一 金庫ニ拂込未済ノモノアルトキハ其金額事由

二 右金額ニシテ後任主任收入官吏又ハ分任收入官吏ニ引繼キタルモノアルトキハ其金額事由

第四條 第一條及第二條一項ニヨリ提出スル收入計算書ニハ會計規則第九十三條ニ依レル檢定書ヲ添付スヘシ

第五條 證憑トシテ提出スヘキ書類左ノ如シ

一 金庫ニ拂込ミタルモノハ金庫ノ領收證書

二 後任分任收入官吏ニ現金ヲ引繼タルトキハ其領收證書

第六條 證憑書類ハ所屬年度ニ區分編纂シ其金額紙數ヲ表紙ニ記載スヘシ

●郡第五號 (明治二十四年四月一日)

郡役所 警察署 直税分署 間税分署

從來静岡縣主管トシテ收納セシ租税外諸收入金ハ明治二十四年度以降ハ都テ大藏省主管トシテ收納スヘシ

●乙第十四號 (明治二十七年十二月十六日)

郡役所 市役所

大藏省所管諸貸付金取扱規程別冊ノ通相定ム

大藏省所管諸貸付金取扱規程

第一條 大藏省所管諸貸付金ハ此規程ニヨリ其債務者現住地ノ管轄郡市役所ニ於テ取扱フヘシ

第二條 諸貸付金ハ左ノ二種ニ區別シテ之ヲ整理スルモノトス

一 雜種貸 返納期限ノ一定シタルモノ

二 据置貸 債務者失踪逃亡又ハ無資力等ニヨリ目下義務ノ履行ヲ受ケ難キモノ

第三條 諸貸付金ハ前條ノ區別ニヨリ各其臺帳ヲ備ヘ貸付金額返納期限据置ノ事由其他契約ノ要旨及債務者保證人ノ住所氏名等ヲ之ニ登記スヘシ但シ臺帳面記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキ

ハ其都度訂正ヲ加ヘ置キ常ニ其現況ヲ明瞭ナラシムルヲ要ス

第四條 雜種貸ニ係ルモノハ該期限ニ從ヒ收納ノ手續ヲナスヘシ但市ニ屬スルモノハ該期限ニ從ヒ當廳ヨリ納入告知書ヲ發シ市役所ヲ經テ之ヲ債務者ニ交付セシムヘシ

据置貸ニ係ルモノハ常ニ各債務者ノ所在又ハ身代ノ實況ヲ調査シ失踪逃亡者ニシテ其所在ヲ發見シタルカ又ハ無資力等ニヨリ義務ノ履行ヲ受ケ難キモノニシテ返納シ得ヘキ資力ヲ生シタリト認ムルモノアリタルトキハ速ニ收納ノ手續ヲナスヘシ但市ニ屬スルモノハ市長ノ報告ニヨリ當廳ヨリ納入告知書ヲ發シ市役所ヲ經テ之ヲ債務者ニ交付セシムヘシ

第一項第二項但書ノ場合ニ於テ納付濟ニ至リタルトキハ之ヲ市長ニ通知スヘシ

第五條 郡役所ニ於テ諸貸付金ノ收納ハ明治二十六年十二月郡第二十三號國稅外諸收入收納取扱規程ニヨリ取扱フヘシ

第六條 諸貸付金返納期限ノ伸縮又ハ年月賦ノ割替等既定契約ノ變更ニ關スル事項ハ本人願書ヲ當廳ヘ進達スヘシ但繰上ケ返納ニ係ルモノハ此限りニアラス

第七條 債務者管内他郡市ヘ轉居シタルトキハ其轉居先ノ郡市役所ヘ引繼クヘシ

第八條 左ニ掲クル場合ニ於テハ別紙第一號書式ニヨリ郡市長ヨリ直ニ報告スヘシ

一 失踪逃亡者所在發見シタルトキ及無資力等ノモノ返納シ得ヘキ資力ヲ生シタリト認ムルト

キ

二 既定年月賦金繰上ケ納ヲナシタルトキ

三 債務者及保證人死亡代替改姓名轉居(一郡市内)シタルトキ

四 第七條ニヨリ引繼ヲナシ又ハ引繼ヲ受ケタルトキ

五 債務者他管下ヘ轉居シタルトキ

六 前各項ノ外債務者及保證人ニ關シ異狀アリタルトキ

第九條 左ニ掲クル場合ニ於テハ當廳ヨリ其都度通達スヘシ

一 新タニ貸付金ニ編入シ又ハ除却シタルトキ

二 貸付金ノ種目ヲ組替ヘタルトキ

三 他管廳ヘ引繼ヲナシ又ハ他管廳ヨリ引繼ヲ受ケタルトキ

第十條 雜種貸ニ係ルモノハ毎年度末ノ現在額据置貸ニ係ルモノハ毎年度末ノ現在額並ニ債務者及保證人身代ノ實況ヲ取調ヘ別紙第二號書式ニヨリ翌年度四月五日限り之ヲ報告スヘシ

第十一條 諸貸付金彙帳ハ適宜ノ式ニヨリ之ヲ調製スヘシ

第一號書式

大藏省所管諸貸付金異動報告書

郡市町村番地

債務者
(保証人) 何 之 誰

一金 何 程

但何々(異動ノ事由ヲ記スヘシ)

右及報告候也

明治何年何月何日

郡市長 氏

名 印

知 事 宛

備 考

一 總テ異動ノ事由ハ可成詳細ナルヲ要ス

二 債務者他管下へ轉居シタルトキハ必ス其轉居先ヲ判明ニ記スヘシ

第二號書式

明治何年度末大藏省所管諸貸付金現在額並現况報告書

一金 何 程

明治何年三月三十一日現在高

内

金 何 程

雜 種 貸

此 譯

金 額	返 納 期 限	債 務 者 (保証人) 住 所	同 氏 名
○		郡市町村番地	何 之 誰
○			

金 何 程

据 置 貸

此 譯

●郡第二號 (明治二十四年二月十九日)

郡役所 警察署 直税分署

出納官吏(現金前渡ヲ受ケタル官吏取扱外諸收入取扱收入) 交迭ノ際後任者へ事務引繼ヲ了シタルトキハ(事務引
 二十三年四月大藏省訓令第五十) 其引繼濟年月日前任者後任者連署ヲ以テ二日以内ニ届出ヲヘシ
 四號ニヨルコト勿論ナリトス)

但シ本文ノ届書ハ其主管廳ノ異ナル金種毎ニ別紙ニ調製スヘシ

●郡第二十號 (明治二十六年九月三日)

郡役所 警察署 全分署 直税分署 間税分署 監獄支署

官吏職務上民事刑事ニ關シ證人トシテ裁判所へ出頭ノ旅費日當裁判所ヨリ交付ヲ受ケタルモノア
 ルトキハ國庫ヨリ俸給ヲ受クルモノハ租税外諸收入トシ地方税ヨリ俸給ヲ受クルモノハ地方税雜
 收入トシ納付スル義ト心得ヘシ

●郡第十一號 (明治二十五年六月七日)

郡役所 警察署 直稅分署 間稅分署 監獄支署

明治二十五年五月大藏省訓令第三十號出納官吏檢査規程ニヨリ檢査員各地ニ派出相成リタルトキ同規程第五條ニ基キ關係書類ノ送付方ヲ該檢査員ヨリ請求シタル場合ニ於テハ差支無之樣其需メニ應スヘキ義ト心得ヘシ

●郡第十一號 (明治二十三年四月十七日)

郡役所 警察署 警察分署

租稅外ノ諸收入ハ郡第三號及規會第三號ヲ以テ諸收入收納取扱順序相定候處右ノ外官報ニ登載アル大藏省訓令中郡役所警察署全分署收入事務ニ關係スルモノハ直ニ之ヲ適用スヘシ但直チニ適用シ難キモノハ其時々訓示ス

●訓令甲第二十二號 (明治三十四年六月二十一日)

警察署 警察分署

其買取扱ニ係ル國庫歸屬品及沒收品ノ公賣并ニ無價物ノ棄却處分方ハ自今署長限リ處分スル義ト心得ヘシ但埋藏物ハ本文ノ限リニアラス

●第五第一七七三號 (明治三十五年五月三日)

各郡長 內務部長通牒

徵兵檢査及入營旅費支拂方ノ義ハ從來概算渡ノ法ニヨリ取扱來リ候處其手數繁雜ニシテ整理上欠点ナキ能ハス畢竟檢査旅費ノ如キハ檢丁一人ノ給額僅少ナレハ概算支出ヲ爲サルモ實際ニ支障ヲ來スヘキ等モ無之又入營旅費ノ如キハ其金額ニ於テハ檢査旅費ノ如ク少額ナラサルモ其支給額ハ豫メ確定シ得ヘキモノニ有之候得ハ自今別紙書式ニ據リ總テ精算拂トシテ取扱フヘクニ付檢査旅費ハ檢査後五日以內入營旅費ハ入營期十五日前ニ於テ從前ノ總代人ヨリ請求セシメラレ度尙ハ入營旅費ニ關シテ請求ノ際事實詳細御取調相成疾病其他止ムテ得サル事實發生スルノ外事後ニ至リ異動ヲ生セサル様篤ト御注意相成度依命此段及通牒候也

●四第一〇〇七號 (明治三十一年十一月二十二日)

各郡長 內務部長通牒

明治二十四年八月費第八百九十四號及通牒置候棄兒養育米石代窮民恤救米石代徵兵入營旅費檢丁旅費電信柱敷地手當取扱手續別紙ノ通更正相成候條依命此段及通牒候也

- 一 棄兒養育米窮民恤救米石代ハ渡期節ニ至リタル時ハ其月五日迄ニ郡長ハ第一號書式ノ調書
 へ第二號若クハ第三號書式ノ仕譯書ヲ添へ縣廳へ差出スヘシ
- 二 電信柱敷地手當ハ代理人ニ於テ四月三十日迄ニ第四號書式ノ請求書第五號書式ノ仕譯書ヲ

- 添へ縣廳へ差出スヘシ
- 三 徵兵入營及檢丁旅費ハ檢査又ハ入營ニ際シ代理人ニ於テ其金額取調第六號書式ノ概算請求書ヲ製シ縣廳へ差出スヘシ
- 四 縣廳ニ於テハ前三項ノ調書又ハ請求書到着ノ上ハ速カニ仕拂ノ手續ヲ了シ仕拂命令通知書ヲ交付スヘクニ付代理人ニ於テ現金受領ノ上ハ通知書領收欄内へ月日記入署名捺印シ直チニ金庫へ送付スヘシ
- 五 徵兵入營及檢丁旅費ハ入營又ハ檢査済ノ後金額確定シタルトキハ代理人ニ於テ第七號書式ノ精算證書へ第八號及第九號書式ノ仕譯書ヲ添付縣廳へ差出スヘシ
但精算ノ上追給若クハ返納アルトキハ第八項ニ據ルヘシ
- 六 第一項第二項ノ金員縣廳ヨリ仕拂後受領人其他ニ異動ヲ生シ金額ノ追給若クハ返納ヲ要スル時ハ郡長ニ於テ追給ハ第十號書式ノ調書第十一號書式ノ仕譯書代理人ハ第十二號書式ノ請求第十三號書式ノ仕譯書返納ハ郡長ニ於テ第十四號及第十五號書式ノ仕譯書ヲ製シ縣廳へ差出スヘシ
- 七 前項追給ノ金額領收シタルトキハ代理人ハ第四項ニ準シ通知書ヲ金庫へ送付シ又返納ハ縣廳ヨリ納入告知書ヲ交付スヘクニ付告知書到達ノ上ハ指定ノ金庫へ納付スヘシ

- 八 第三項ノ概算金受領後異動ヲ生シ爲メニ追給若クハ返納ヲ要スル時ハ代理人ニ於テハ追給ハ第十六號書式ノ請求書返納ハ郡長ニ於テ第十七號書式ノ調書へ第五項ノ精算證書并ニ仕譯書ヲ添付シ縣廳へ差出スヘシ
- 九 前項ノ追給金ヲ受領シタルトキハ代理人ハ第四項ノ如ク通知書ヲ金庫へ直ニ送付シ又返納ハ縣廳ヨリ返納告知書若クハ納入告知書ヲ交付スヘクニ付代理人ハ第七項ノ手續ヲ以テ金庫へ納付スヘシ
- 十 入營又ハ檢丁済ノモノニシテ里程其他確定シタルモノハ概算ヲ要セス直ニ第八號及第九號仕譯書へ適宜ノ請求書ヲ添へ精算拂ヲ以テ請求スルコトヲ得
- 十一 凡テ代理人ヨリ差出ス請求并ニ領收證書及精算證書面へハ代理人ノ宿所姓名ヲ書シ實印ヲ捺捺スヘシ

(様式ハ客ス)

●郡第二十號 (明治二十三年十月十四日)

郡 役 所 (引佐藤玉 郡ヲ除ク)

電信柱敷地手當金前渡取扱規則別紙ノ通り相定ム

電信柱敷地手當金取扱規則

第一條 郡長ハ所轄内電信柱敷地手當金各自請求書ニヨリ第一號書式ノ請求書ヲ作り前年四月ヨリ次年三月迄ノ分ヲ其年四月三十日迄ニ現金前渡ヲ仕拂命令官ニ請求スヘシ

第二條 現金前渡ヲ受ケタル電信柱敷地手當金ハ他ノ現金前渡ヲ受ケタル金額ト交互現金ヲ流用支辨スルコトヲ得ス

第三條 前渡ヲ受ケタル現金ハ毎月精算整理シ明治二十三年四月規會第七號達別冊第六號書式ニ準シ仕拂計算書ヲ調製シ(計算書表紙並ニ奥書自何月何日迄何月何日トアルハ何年何月ト改ム) 證憑書類ヲ添へ前月分翌月十日迄ニ仕拂命令官ニ送付スヘシ(三十五年郡第十號ヲ以テ追加)

第四條 仕拂計算書ヘ添付スヘキ證憑書類中領收證書ハ第二號書式仕譯書ハ第三號書式ニヨルヘシ

第五條 電信柱敷地手當金ノ科目ハ左表ニヨルヘシ

款	項	目
第三款 遞信費		
	第三項 遞信事業費	
		第十三目 電信線路保守費

第六條 前各條ニ掲ケル外ハ總テ本年四月規會第七號達徴兵檢丁並ニ入營旅費藥見養育費窮民救助費取扱規則第二條第三條第五條第六條第八條第九條第十條第十二條第十三條及第十四條ニ準據ス(三十五年郡第十號ヲ以テ修正)

◎廳中達第三五號

(明治三十四年六月十四日)

知事官房 内務部各課 警察部 衛生課

静岡縣國庫所屬物品取扱細則別冊ノ通定ム

静岡縣國庫所屬物品取扱細則(三十五年五月訓令丙第二五九號ヲ以テ本則中加除改正)

第一章 總則

第一條 本細則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ノ所有ニ屬スル動産ヲ云フ

第二條 物品出納ノ命令ハ本廳ニ在テハ知事直ニ之ヲ發シ郡役所ニ在テハ郡長ヲシテ之ヲ發セシム

第三條 物品會計官吏分任物品會計官吏ハ左ノ吏員ヲ以テ之ニ充ツ

- 一 物品會計官吏 内務部第五課長
- 一 分任物品會計官吏 郡役所第二課長

第四條 知事官房内務部各課及警察部衛生課ニ物品取扱主任一名若クハ二名ヲ置キ各房課共用品

ノ保管及專用品受拂ノ事務ヲ取扱ハシム

各郡役所ニ物品取扱主任一名ヲ置キ徴兵用物品ノ保管及受拂ノ事務ヲ取扱ハシム

第五條 物品ニ附スヘキ價格ハ左ノ標準ニ依ル

一 購入ニ係ルモノハ其ノ價格但彼是混同シテ判別シ難キトキハ其ノ平均價格

一 生産ニ係ルモノハ其原料價格ニ生産費ヲ加算シタル價格但常雇職工ヲシテ製作セシメタル

モノハ其ノ原料價格

一 保管轉換ニ係ルモノハ其ノ通知ノ價格

第二章 物品出納 帳簿

第六條 消耗品及別表ニ掲クル物品ハ物品會計官吏及分任物品會計官吏ヲシテ直チニ出納セシム

第七條 常時需用スル物品ノ交付ハ知事官房内務部各課警察部衛生課ニ在テハ毎月五日十五日二

十五日ヲ以テ定日トシ休日ニ當ルトキハ繰上トス但至急ヲ要スルモノハ隨時交付スルコトヲ得

第八條 備品、器械及圖書ノ請求書ハ物品取扱主任ヨリ消耗品ノ請求書ハ使用者ヨリ物品取扱主

任ヲ經テ物品會計官吏分任物品會計官吏ニ差出スヘシ

第九條 物品會計官吏分任物品會計官吏ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ領收證書

ヲ徴シ物品ヲ交付スヘシ

第十條 薪炭油、郵便切手、各材料品其他日々支消スル物品ハ一箇月以内ノ需用概算高ヲ以テ物

品取扱主任ニ假渡ヲ爲シ毎月精算ヲ爲サシムヘシ

第十一條 出張中使用スル爲メ郵便切手全端書ノ概算渡ヲ受タルトキハ歸廳後五日以内ニ精算ヲ

ナスヘシ

第十二條 物品取扱主任ハ別紙第二號書式ノ帳簿ヲ備ヘ物品ノ出納ヲ登記スヘシ

第十三條 物品會計官吏ハ内務省及所管廳物品取扱規程第十條ニ掲クル出納簿ノ外左記内譯簿、

整理簿、書留簿ヲ備ヘ分任物品會計官吏ハ全上出納簿ノ外左記整理簿、書留簿ヲ備ヘ其出納ヲ

明ニスヘシ

一 器械内譯簿 一 圖書内譯簿 一 備品内譯簿

一 概算渡整理簿 一 修繕品書留簿 一 不用品書留簿

第十四條 物品會計官吏分任物品會計官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ前條ニ掲クル帳簿ノ外適宜

補助簿ヲ備ヘ置クヘシ

第三章 保管 責任

第十五條 物品取扱主任ハ共用品ノ保管及專用品ノ受拂ニ就キ其實ニ任スルモノトス

第十六條 物品ヲ亡失毀損シタルトキハ亡失毀損者若クハ保管者ニ於テ其ノ始末書ヲ作り物品取

扱主任ヲ經テ物品會計官吏分任物品會計官吏ニ差出スヘシ
 物品會計官吏分任物品會計官吏ハ前項ノ始末書ヲ調査シ故意若ハ怠慢ニ出タルモノト認ムルト
 キハ知事ノ決裁ヲ受ケ亡失毀損者若クハ保管者ヲシテ代償又ハ代品ヲ以テ之ヲ辨償セシムヘシ
 第十七條 前條ノ辨償金額ハ毀損品ニアリテハ其修補ニ要スル金額亡失品ニアリテハ出納簿ニ記
 載シタル金額ニ依リ之ヲ定ム

第四章 證明 檢査

第十八條 物品會計官吏及分任物品會計官吏ノ管掌スル物品ハ毎年度一回以上檢査員ヲシテ現品
 ヲ帳簿ニ照合シ其出納ノ實況ヲ調査シ調査ヲ作ラシムヘシ

第十九條 分任物品會計官吏ハ毎年度經過後一ヶ月以内ニ物品出納報告書ヲ製シ證憑書類ヲ添ヘ
 所管分任物品出納命令官ヲ經テ之ヲ物品會計官吏ニ送付スヘシ

分任物品出納命令官ニ於テ前項ノ計算書ヲ受ケタルトキハ現在品ヲ帳簿及計算書ニ照合シ其ノ
 調書ヲ作り之ヲ物品會計官吏ニ送付スヘシ

前項調書ニハ計算書名冊數、證憑書名冊數、分任物品會計官吏ノ官職氏名、取扱期間、計算書
 ト出納簿及現在品トノ符合事實ニ適合セスト認定シタル事項及理由其他必要ナル事項ヲ記載ス
 ヘシ

第二十條 物品會計官吏交替シタルトキハ分任物品會計官吏ハ交替ノ日ヲ以テ打切り在職期限經
 過後一ヶ月以内ニ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘシ

分任物品會計官吏交替シタルトキハ前任官吏ハ交替後一ヶ月以内ニ前條第一項ノ手續ヲ爲スヘ
 シ但前任官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自カラ報告書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ知事ハ他ノ
 官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

分任物品出納命令官前二項ノ計算書ヲ受ケタルトキハ前條第二項及第三項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 物品會計官吏責任解除ノ認可狀ヲ受ケタルトキハ分任物品出納命令官ヲ經テ其旨ヲ
 分任物品會計官吏ニ通知スヘシ

第二十二條 分任物品會計官吏其取扱額身元保證金ヲ納付スヘキ額ニ達シタルトキハ物品會計官
 吏ヲ經テ知事ニ届出ツヘシ

第五章 不用品處分

第二十三條 不用ニ屬スル物品ヲ返納セントスルトキハ共用品ニ在テハ物品取扱主任ヨリ専用品
 ニアリテハ使用者ヨリ物品取扱主任ヲ經テ物品會計官吏分任物品會計官吏ニ差出スヘシ
 物品會計官吏分任物品會計官吏ハ返納品ニ對シ受領證ヲ交付スヘシ

第二十四條 不用品ヲ賣却シ若ハ無價物ヲ廢棄セントスルトキハ知事ノ決裁ヲ經テ處分スヘシ

附則

第二十五條 従前ノ規程ニシテ本細則ニ抵觸スルモノハ本細則施行ノ日ヨリ其ノ効力ヲ失フ
●訓令甲第十四號 (明治二十四年四月二十六日)

郡役所 市役所

明治二十四年七月乙第十五號達郡市内徴兵署及検査所ニ要スル物品等ノ種目制限左ノ通改正ス

郡市内徴兵署及検査所ニ要スル物品等種目制限

備

考

種目

煙狀火標腰椅卓枕蒲寢
草
盆刺鉢札掛子子 團臺品

會計綱要

印印抽錐小水硯硯糊幕肉茶土茶火湯柄手小水
籤
箱章箱 刀入石箱入 池盆瓶碗箸釜杓鉢桶桶
洗

檢丁學術試驗用
全上

封蠟	茶墨	筆	半全	美濃	美濃	鳥ノ	西ノ	郵便	手切	石	生炭	摺付	草	蠟	燭
筒燭			紙紙	紙紙	紙紙	紙紙	紙紙	紙紙	紙紙	紙紙	紙紙	紙紙	紙紙	紙紙	紙紙
諸往復ニ使用ス	夜業用	壹斤五拾錢以內但一日八十目以內	檢丁學術試驗用 全上	徵兵官及徵兵醫官ニ於テ使用ス	全上	事務官ノ意見又ハ諸往復書ニ使用ス	抽籤用	徵集延期證書全猶豫證書ニ使用ス	甲乙兩種ノ籤札ニ使用ス	全上	徵兵醫官ニ於テ使用ス	夏期ハ沸湯ノミニ使用ス但一日壹貫目以內	喫烟ニ使用ス		

備	儲	借	器	全	運
人	人	家	具	藏	搬
料	料	料	料	料	費
徵兵署及檢査所共各壹ヶ所ニ付一日貳人以内一日壹人ニ付金四拾錢以內	物品持運ヒ並ニ掃除等ニ付使用ス一日壹人ニ付金四拾錢以內	徵兵署及檢査所借家料一日ニ付金貳圓以內	臨時器具ヲ借入ルトキ支給ス	徵兵用備品器具保管ノ爲メニ要ス但一ヶ年金四圓以內	物品運搬ノ爲メニ要ス

第二章 縣 費

●縣令第三十五號 (明治三十三年三月三十一日)

静岡縣會計規則左ノ通り相定ム

静岡縣會計規則

第一章 歲 入

第一條 歲入ハ左ノ數種トス

- 一 縣歲入
- 二 罹災救助費歲入

- 三 小學校教員恩給基金歲入
 - 四 小學校教員恩給金歲入
 - 五 富士川通船賦金別途金歲入
 - 六 慈善救濟金歲入
 - 七 耕地整理補助費歲入(三十四年縣令第二十七號ヲ以テ改正)
 - 八 農工銀行株式費歲入
 - 九 市町村立小學校教員加俸資金歲入(三十三年縣令第七十一號ヲ以テ追加)
 - 十 教育資金歲入(三十四年縣令第二十七號ヲ以テ追加)
- 第二條 歲入ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル
- 一 所屬年度ヲ豫定セル收入ハ其ノ年度
 - 二 所屬年度ヲ豫定セサル收入ハ其ノ收入スヘキ事實ノ屬スル年度
- 第三條 左ニ掲クル收入ノ命令ハ所管ノ各廳長各廳長トハ郡長警察署長縣立學校長農事試驗場場長ヲ云フ以下之ニ做フニ之ヲ委任ス(三十四年縣令第二十七號ヲ以テ改正)
- 一 土地建物ノ貸下料其ノ他縣有財産ニ關スル收益
 - 二 河川堤塘道路並木敷ノ占用料使用料並ニ竹木其ノ他生産物ノ拂下代

- 三 教員檢定料免許料並ニ蠶種檢査手数料
 - 四 貸座敷娼妓引手茶屋ノ賦金
 - 五 滯納處分費
 - 六 請願巡査費納付金
 - 七 懲罰金賠償金被服料還納金裁判所出頭費辨償金
 - 八 授業料
 - 九 縣ノ所得ニ歸シタル入札又ハ契約ノ保證金
 - 十 農作物及不用品賣拂代並下掃除料(三十四年縣令第二十七號ヲ以テ改正)
 - 十一 各官署學校ノ經費又ハ修繕建築ニ對スル寄付金
 - 十二 行政執行費辨償金及精神病者監護費辨償金(三十四年縣令第二十七號ヲ以テ改正)
 - 十三 前各號ノ外特ニ徵收方ヲ達シタルモノ
- 第四條 縣稅外ノ諸收入ハ知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル各廳長納入告知書ヲ發シ縣出納吏ヲシテ之ヲ納入ニ交付セシム但納入告知書ノ受取ヲ拒ミ又ハ其ノ所在知レサルトキハ納入告知書ノ要領ヲ公示スルヲ以テ之ヲ交付シタルモノト見做ス
- 第五條 納入納入告知書ヲ受ケタルトキハ納期限内ニ現金ニ納入告知書ヲ添へ縣金庫ニ拂込其保

管證ヲ得テ縣出納吏ニ差出シ領收證ノ交付ヲ受クヘシ

第六條 納人納入告知書發付前即納スルトキ又ハ送納アリタルトキハ前二條ノ規定ニ依ラス縣出納吏其ノ納金ヲ領收シ納人ニ領收證書ヲ交付スヘシ

縣出納吏納金ヲ領收シタルトキハ直ニ拂込書ヲ添ヘ縣金庫ニ拂込ミ其ノ保管證ヲ徴スヘシ

第七條 歲入金年度又ハ科目ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ知事又ハ各麻長更正ノ命令ヲ發シ縣出納吏ハ之ニ依リ帳簿ヲ更正シ縣金庫ニ關スルモノハ縣金庫ニ通知シテ更正セシムヘシ

第八條 歲入過誤納金ノ拂戻ハ歲出金仕拂ノ例ニ依ル

第二章 歲出

第九條 歲出ハ左ノ數種トス

- 一 縣歲出
- 二 罹災救助費歲出
- 三 小學校教員恩給金歲出
- 四 富士川通船賦金別途金歲出
- 五 慈惠救濟金歲出
- 六 耕地整理補助費歲出(三十四年縣令第二十七號ヲ以テ改正)

七 農工銀行株式費歲出

八 市町村立小學校教員加俸資金歲出(三十三年縣令第七十一號ヲ以テ追加)

九 教育資金歲出(三十四年縣令第二十七號ヲ以テ追加)

第十條 歲出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

- 一 恩給年金退隱料ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度
 - 二 給料及諸給與賄料手数料運搬費ノ類ハ支出スヘキ事實ノ屬スル年度
 - 三 土木建築費及物件購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但年度開始前特ニ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ相當年度
 - 四 契約ノ數年ニ涉ル土木建築費及借地料借家料ノ類ハ契約ニ定メタル仕拂期日ノ屬スル年度
 - 五 補助費ノ類ハ補助スヘキ事實ノ屬スル年度但特ニ支出年度ヲ豫定シタルモノハ其豫定年度
 - 六 前各號ノ類別ニ入ラサル費用ハ仕拂ノ決定ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 第十一條 左ニ掲クル經費ノ仕拂命令ハ仕拂豫算ヲ定メテ之ヲ各麻長ニ委任ス
- 一 各麻經費
 - 二 各麻修繕費
 - 三 前各號ノ外各麻ニ於テ仕拂ヲ必要トスル費用

第十二條 各解長ハ仕拂豫算各項目ノ金額ヲ流用スルノ必要アルトキハ流用計算書ヲ作り知事ノ認可ヲ受クヘシ但仕拂豫算中節ノ金額ヲ定メタルモノハ其ノ流用モ亦本文ニ準ス

第十三條 凡ソ仕拂ノ命令ハ債權ノ當否並ニ豫算ノ關係ヲ調査シ正當ト認メタル後之ヲ發スルモノトス

第十四條 仕拂ハ知事又ハ委任ヲ受ケタル各解長ノ發スル仕拂命令書ニ據リ縣出納吏ニ於テ受取人ニ仕拂切符ヲ交付シ受取人ハ之ヲ縣金庫ニ持參シ現金ノ拂渡ヲ受クヘシ

縣金庫所在地外ノ受取人ニ仕拂金ノ遞送ヲ要スルトキハ縣出納吏ハ前項ノ仕拂切符ヲ縣金庫ニ交付シ受取人ニ送金通知書ヲ發スヘシ

縣金庫前項ノ仕拂切符ヲ受ケタルトキハ直ニ受取人ニ送金ヲ爲スヘシ

第十五條 縣出納吏ハ仕拂切符ヲ受取人ニ交付セントスルトキハ前以テ仕拂案内書ヲ縣金庫ニ送付スヘシ

第十六條 縣出納吏ハ仕拂切符ヲ受取人ニ交付スルトキハ其ノ領收證書ヲ徵スヘシ

第十七條 縣金庫ハ其ノ所在地外ノ受取人ニ送金ヲ爲シタルトキハ其ノ領收證書ヲ徵シ縣出納吏ニ差出スヘシ

第十八條 左ニ掲ケル經費ハ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

- 一 出張先ニ於テ特ニ仕拂ヲ要スル經費
- 二 非常急遽ノ際仕拂ヲ要スル經費
- 三 前各號ノ外特ニ現金前渡ヲ必要トスル經費

現金前渡ノ手續ハ普通仕拂ノ例ニ據ルヘシ

第十九條 現金前渡ハ其ノ所要ヲ量リ五百圓以内トス但數回ニ現金前渡ヲ爲ス場合ハ前ニ前渡シタル現金ノ仕拂證明未濟額ヲ合セ五百圓ヲ限度トス

第二十條 左ニ掲ケル經費ハ概算渡ヲ爲スコトヲ得

- 一 旅費
- 二 囚人及刑事被告人ノ押送費

前項概算渡ヲ受ケタルモノハ歸着後五日以内ニ其ノ精算ヲ爲スヘシ但旅行ノ甲乙兩年度ニ跨ルモノハ乙年度四月十日限り甲年度所屬ノ分ヲ精算シ其過剰金ハ返納スヘシ

第二十一條 主任官吏又ハ吏員其ノ事實ヲ證明シタルトキハ工事ノ既濟又ハ物件ノ既納部分ニ對シ完済前ニ代價ノ一部分ヲ仕拂フコトヲ得

前項ノ仕拂ハ工事ノ既濟又ハ物件ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條 法令其ノ他別段ノ規定アルモノヲ除クノ外前金拂繰替拂ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 歳出金年度又ハ科目ノ誤謬ヲ發見シタルトキハ第七條ノ例ニ據リ其ノ更訂ヲ爲スヘシ

第二十四條 歳出ノ誤拂過渡トナリタル金額並ニ現金前渡概算渡ノ精算殘金ノ返納ハ歳入金收納ノ例ニ據ル

第三章 特別資金

第二十五條 特別資金ト稱スルハ左ノ數種トス

- 一 罹災救助基金
- 二 小學校教員恩給基金
- 三 勸業資金
- 四 衛生資金
- 五 富士川通松賦金
- 六 慈惠救濟基金
- 七 安倍川橋梁基金
- 八 市町村立小學校教員加俸資金(三十三年縣令第七十一號ヲ以テ追加)

九 教育資金(三十四年縣令第二十七號ヲ以テ追加)

第二十六條 特別資金ノ出納ハ第一章第二章ノ例ニ據リ取扱フヘシ

第四章 雜部金

第二十七條 雜部金ト稱スルハ左ノ數種トス

- 一 保證金
- 二 一時取扱金

第二十八條 雜部金ノ出納ハ第一章第二章ノ例ニ據リ取扱フヘシ

第五章 縣出納吏

第二十九條 縣出納吏ハ縣廳及各麻ニ各一人ヲ置ク

前項ノ外官吏又ハ吏員ニ現金前渡ヲ要スルトキハ其ノ官吏吏員ニ縣出納吏ヲ命ス

第三十條 縣廳ノ縣出納吏ハ知事ノ收支命令ニ屬スル出納ノ事務ヲ掌リ各麻ノ縣出納吏ハ各麻長ノ收支命令ニ屬スル出納ノ事務ヲ掌ル但現金前渡ヲ受ケタル場合ハ此限ニアラス

前條第二項ノ縣出納吏ハ其ノ前渡金ノ仕拂ヲ掌ルモノトス

第三十一條 縣出納吏其ノ保管ニ屬スル現金ハ縣金庫所在地若クハ其最寄ニアツテハ之ヲ縣金庫ニ委託スヘシ

縣金庫所在地外ニ在ル縣出納吏ハ自己ノ責任ヲ以テ其ノ保管ニ屬スル現金ヲ銀行又ハ一人ニ

委託スルコトヲ得

第三十二條 縣出納吏其ノ職ヲ免セラレタルトキハ直ニ帳簿書類並ニ保管ノ現金ヲ後任者ニ引渡スヘシ但死亡其ノ他ノ事故ニ依リ自ラ引渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ知事ノ指示スルトコロニ依ル

前項ノ場合ニ於テ現金前渡ヲ受ケタル仕拂殘餘ハ直ニ之ヲ返納スヘシ

第三十三條 縣出納吏ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ所管ノ出納ヲ登記スヘシ

一 收入簿

二 支出簿

三 特別資金出納簿

但知事所屬ノ縣出納吏ニ限ル

四 雜部金出納簿

五 現金出納簿

但現金ヲ取扱ハサルモノハ之ヲ要セス

六 補助簿

第三十四條 縣出納吏ハ前條第一乃至第四及第六ノ帳簿ニ據リ毎月收入支出ノ計算書ヲ調製シ證

憑書類ヲ添付シ翌月十日限り知事ニ提出スヘシ但各廳長所屬ノ縣出納吏ニアツテハ各廳長ヲ經由スヘシ

現金前渡ヲ受ケタル縣出納吏ハ前條第五第六ノ帳簿ニ據リ其仕拂了シタル日ヨリ五日以内ニ仕拂計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ニ知事又ハ各廳長ニ提出スヘシ但仕拂ノ數月ニ涉ルモノハ每一ヶ月分ヲ翌月五日限り提出スヘシ

第六章 縣金庫

第三十五條 縣本金庫ハ知事所屬縣出納吏ノ職務ニ關スル現金ノ出納ヲ取扱ヒ縣支金庫ハ各廳長所屬縣出納吏ノ職務ニ關スル現金ノ出納ヲ取扱フモノトス

第三十六條 縣金庫出納ノ開閉時限ハ各廳長ノ出勤時限ヨリ退廳時限一時間前マテトス但臨時至急ノ仕拂ヲ要シ又ハ納期ニ際シ收納金ノ多キ場合ハ此ノ限りニアラス

第三十七條 縣金庫ニ於テ仕拂ニ用フル現金ハ其ノ金庫在合ノ通貨ヲ以テス但特ニ縣出納吏ニ於テ其種類ヲ指定シタル場合ハ此ノ限ニアラス

第三十八條 縣本金庫ハ各金庫ニ於ケル仕拂ノ所要ニ應シ縣金庫間ニ回金ヲ爲シ常ニ仕拂ニ差支ナカラシムヘシ

回金ノ順序方法ハ縣本金庫之ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第三十九條 縣本金庫及縣支庫ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

一 現金出納簿

二 補助簿

第四十條 縣本金庫ハ現金總括簿ヲ備ヘ各金庫現金出納ノ總括ヲ登記スヘシ

第四十一條 縣支金庫ハ第三十九條ノ帳簿ニ據リ毎日出納報告書ヲ調製シ縣出納吏ノ捺印ヲ受ケ

即日之ヲ縣本金庫ニ送付スヘシ

縣本金庫ハ第三十九條ノ帳簿ニ據リ毎日出納計算書ヲ調製シ縣出納吏ノ捺印ヲ受ケ第四十條ノ

帳簿ニ登記スヘシ

第四十二條 縣本金庫ハ第四十條ノ帳簿ニ據リ毎日現金總括表ヲ調製シ翌日之ヲ知事ニ提出スヘシ

第四十三條 縣本金庫及縣支金庫ハ第四十條ノ帳簿ニ據リ毎月月計對照表ヲ調製シ縣出納吏ヲ經

テ翌月二日限り知事ニ提出スヘシ但縣支金庫ニアツテハ各府長ヲモ經由スヘシ

縣本金庫ハ毎月末日現金在高表ヲ調製シ翌月十日限り知事ニ提出スヘシ

第七章 決算

第四十四條 内務部ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ縣出納吏ノ計算報告ニ據リ總テノ出納ヲ登記スヘシ

一 日記簿

二 原簿

三 歳入簿

四 歳出簿

五 補助簿

第四十五條 毎年度出納ヲ閉鎖シタルトキハ前條ノ帳簿ニ據リ決算書ヲ調製スヘシ

第八章 物件ノ賣買貸借

第四十六條 物件ノ賣買貸借ヲナスハ競争入札ニ付スヘシ

前項ノ入札ハ其ノ期日ノ七日以前ヨリ揭示又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ成ル可ク廣ク公告スヘシ

公告ニハ左ノ事項ヲ明示ス

一 競争入札ニ付スル物件

二 入札心得書ヲ示ス場所

三 競争入札執行ノ場所及日時

四 入札保證金額

五 物件ノ性質ニ依リ競争者ノ資格ヲ定ムルノ必要アルトキハ其ノ資格

第四十七條 左ノ場合ニ於テハ前條ノ方法ニ依ラス特ニ三名以上ヲ指名シテ競争入札ニ付スルコトアルヘシ

一 一口金高百圓以上貳百圓未滿ノ物件ヲ買入シ又ハ借入ル、トキ

二 見積價格五拾圓以上百圓未滿ノ動産ヲ賣拂ウトキ

第四十八條 入札心得書ニハ左ノ事項ヲ掲クヘシ

一 入札書ノ書式

二 落札者ノ契約ヲ爲スヘキ期限

三 契約書按

但物件ノ受渡及代價納付ノ期限保證金額契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分等ヲ掲クヘシ

四 前各號ノ外必要ナル事項

第四十九條 入札ヲ爲サントスル者ニハ物件ノ見積價額又ハ各自入札金高ノ百分ノ五以上契約ヲ結ハントスル者ニハ契約金高百分ノ十以上ノ保證金ヲ差出ザシム但指名入札ノ場合ハ入札保證金ヲ徴セサルコトアルヘシ

第五十條 競争入札ノ執行ハ左ノ手續ニ據ル

一 入札ニ付シタル物件ノ豫定價額ハ封書トシテ開札ノ場所ニ置ク

二 開札ハ主任官吏又ハ吏員二名以上列席シ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フ

三 入札人又ハ其ノ代理人開札ノ場所ニ出頭セサルトキハ其ノ入札ハ無効トスルコトアルヘシ

四 入札ハ物件ノ買入借入ニアツテハ豫定價額以内ニシテ其最低額賣拂貸渡ニアツテハ豫定價額以上ニシテ其ノ最高額ノモノヲ以テ落札トス但主任官吏又ハ吏員ニ於テ不相當ト認ムルモノハ落札セシメサルコトアルヘシ

五 落札トナルヘキ同價ノモノ數名アルトキハ其入札者ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシメ尙ホ同價ナルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム

六 入札中落札トスルモノナキトキハ時宜ニ依リ豫定價格ヲ示サスシテ直ニ再度ノ入札ヲ執行スルコトアルヘシ

第五十一條 落札者ハ入札心得書ニ定ムル期限ニ物件ノ賣買貸借ノ契約ヲ爲スヘシ若シ其ノ期限ヲ過キ契約ヲ爲サルトキハ其ノ落札ハ之ヲ無効トシ入札保證金ハ縣ノ所得トス

第五十二條 落札無効トナリタルトキハ更ニ競争ノ入札ヲ行フ此ノ場合ニ於テハ公告ノ日限ヲ三日迄ニ短縮スルコトアルヘシ但最ノ入札ニシテ豫定價額制限以内ノモノアルトキハ競争ニ付セ

ス其ノ次位者ト契約ヲ結フコトアルヘシ

第五十三條 左ノ場合ニ於テハ第四十七條ノ規定ニ依リ又ハ隨意ノ契約ニ依ルコトヲ得

- 一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ
- 二 非常急遽ノ際物件ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ
- 三 特種ノ物品ヲ其ノ生産者製造者ヨリ直接ニ買入レ又ハ特別ノ技術家ニアラサレハ製造シ得ヘカラサル物件ヲ買入ル、トキ
- 四 土地建物其ノ他工作物ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限リアルトキ
- 五 一口金高百圓未満ノ物件ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ
- 六 見積價格五拾圓未満ノ動産ヲ賣拂フトキ
- 七 動産ヲ貸渡ストキ
- 八 囚徒或ハ慈善ノ爲ニ設置セル教育所ノ受救者ヲ傭役シ又ハ其ノ生産製造物件若クハ官設公設ニ係ル學校及農工場ノ生産製造物件ヲ直接ニ買入レ又ハ賣拂フトキ
- 九 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ
- 十 再度ノ入札ニ付スルモ豫定價格ノ制限ニ達セサルトキ
- 十一 競争入札ニ付スルモ入札者ナキトキ

十二 縣外ノ各地ヨリ買入ル、ニアラサレハ適當ノ物品ヲ得難キトキ

十三 他ノ官廳ノ物品ヲ直接ニ買入レ又ハ市町村其ノ他公共團體ノ直接公用ニ供スル爲メ物品ヲ直接ニ拂下シルトキ

第五十四條 隨意契約ノ場合ニ於テハ契約書ヲ省略シ保證金ヲ徴セサルコトアルヘシ

第五十五條 入札保證金并ニ契約保證金ハ現金又ハ國債證書ニ限ル但記名國債證書ハ本人名義ノモノニシテ賣却委任狀ヲ添付スルコトヲ要ス

前項國債證書ノ擔保價格ハ知事ノ定ムル所ニ據ル

第九章 附 則

第五十六條 此ノ規則ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

●甲第七號 (明治三十三年三月三十一日)

- 知事官房 內務部 警察部 監獄署 郡役所
- 警察署 警察分署 監獄支署 縣立學校 縣金庫

縣會計ニ關スル取扱手續左ノ通相定ム

縣會計ニ關スル取扱手續

第一條 縣稅外ノ諸收入ハ調定元帳ヲ備ヘ其ノ收入ヲ調定シ之ニ據リ納入告知書ヲ發スルモノト

- 第二條 納入告知書ハ納期ノ定アルモノハ納期五日以前ニ之ヲ發シ隨時ニ徵收スルモノハ適宜納期ヲ定メ之ヲ發スヘシ
- 第三條 各廳長ハ毎年度縣稅外收入調定明細書ヲ調製シ翌年度六月十五日限り知事ニ提出スヘシ
- 第四條 縣稅外ノ諸收入ヲ納期限内ニ納付セサルモノアルトキハ縣出納吏ハ直ニ督促ヲ爲スヘシ
- 第五條 各廳長ハ仕拂豫算ヲ達セラレタル日ヨリ十五日以内ニ仕拂月額計算書ヲ調製シ知事ニ提出シ爾後其ノ更正ヲ要スルトキハ更正計算書ヲ提出スヘシ
- 第六條 仕拂命令ハ債主ノ請求書ニ據リ之ヲ發スヘシ但傳給其他一定ノ債權ニ對シテハ請求書ヲ要セス主任官吏又ハ吏員ノ作リタル調書ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
- 第七條 各廳長ニ於テ毎年度歲入歳出ノ收支命令ヲ發スルハ翌年度五月三十日限リトス
- 第八條 縣出納吏ハ仕拂切符ヲ發シタル後現金交付ニ至ラサルモノアルトキハ其ノ仕拂取消ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第九條 送金拂ニ對スル受取人ノ領收證書ハ縣出納吏ノ發シタル送金通知書ノ領收署名欄内ニ署名捺印シタルモノトス但受取人送金通知書ヲ紛失シタルトキハ普通領收證書ヲ徵スヘシ
- 第十條 縣金庫ハ左ノ場合ニ於テハ現金ノ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 仕拂切符ヲ仕拂案内書及縣出納吏ノ印鑑ニ對照シ其ノ金額氏名并ニ印章符合セザルトキ
- 二 仕拂切符汚損シテ其ノ要部ヲ認メ難キトキ又ハ字体改竄塗抹ノ痕跡アルトキ
- 第十一條 縣出納吏現金ヲ縣金庫ニ委託スルトキハ委託金拂込書ヲ添付シ縣金庫ハ縣出納吏ニ保管證ヲ差出スヘシ
- 第十二條 縣出納吏委託シタル現金ヲ縣金庫ヨリ引出ストキハ引出切符ヲ用ユヘシ
- 第十三條 縣金庫縣出納吏ヨリ現金ノ委託ヲ受タルトキハ現金出納簿ニ登記セス別ニ受拂簿ヲ設ケ整理スヘシ
- 第十四條 縣出納吏ハ出納ニ用ユル印鑑ヲ縣金庫ニ交付シ置クヘシ
- 第十五條 縣金庫事務ヲ取扱フ銀行ハ出納ニ用ユル印鑑及取扱人ノ氏名印鑑ヲ知事并ニ縣出納吏ニ届ケ置クヘシ
- 第十六條 縣會計ニ關スル帳簿計算書等ハ別冊様式ニ據ルヘシ
- 第十七條 此ノ手續ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

(様式省略)

●五第二三〇號 (明治三十三年五月二十五日)

知事官房 内務部 警察部

縣費ニ屬スル仕拂命令ノ事務三十三年度所屬ノ分ヨリ内務部第五課ニ屬シ候ニ付テハ各債主ヨリ差出ス請求書等左ノ手續ニ據リ主務部課ニ於テ調査シ課長及主任者認印ノ上内務部第五課ニ送付スヘシ

- 一 縣會計ニ關スル取扱手續第六條ノ請求書支出請求調書及縣會計規則第二十四條ノ返納書ハ別紙様式ニ據ルヘシ
- 二 請求書又ハ支出請求調書ニ因リ支出費目ノ判別シ難キモノハ主務課ニ於テ請求書又ハ支出請求調書ノ右側欄外ニ科目ヲ記入スヘシ
- 三 受領人縣廳ニ出頭シテ仕拂ヲ受クルモノハ主務課ニ於テ請求書金額ノ上部欄外ニ直接拂ノ印ヲ押捺シ且豫メ領收證(捺印セス)ヲ添付スヘシ
- 四 隔地ニ送金ヲ要スルモノハ前項箇所ニ^{送金}ノ印ヲ押捺スヘシ
- 五 同一節(節ヲ分タサルモノハ目)ニシテ支拂期日ノ異ナラサルモノニ限り請求書若クハ調書ヲ連名ニ認ムルコトヲ得但直接拂ト送金拂トハ各別ニ調製スヘシ

(様式ハ容ス)

●訓令甲第十號

(明治三十三年五月十四日)

知事官房 内務部 警察部 監獄署 郡役所 警察署 監獄支署 縣立學校 縣出納吏

縣會計ニ關スル收支證憑書類調理規程左ノ通相定ム

證憑書類調理規程

- 第一條 縣經濟ノ收支ニ關スル證憑書類ハ此ノ規程ニ據リ調理スヘシ
- 第二條 證憑書類中金員ニ關スル數字ハ壹貳參拾ノ字体ヲ用フヘシ又文字ヲ改竄塗抹加記シタルトキハ本人ノ證印ヲ爲サシムヘシ
- 第三條 證憑書類ノ文字ハ鉛筆其ノ他字体ノ消滅シ易キモノヲ用ウルコトヲ得ス
- 第四條 歳入歳出ノ證憑書類ハ正當受取人ノ領收證憑縣金庫ノ領收濟通知書保管證又ハ工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル契約書其ノ他事實ノ確實ヲ證スル書類トス但契約書等ノ書類ニシテ原本ヲ差出シ難キ場合ニ於テハ當該官吏又ハ吏員ノ保證アル謄本若シクハ抄本ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
- 第五條 正當受取人ノ領收證書ヲ得難キ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ詳記セル仕拂證明書ニ當該上官ノ認定ヲ受ケタルモノヲ以テ之ニ代用スヘシ
- 第六條 代理人ノ領收證書ニハ必ス本人ノ委任狀ヲ添付セシムヘシ
- 第七條 競争契約ニ依リタル賣買貸借ニ關スル契約書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ但再度競争入札ニ付シタルモノハ前後兩回ノ書類ヲ添付スヘシ

- 一 公告文又ハ指名者ノ人名但公告ハ其方法ヲ付記スヘシ
 - 二 豫定價格調書
 - 三 落札以下第三位マテノ入札
- 前項ノ契約書ニ關シ當初契約セシ事項ニ異動ヲ生セシトキハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添付スヘシ
- 第八條 隨意ノ契約ニ依リタル物件代價ノ證書ハ隨意ノ契約ニ依リタル説明書ヲ添付スヘシ但縣會計規則第五十三條第五乃至第七ハ此ノ限りニアラス
- 第九條 縣會計規則第二十一條ニ依リ仕拂ヒタル領收證書ニハ主任官吏又ハ吏員ノ證明書ヲ添付スヘシ
- 第十條 内金渡ヲ爲シタル殘金ノ領收證書ニハ仕拂フヘキ總高及内金渡ヲ爲シタル年月日及金額ヲ記入シ差引計算ヲ明瞭ナラシムヘシ
- 第十一條 物件買入代價ノ領收證書ニハ品名數量及單價ヲ明記セシメ用途ノ判別シ易カラサルモノハ其旨ヲ附記スヘシ
- 第十二條 俸給及其ノ他一定ノ給與ニシテ任免黜陟缺勤等ノ事故ニ依リ異動ヲ生シタルトキハ領收證書ニ其事由ヲ附記スヘシ

- 第十三條 仕拂期日ノ定リタルモノニシテ其ノ期限ニ先チ又ハ後レテ仕拂ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ附記スヘシ
- 第十四條 諸手當賞與給與慰勞金等ノ領收證書ニハ其事由ヲ詳記セシメ且特例ニ屬スルモノハ其ノ事由ヲ認ムヘキ書類ヲ添付スヘシ
- 第十五條 旅費ノ領收證書若クハ精算證書ニハ其ノ用務及旅行ノ日數年月日里程宿泊場所ヲ詳記セシメ若クハ其ノ明細書ヲ添付セシムヘシ
- 迂路ヲ經テ旅行セシモノ又ハ病氣其ノ他事故ニ依リ特ニ日數ヲ要シタルトキ若クハ旅費ノ實費拂又ハ割増ヲ爲シタルトキハ當該上官ノ認許證ヲ添付セシムヘシ但便宜證書ノ餘白ニ認許ノ證印ヲ受クルモ妨ケナシ
- 第十六條 職工人夫賃ノ領收證書ニハ使役ノ用件及期間並ニ一日ノ賃金ヲ明記セシムヘシ
- 第十七條 補助金ノ領收證書ニハ其ノ補助ヲ受クル事件ノ要領ヲ記載セシムヘシ
- 第十八條 證憑書類ノ編纂ハ各款毎ニ別冊トシ各冊中ニ於テ之ヲ各目(節)ニ區分シ別紙第一號樣式ニ據リ金額ヲ表記シ袋綴ト爲スヘシ
- 第十九條 現金前渡ヲ受ケタル縣出納吏ノ領收證書ハ未精算證憑書トシ各款毎ニ之ヲ別冊ニ編纂スヘシ

第二十條 概算渡ニ對スル領收證書ハ精算ニ至リタルトキ該精算證書ト共ニ之ヲ差出スヘシ
 第二十一條 一領收證書ニシテ數科目ニ屬スルモノアルトキハ其ノ金額及事項ヲ各科目ニ區別シ
 タル書類ヲ作り之ヲ本領收證書ニ添付シテ甲科目ニ編入シ乙科目ニ係ル分ハ其ノ金額事項及本
 證書編入ノ科目ヲ朱記シタル書類ヲ乙科目ニ編入スヘシ
 第二十二條 毎年度最終ノ計算書提出ノ期ニ際シ若シ領收證書ノ到達セサルモノアルトキハ其ノ
 理由ヲ記載シタル書面ヲ假リニ證書書類ニ編入シ其ノ到達シタルトキハ直ニ之ヲ提出スヘシ
 第二十三條 各庫ニ於ケル歳入ノ縣金庫領收簿通知書又ハ保管證書ハ計算書ニ添付セス毎月類別
 編纂シ金額收數ヲ表記シテ保管シ置クヘシ但收入計算書ニハ別紙第二號様式ノ仕譯書ヲ添付ス
 ヘシ

第一號様式ノ一

明治何年何月分

何年度何々(款)支出證書 何枚(表紙ヲ除ク)

一金何圓

精算高

外

金何圓

本月未精算高

計金何圓
 内 金何圓 前月未精算高
 差引
 金何圓 本月支出高
 外

金何圓(朱書)

戻入

高(精比拂ニ對スル分)

第一號様式ノ二

(項)(目)(節)

一金何圓

精算高

外

金何圓

本月未精算高

計金何圓

内

金何圓

前月未精算高

差引
 金何圓
 外
 本月支出高
 高(精算拂ニ
對スル分)

第二號様式

明治何年度縣稅外諸收入何年何月收入仕譯書

一金何圓	何々(項)	何々(目)
仕譯金額	事	由納
一何程	何々(項)	何々(目)
仕譯金額	事	由納
人		

右之通ニ候也

明治何年何月何日

何麻縣出納吏

何

某團

●五第八〇〇號

(明治三十五年三月四日)

各麻長 內務部長通牒

從來各麻ニ於テ徵スル領收證書ニシテ全部當該會計主任ニ於テ代署セシモノヲ往々見受ケラレ候
 得共自今其金額姓名ニ限リテ必ス自署セシメラレ度若シ自署シ得サル者ニアリテハ代署ノ上其理
 由附記セラレ度此段及通牒候也

●五第八八三號

(明治三十五年三月八日)

各麻長 內務部長通牒

郵便切手購買代ハ三十三年訓令甲第十號縣會計ニ關スル收支證憑書調理規程第五條ニ據リ正當領
 收證ヲ得難キモノトシ縣出納吏ノ仕拂證明書ヲ以テ領收證ニ換ヘ整理セシ向モ有之候得共三十五
 年度以降出張先仕拂ヒニ係ルモノヲ除クノ外正當領收證ヲ以テ整理候様致度依命此段及通牒候也

●廳中達第四六號

(明治三十五年六月四日)

知事官房 內務部 警察部

縣經濟ニ屬スル收支ノ決算ハ內務部第五課ノ主管ナルモ費途ノ細節施設ノ實蹟ニ至テハ固ヨリ各

主務課ニ於テ精密調査ヲ遂ケ以テ決算ヲ完整スヘキハ勿論ノ儀ニ付平素茲ニ留意シ當該年度出納閉鎖ノ上ハ遅クモ十五日以内ニ於テ其所管經費ノ精算書ヲ作り増減ニ對スル詳細ノ説明ヲ付シ之ヲ内務部第五課ニ回付スヘク尙又決算報告ノ場合ニハ宜シク第五課ト協合シテ説明上諸般ノ遺漏ナキヲ期スヘシ

●縣令第三十三號

(明治三十二年六月二十三日)

郡役所、警察署、監獄署、全支署、縣立學校ニ於テ收納スル縣稅外諸收入ノ納入告知書ハ郡長、署長、支署長若クハ學校長之ヲ發ス

●訓令丙第一二六六號

(明治三十三年十月十六日)

郡 役 所

明治三十一年十一月甲第三十二號市町村傳染病豫防費補助規程施行細則ニ依リ補助費ノ申請書ヲ受理シタル時ハ當該證憑書類ヲ査閲シ其相違ナキヲ認メ捺印ノ上進達スル義ト心得ヘシ
右訓令ス

●第五六〇〇五號

(明治三十二年十一月十八日)

静岡市役所 内務部長通牒

縣稅徵收費交付金之義ハ前期自四月至九月後期自十月至三月ノ兩回ニ交付可致ニ付左記様式ノ仕譯書ヲ添ヘ翌月

十日迄ニ請求書差出相成度此段及通牒候也

追テ三十二年度前期分ハ本月十五日迄ニ請求書差出相成度申添候也

(別紙) 明治何年度自何月 至何月前(後)期縣稅徵收費交付金仕譯書

營業稅	雜種稅	營業稅附加稅	戶數割	過年度追納金	計	交付金
円	円	円	円	円	円	円

●告示第六十二號

(明治三十三年三月三十一日)

明治三十二年四月告示第四十六號縣金庫名稱位置明治三十三年四月一日ヨリ左ノ通更定ス(三十四年中加除改正)
(十號ヲ以テ表)

名 稱	所 屬 廳 庫	位 置
静岡縣本金庫	縣 農事試驗場	静岡市追手町株式會社静岡農工銀行内
静岡市縣支金庫	安 倍 郡 役 所	静岡市兩替町三丁目株式會社静岡實業銀行内
静岡警察署所屬金庫事務取扱	師 範 學 校	静岡市吳服町二丁目株式會社静岡銀行内
静岡中學校所屬金庫事務取扱	靜 岡 中 學 校	静岡市吳服町三丁目株式會社掛川銀行静岡支店內
下田縣支金庫	下 賀 田 郡 警 察 署	賀茂郡下田町株式會社下田銀行内

三島町縣支金庫	田方郡役所	田方郡三島町株式會社伊豆銀行內
沼津町縣支金庫	駿東郡役所	駿東郡沼津町木株式會社駿東實業銀行內
沼津警察署所屬 縣金庫事務取扱	沼津警察署	駿東郡沼津町上土株式會社御厨銀行內
吉原町縣支金庫	富士郡役所	富士郡吉原町株式會社吉原銀行內
吉原警察署所屬 縣金庫事務取扱	吉原警察署	富士郡吉原町株式會社興業銀行內
江尻町縣支金庫	庵原郡役所	安倍郡清水町清水受新田株式會社清水銀行內
江尻警察署所屬 縣金庫事務取扱	江尻警察署	庵原郡江尻町江尻株式會社東遠銀行江尻支店內
藤枝町縣支金庫	志太郡役所	志太郡藤枝町本株式會社共盛銀行內
川崎町縣支金庫	榛原郡役所	榛原郡川崎町靜波株式會社東遠銀行內
掛川町縣支金庫	小笠郡役所	小笠郡掛川町掛川株式會社掛川銀行內
掛川中學校所屬 縣金庫事務取扱	掛川中學校	小笠郡掛川町掛川株式會社信銀行內
森町縣支金庫	周智郡役所	周智郡森町森株式會社森町銀行內
見附町縣支金庫	磐田郡役所	磐田郡見附町株式會社中遠銀行內
見附町縣支金庫	農見附郡役所	濱名郡濱松町傳馬株式會社濱松信用銀行內
濱松町縣支金庫	濱松警察署	

濱松中學校所屬 縣金庫事務取扱	濱松中學校	濱名郡濱松町鍛冶株式會社資產銀行內
氣賀町縣支金庫	引佐郡役所	引佐郡氣賀町氣賀株式會社氣賀銀行內
氣賀警察署所屬 縣金庫事務取扱	氣賀警察署	引佐郡金指町株式會社金指銀行內

●甲第十號

(明治三十一年三月二十九日)

知事官房 內務部 警察部 監獄署 郡役所
警察署 警察分署 監獄支署 縣立學校

静岡縣物品會計規則左ノ通相定ム

静岡縣物品會計規則

第一章 總 則

第一條 縣經濟ニ屬スル物品會計ハ總テ此規則ニ據ル但特別ノ須要ニ依リ本規則ニ準據シ難キモノアルトキハ特別物品會計規則ヲ設クルコトヲ得

第二條 本規則ニ於テ物品ト稱スルハ縣經濟ニ屬スル器具器械備品消耗品動物其他一切ノ動産ヲ云フ

第三條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二ヶ月ヲ以テ一年度トス

第四條 物品ノ會計ハ現ニ其出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度所屬ヲ區分スヘシ

第五條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品出納吏トシ左ノ吏員ヲ以テ之ニ充ツ但必要アルトキハ特ニ命スルコトアルヘシ

一 内務部第四課長

二 監獄署獄務課長

三 郡役所第二課長

四 警察署、警察分署、監獄支署、縣立學校其他ノ各所ニ於テハ調度主任上席者

第六條 内務部各課警察部監獄署ニ物品取扱主任一名若クハ數名ヲ置キ物品出納ノ事務ヲ取扱ハシム

第二章 出納

第七條 物品出納吏ハ部署廳長ノ命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス但恒例ノ物品出納ハ物品出納吏限リ執行スルコトヲ得

第八條 物品ノ出納ハ消耗賣却亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其他物品出納吏ノ保管ヲ離ル、ヲ出トシ買入生産及其他物品出納吏ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第九條 物品出納吏ハ購入其他ノ事由ニヨリ物品ヲ接受シタルトキハ證憑書類ニ照シ調査納入シ

又使用者ニ交付シタルトキハ領收證書ヲ徴スヘシ

第十條 交付済ノ物品使用ニ致ラスシテ不用ニ屬シタルモノアルトキハ受取人ヲシテ返納セシム

第三章 保管責任

第十一條 物品出納吏ハ物品ノ保管出納ニ就キ一切其實ニ任ス

第十二條 物品取扱主任ノ保管ニ係ルモノハ其保管者各自専用ニ係ルモノハ専用者其實ニ任ス

第十三條 物品出納吏ハ物品取扱主任ノ保管ニ係ルト専用者ノ保管ニ係ルモノトテ問ハス物品ノ取締上ニ關シテハ總テ監督ノ任アルモノトス

第十四條 物品出納命令官ハ物品ヲ亡失毀損シタルモノアルトキハ其者ヲシテ事由ヲ詳記シタル書面ヲ差出サシメ之レカ頗末ヲ精査シ其故意怠慢ニ係ルモノハ物品又ハ代價ヲ辨償セシムヘシ
前項ノ場合ニ於テ辨償ヲ命スヘキモノハ其理由ヲ付シテ本人ニ告知スヘシ

第十五條 物品出納吏ハ特ニ命セラレタル代理者ノ所爲ニ付テハ其責任ヲ免ル、コトヲ得
前項代理者ハ其代理スル所爲ニ付テハ物品出納吏タルノ責任ヲ免ル、コトヲ得ス

第十六條 凡ソ貯藏ノ物品ハ品種數量ヲ明瞭ニシ倉庫又ハ締アル場所ニ藏置スヘシ

第十七條 使用中ノ物品ハ毎年一回物品出納吏ニ於テ其現品ヲ點檢スヘシ但必要ト認ムルトキハ

臨時點檢スルコトヲ得

第四章 計算帳簿

第十八條 物品出納吏ハ物品出納簿ノ結果ニヨリ毎年出納計算書ヲ調製シ年度後二ヶ月以内ニ出納命令官ノ檢閲ヲ經テ知事ニ差出スヘシ

第十九條 物品出納吏及物品取扱主任交替シタルトキハ互ニ受授ノ手續ヲ了シ出納ノ計算ハ繼續シテ後任者之ヲ取扱フヘシ但本條受授ノ手續ヲ了シタルトキハ双方連署ノ上其旨出納命令官ニ届出ヘシ但前任者死亡其他ノ事故ニヨリ自身引繼ヲナス能ハサルトキハ出納命令官ニ於テ特ニ代務員ヲ命シ引繼ヲナサシムヘシ

第二十條 物品出納吏及物品取扱主任ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ

一 備品明細簿

二 消耗品受拂簿

第二十一條 郵便便手ハ其使用者ニ於テ受拂簿ヲ設ケ日々郵便電信發送箇所及度數切手金高ヲ明記シ置クヘシ

第五章 雜則

第二十二條 不用ニ屬スル物品及毀損シテ修補ヲ加ヘ難キ物品ハ知事又ハ各廳長ノ指揮ヲ得テ處

分スヘシ

第二十三條 此ノ規則ハ明治三十一年四月ヨリ施行ス

(書式略ス)

第一 縣稅其他徵收

●縣令第四十八號 (明治二十三年四月六日)

明治三十三年^三勅令第八十一號ニ依リ縣稅徵收ニ關スル細則左ノ通相定ム

第一條 縣稅徵收ノ命令ハ郡ニ在テハ郡長市ニ在テハ市長之ヲ發スルモノトス

第二條 徵稅令書ハ左ノ區分ニ依ル

一 郡長ヨリ町村ニ對シ發スルモノハ第一號様式

二 市長ヨリ納稅人ニ對シ發スルモノハ第二號様式

徵稅令書ヲ發スル期日ハ第一號ニアツテハ納期限十五日以前第二號ニアツテハ納期限七日以前トス(三十五年縣令第十九號全第五十號ヲ以テ本條項改正追加)

第三條 郡市長ハ徵稅令書ヲ出納吏又ハ收入役ニ交付スヘシ出納吏又ハ收入役ハ收納簿ニ其金額ヲ記載シ直チニ町村長又ハ納稅人ニ交付スルモノトス

第四條 郡長ハ町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シタル後其稅額ニ増減ヲ生シタルトキハ増額ハ更ニ徵稅令書ヲ發シ減額ハ減額通報書ヲ發スヘシ

市町村長ハ納稅人ニ對シ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ヲ發シタル後納期前ニ於テ稅額ニ増減ヲ生シタルトキハ之ヲ更正スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ徵稅令書及通報書交付ノ手續ハ第三條ノ順序ニ係ル

第五條 徵稅傳令書ハ第三號様式ニ依ル

徵稅傳令書ヲ發スル期日ハ徵稅令書ヲ受ケタル日ヨリ後七日以内トス(三十五年縣令第十九號同第五十號ヲ以テ改正)

第六條 市町村ニ於テ領收シタル稅金ハ遲滯ナク漸次縣金庫ニ拂込ミ遅クトモ納期後三日ヲ過クルコトナカルヘシ

前項縣金庫ニ拂込ヲナストキハ第四號様式ノ拂込書ヲ添付スヘシ(三十五年縣令第十號九號ヲ以テ改正)

第七條 滯納者處分前ニ於テ稅金ヲ縣金庫ニ納付スルトキハ第五號様式ノ拂込書ニ督促狀ヲ添付スヘシ(全上)

第八條 縣金庫ハ市町村又ハ納稅人ヨリ稅金ヲ領收スルトキハ徵稅令書又ハ拂込書ヲ切離シテ之ヲ取り領收證書ヲ市町村又ハ納稅人ニ交付シ別符ヲ以テ所屬ノ縣出納吏ニ通知スヘシ(全上)

第九條 明治三十三年勅令第八十一號第六條第一項ノ滯納報告ハ納期後四日以内ニ之ヲ爲スヘシ

(三十五年縣令第五十號ヲ以テ改正)

第十條 督促狀ハ町村長ヲシテ之ヲ發付セシムルコトヲ得

町村長督促狀ヲ發シタルトキハ滯納報告書ニ其指定セル納期其他必要ナル事項ヲ付記スヘシ(全上追加)

第十一條 督促狀ヲ發スルトキハ手数料トシテ一通毎ニ金拾錢ヲ徵收ス督促狀ヲ發スル行政廳ノ所在地以外ノ市町村ニ在ル滯納者ニ對シテハ増手数料トシテ脚夫ヲ以テスル場合ハ其ノ里程ニ應シ一里毎ニ金拾錢郵便ヲ以テスル場合ハ郵便料(書留料共)ヲ徵收ス(全上)

第十二條 督促狀ニ指定スル納期限ハ特別ノ事情アルモノヲ除ク外七日以内ニ之ヲ定ムヘシ(全上)

第十三條 納期ヲ同フスルニ稅以上ノ滯納者ニ對スル督促ハ之ヲ一紙ニ列記シテ發スルコトヲ得(全上)

第十四條 督促狀ハ第六號様式ニ依ル(全上)

第十五條 本則第七條ノ場合并滯納處分ニ依リ稅金ヲ收納シタルトキハ出納吏ハ其稅目金額收入年月日及滯納人ノ住所氏名ヲ町村長ニ通報スヘシ但欠損ニ歸シタルトキ亦同シ(全上改正)
(様式略ス)

●甲第四號

(明治二十四年二月十七日)

郡役所 市役所 町村役場

明治二十三年九月法律第八十八號府縣稅徵收法第八條ニ據リ縣出納吏ノ發スル領收證交付手續左ノ通相定メ來ル二十四年度ヨリ施行ス

- 一 市町村收入役ハ各納稅人ヨリ稅金ヲ領收シタルトキハ明治二十二年三月訓令甲第二十一號地方稅收入取扱順序ニヨリ領收證ヲ各納稅人ニ交附スヘシ(二十四年甲第七號ヲ以テ修正)
- 一 町村長ハ徵稅令書ニ現金ヲ添ヘ爲換方ヘ預入レタルトキハ其徵稅令書若クハ分納書ヲ郡長ニ差出シ郡長ハ是レニ金額領收ノ年月日ヲ記入シ記名捺印ノ上町村長ニ交附スヘシ
- 一 郡長ハ前項ノ記入ヲ爲スニ當リ余白ナキトキハ領收證箋ヲ製シ是ヲ貼付スヘシ
- 一 府縣徵收法第七條ニヨリ郡長ノ發スル徵稅令書式ハ地方稅收入取扱順序第五號書式ニ準シ調製スヘシ

●五第四九〇九號

(明治三十二年八月二十三日)

静岡市長 內務部長通牒

自今左記様式ニ據リ縣稅收入報告書ヲ調製シ稅金納付ノ都度差出スヘシ
但從前ノ納額報告書並ニ納金仕譯書ハ差出スニ及ハス

(様式ハ容ス)

●五第一一一九號

(明治三十三年三月二十日)

監獄署長 全支署長 內務部長通牒
郡長 警察署長 學校長

歲入金ハ縣稅ト雜收入トヲ問ハス其ノ年度出納閉鎖前ニ完納ヲ要スルモ若シ出納閉鎖ニ當リ縣稅外諸收入ニ於テ收入未濟ノモノアルトキハ別紙仕譯書ヲ作り其ノ月ノ收入報告書ニ添付シ差出シ相成度依命此段及通牒候也

追テ縣會計規則第十條ノ稅外諸收入調定額明細書ハ三十一年十一月四第九九四九號通牒之通提出ニ及ハサル義ニ付爲念申添候也

●四第二九四一號

(明治三十一年五月六日)

各郡長 內務部長通牒

縣歲入地租割其他當該年度出納閉鎖後收納ヲ要スル場合ハ該年度當該科目ニ收納セス別ニ左記科目ヲ以テ整理スル義ニ有之候條右御了知有之度此段及通牒候也

歲入經常部

款	項	目
		歲入經常部

雜	收	入	過	年	度	縣	稅	追	納
地	租	割	地	租	割	地	租	割	地
營	業	稅	營	業	稅	營	業	稅	營
雜	種	稅	雜	種	稅	雜	種	稅	雜
營	業	附	營	業	附	營	業	附	營
戶	數	割	戶	數	割	戶	數	割	戶
納	納	納	納	納	納	納	納	納	納

●五第四一〇九號

(明治三十二年七月五日)

各郡長 內務部長通牒

縣稅納稅者へ下付スル鑑札用品代價之義是迄概テ縣會計規則第十三條ニヨリ取扱來リ候處自今紙製ノ分ハ當應ニ於テ調製現品ヲ以テ回送スヘキニヨリ需用ヲ豫算シ毎年三月及ヒ九月ノ二回ニ半年度分ツ、御請求相成度木製ノ分ハ左ノ標準額以內ニ於テ御郡ニテ調製ノ見込ヲ以テ製造者ヨリ價格見積リ書ヲ徵シ當應ノ指揮ヲ請ハレ度依命此段及通牒候也

追而紙製之分本年度前半期ニ屬スル分ハ此際御請求相成度此段申添候

價格標準

- 一 縣稅ニ關スル取扱手續第一號式鑑札 一枚ニ付 金五厘
- 一 全 第三號式鑑札 一枚ニ付 金壹錢八厘

●一第二四八二號ノ一

(明治三十五年六月十七日)

各郡長 內務部長通牒

郡ニ於ケル使用料手数料等ヲ定期内ニ納メサル者ニ對シ督促狀ヲ發シ督促手数料ヲ徵收スルノ必要アルトキハ郡制第二十九條及明治三十二年勅令第三百十五號ニ依リ夫々規定ヲ設ケ徵收シ得ヘキ筋ニ有之候條爲御心得依命此段及通牒候也

●訓令甲第十二號

(明治三十五年四月十五日)

警察署

本年二月法律第十一號ニ依リ監獄費ヨリ償還ヲ受クヘキ費用取扱方左之通相定ム

- 一 縣ニ償還ヲ受クヘキ費額ハ一人一日ニ付金貳拾錢トス但一日内ニ於テ出入スル者モ一日ヲ以テ計算ス

- 一 前項費額ハ一ヶ月毎ニ取纏メ監獄署へ請求スヘシ

- 一 收入ノ上ハ縣歳入經常部雜收入ノ款雜入ノ項監獄費償還金ノ節ヲ以テ整理スヘシ

●甲第十五號

(明治三十二年七月一日)

郡役所 市役所 町村役場

小學校及實業補習學校教員恩給基金收納規程左ノ通相定ム

小學校及實業補習學校教員恩給基金收納規程

第一條 市町村立小學校教員恩給料及遺族扶助料法第十四條第二項并ニ明治二十九年^三法律第十
三號第一條公立實業補習學校教員ニ關スル納金ハ其ノ義務者市ナルトキハ縣廳ニ於テ郡若クハ
町村^{町村學校ナルトキハ郡役所ニ於テ}組合^{組合共}ナルトキハ郡役所ニ於テ收納ス

第二條 前條ノ納金ハ一會計年度分テ四期ニ分テ左ノ期限内ニ納付セシム

第一期 四、五、六月分 七月十五日限

第二期 七、八、九月分 十月十五日限

第三期 十、十一、十二月分 一月十五日限

第四期 一、二、三月分 四月十五日限

第三條 郡長ニ於テ各納入義務者ノ納額ヲ調定シ納入告知書ヲ發スルハ毎期末日後五日迄トス
前項ノ調定額ハ別紙様式ニ依リ製表シ每期其ノ收納期日前縣知事ニ報告スヘシ

第四條 前各條ノ外郡役所ノ取扱ハ靜岡縣會計規則ニ依ル

(表式略ス)

●五第三二五一號 (明治三十三年七月十一日)

各郡長 內務部長通牒

市町村立小學校教員加俸ニ對スル市町村納金ハ明治三十二年^七甲第十五號小學校及實業補習學校
教員恩給基金收納規程第二條中第二期ニ於テ四月ヨリ九月迄ノ分テ第四期ニ於テ十月ヨリ三月迄
ノ分ヲ納付セシメ候様御取扱相成度此段及通牒候也

●訓令丙第二三八號 (明治三十四年五月六日)

靜岡市役所

小學校教員檢定願書ト共ニ檢定手数料ヲ送納スルトキハ左ノ書式ニ依リ送金表ヲ調製シ料金ニ添
へ差出スヘシ

右訓令ス

小學校教員檢定手数料送金表

一金 何圓

此譯

願書日付	檢定區別	住	所	氏	名
何月何日	小學校本科正教員	何市何町何番地	何	何	某
何月何日	々	何市何町何番地	何	何	某

右及送金候也

何年何月何日

縣廳宛

何市役所

第一二 縣稅滯納處分

●甲第五號

(明治三十一年二月十日)

郡役所 市役所 町村役場

縣稅徵收並ニ滯納處分取扱方左ノ通心得ヘシ

第一條 縣稅滯納處分ノ爲メ財產差押ヲ爲ストキハ國稅徵收法第十一條ノ證票ハ縣稅徵收命令ノ委任ヲ受ケタル命令者之ヲ發スヘシ
前項ノ證票ハ左ノ如シ

用紙厚紙縱二寸五分横一寸五分

第何號
縣稅滯納者財產差押證票
郡(市)役所印

裏
官(職)氏名

第二條 國稅徵收法第九條其ノ他ニ掲クル收稅官吏ノ事務ハ郡長又ハ市長之レヲ取扱フヘシ但郡長ハ便宜町村長ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ又遠隔セル町村ニ在テハ其ノ事務ノ全部ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第三條 町村長ハ前條但書ノ命令ヲ受ケタルトキハ國稅徵收法第三章ノ規定ニ依リテ處理シ完了ノ上ハ其顛末ヲ詳記シ郡長ニ申報スヘシ

第四條 滯納處分費ノ納金ハ郡役所ニ於テ處分スルモノハ縣稅雜收入トシ市役所町村役場ニ於テ處分スルモノハ各其ノ經濟ニ收入スヘシ

第五條 國稅徵收法第二十四條ノ物品買上代金ハ事由ヲ詳記シ郡長又市長ハ縣廳ニ之ヲ請求シ町村長ハ郡長ニ請求スヘシ

●乙第三號 (明治十八年一月二十三日)

各郡

地方稅ヲ納ムルモノノ納稅期限前逃亡等ニテ右期限ヲ過キ歸籍セス税金不納ノモノハ明治十二年本縣乙第百六號違第四項ニ據リ處分スヘキノ處其財產ノ所在不分明ニシテ公賣處分ヲ爲シ能ハサルモノハ納期後三十日內ニ一旦損失ヲ申出他日本人歸籍又ハ所在發見シタルトキ每期ニ係ル不納稅ヲ追徵候儀ト可心得此旨相達事(明治十八年乙第百五十一號ヲ以テ更正)

●丙第七十七號

(明治十八年九月十日)

郡 町 村

民事裁判上身分限財產處分ノ場合ニ限リ郵便切手四枚以上聯續セサル者ト雖トモ買戻ノ請求ヲナスコトヲ可得旨明治十八年^四本縣丙第二十八號ヲ以テ相違候處諸税金^(戸數)不納者ニシテ財產公賣ノ場合ニ於テモ右ニ準據シ買戻ノ請求ヲナスコトヲ得ヘシ此旨相違候事

●達第七號

(明治二十年二月三日)

郡 役 所

租税不納ノ爲メ地所建物船舶ノ公賣處分ニ着手スルトキ又ハ其公賣處分ヲ取消シタルトキハ速ニ其旨公賣財產所在地ヲ管轄スル登記所ヘ通報スヘシ
但地方税其他モ本文ニ據ルヘシ

●達第十一號

(明治二十年一月二十九日)

郡 役 所 戶長役場

本年二月一日ヨリ登記法實施ニ付テハ租税不納者公賣ニ附スヘキ物件ニ關シ債主ノ有無ハ其時々登記所ニ取調方ヲ照會スヘシ

但地方税其他モ本文ニ據ルヘシ(明治二十年達第二十
八號ヲ以テ但書追加)

●達第二十八號

(明治二十年十一月二十六日)

郡 役 所 戶長役場

租税不納ニ係ル物件ニ關シ賣買讓與等總テ所有移轉ニ就キ登記ノ有無ハ其時々登記所ニ取調方ヲ照會スヘシ

但地方税其他モ本文ニ據ルヘシ

●訓令甲第四十三號

(明治二十一年十二月二十一日)

郡 役 所 戶長役場

租税及地方税其他不納ニ係ル物件公賣處分ニ際シ債主ノ有無登記所ヘ照會及ヒタルトキハ登記法第九條ノ記入有無ヲモ取調回答可有之等今般別紙ノ通司法大臣ヨリ登記所ヘ指令相成タルニ付此旨心得ヘシ (別紙容ス)

●訓令甲第四十四號

(明治二十一年十二月二十一日)

郡 役 所 戶長役場

租税及地方税其他不納ニ係ル物件公賣ノ際登記法第九條ノ記入アル場合ニ於テハ其取扱方左ノ通心得ヘシ

第一 不納ニ係ル物件ニ登記法第九條ノ記入アルトキハ一應其權利者ヘ未納税アル旨ヲ通告シ權

利者之ヲ辨納セサルニ於テハ公賣ヲ行フモノトス但其際登記取消方ヲ裁判所へ照會スヘシ
第二 公賣決行後代金ニ剩餘ヲ生スルトキハ該剩餘金ハ郡役所ニ於テ之レヲ預リ置其旨裁判所へ
通知シ同所ノ照會ニ依リ之レヲ處分スヘシ

●一第二一五〇號 (明治三十三年五月十二日)

縣收入ノ滯納處分ヲ縣外ニ於テ爲スコトヲ要スルトキハ郡市長ハ其ノ處分ヲ爲スヘキ地ノ島司郡
市區長ニ直接囑托スヘシ又同上ノ件ニ付他府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル島司郡市區長ヨリ囑托
アリタルトキハ之ニ應スヘシ

第三章 恩給及諸給與

第一 年金恩給等

●丙第一號 (明治三十二年三月二十八日)

郡役所(安倍郡) 町村役場

年金恩給及扶助料ハ當廳ヨリ直チニ本人へ送金スヘキニ付其町村居住ニ係ル受領者ノ年金又ハ恩
給扶助料證書ヲ檢閲シ本人ノ生存ヲ認メ身上異動ノ有無ヲ調査シ其渡シ期月七日迄ニ別紙書式ノ
報告書ヲ調製シ當廳へ報告スヘシ(三十三年丙第一號ヲ以テ書式改正)

證書檢閲報告

證 種 類	書 額		現 住 所	證 書 檢 閱 事 由	上 本 人 動 身
	年 額	每 期 額			
	圓	圓	現 住 所	證書檢閲異狀及故障ノ有無ヲ記スヘシ	
			舊官名(扶助料ハ權利ノ起因)		
			氏 名		
			孤兒ハ生年月日ヲ謄書シ後見人住所氏名ヲモ記入スヘシ		

右及報告候也

明治三十三年 月 日

何郡何町村長 何

某 印

静岡縣知事宛

備 考

- 一 種類ノ欄へハ金鵄勳章年金、旭日勳章年金、文官恩給、文官遺族扶助料、陸軍恩給、陸軍遺族扶助料、海軍恩給、海軍遺族扶助料等ノ區別記載スヘシ
- 一 舊官名ノ欄へハ年金及恩給證書ニ記入シアル肩書ヲ記載スヘシ

一 扶助料受領者權利起因ノ欄ハ例之ハ故陸軍何兵何等卒何某寡婦又ハ父母孤兒ト記載スヘシ

一 本人身上異動ハ左ノ事項特ニ注意ヲ要ス

一 本人死亡年月日

一 父母祖父母寡婦孤兒ノ戶籍ヲ去リシ年月日

一 孤兒ハ他家ノ養子女トナリシ年月日及生年月

一 孤兒ノ后見人タルコトノ證明

一 孤婦及寡兒ハ婚嫁シタル年月日

一 現住所ノ欄ハ郡町村大字番地ヲ記入スヘシ

一 受領者代人ナルトキハ市町村長ノ證明シタル委任狀寫ヲ添付スヘシ

●丙第十五號 (明治十八年二月十七日)

郡 町 村

明治八年四月太政官第四十八號達陸軍武官傷痍扶助及死亡之者祭葬并其家族扶助概則及同年八月同官第四百四十八號達海軍退隱令ニ據リ給與可相成扶助料及退隱料ハ自今毎年一月四月七月十月ニ前三ヶ月分ノ金額ヲ交付候條此旨相達候事

●丙第二十七號

(明治十九年四月六日)

郡 町 村

陸海軍恩給令並官吏恩給令ニ依リ恩給若クハ扶助料ヲ受クル者其受領ノ權利消絶ニ至リ又ハ轉籍及改姓名發本人ニ異動ヲ生スルトキハ速ニ届出サスヘシ他管下ニ寄留ノ者ハ其旨本籍戶長ヨリ速ニ可届出此旨相達候事

但陸軍武官傷痍扶助概則並海軍退隱令ニ依リ退隱料ヲ受クル者モ本文ニ準ス

●告示第四十一號

(明治三十二年三月二十八日)

年金恩給及扶助料受領者ハ支給期月ノ五日迄ニ該證書ヲ町村長ニ差出シ檢閲ヲ受クヘシ但静岡市安倍郡ニ在住スルモノハ從前ノ通り

●告示第四十九號

(明治三十三年二月二十三日)

縣吏員ノ退隱料退職給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ノ件右府縣制第九十五條ニ依リ左ノ通之ヲ定ム

縣吏員退隱料退職給與金遺族扶助料支給規程

第一條 縣吏員ニハ退職給與金退隱料遺族扶助料ヲ支給ス

第二條 在職滿一年以上ニシテ退職シタル者ニハ退職現時ノ給料半ヶ月分ヲ以テ在職年數ノ一ヶ

年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

本規程施行前ニ退職給與金ヲ受ケタル者又ハ前項ノ退職給與金ヲ受ケタル者再ヒ就職シ爾後退職シタルトキハ前項ニ掲クル在職年數ヲ其ノ再任ノ日ヨリ起算ス

退職料ヲ受クル者並ニ自己ノ便宜ニヨリ退職シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニヨリ免職シタル者ニハ本條ノ退職給與金ヲ給セス

第三條 在職滿十五年以上ノ者左記事項ノ一ニ當ルトキハ修身退職料ヲ給ス

- 一 年齡六十歳ヲ超ヘ退職ヲ許シタルトキ
- 二 傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘス退職ヲ許シタルトキ
- 三 廢職若ハ事務ノ伸縮ニ依リ退職シタルトキ

第四條 左記事項ノ一ニ當ル者ハ前條ノ年限ニ滿タサルモ終身退職料ヲ給シ尙其ノ最下金額十分ノ七マテノ増加退職料ヲ給ス

- 一 公務ニ因リ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若ハ之ニ準ス可キモノニシテ其職務ニ堪ヘス退職シタルトキ
- 二 公務ニ依リ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準ス可キ者ニシテ其職務ニ堪ヘス退職シタルトキ

第五條 在職十五年未滿ノ者在職中公務ノ故ニアラスシテ死亡シタルトキハ其遺族ニ一時扶助金ヲ給ス

前項ノ扶助金ハ在職最終ノ給料年額百分ノ一ヲ在職年數ニ乘シタル額トス但一年未滿ノ在職月數ハ計算セス

第六條 退職料年額ノ算定其他支給方法等本規程ニ掲クルモノ、外揮テ官吏恩給ニ關スル規則ヲ準用ス

第七條 縣吏員タル者左記事項ノ一ニ當ルトキハ其遺族ニ遺族扶助料ヲ給ス

- 一 在職十五年以上ノ者在職中死去シタルトキ
- 二 在職十五年未滿ノ者公務ノ爲メ死去シタルトキ
- 三 退職料ヲ受クル者死去シタルトキ

第八條 縣吏員ハ其ノ給料百分ノ一ヲ縣ニ納ム可シ

第九條 本規程ニ於テ遺族ト稱スル者及扶助料額其他支給方法等ハ渾テ官吏遺族扶助ニ關スル規則ヲ準用ス

第十條 従前ノ規定ハ之ヲ廢止ス

●郡第一號 (明治三十一年三月九日)

郡役所

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料ノ受領者ハ當廳ヨリ直ニ送金スヘキニ付テハ其郡下居住ニ係ル該受領者退隱料證書又ハ扶助料證書ヲ其渡期月毎ニ檢閲シ異動ノ有無當廳ヘ報告スヘシ

市役所 町村役場

明治二十五年文部省令第二號市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料支給規則第十二條ニ據リ退隱料又ハ扶助料ヲ受クル者其在職セシ他府縣規定ノ書式ニヨル證明書又ハ檢閲報告書等ノ下付ヲ請フモノアルトキハ相當ノ調査ノ上之ヲ交付スヘシ

第一 諸給與

●五第四一五〇號 (明治三十五年九月十九日)

內務部長通牒

從來國庫費縣費所屬旅費請求(領收又ハ仕譯書)書ヘ旅車旅行ノ場合ト雖モ停車場所在地町村名ヲ掲記相成來リ候處調査上必要ニ付キ自今旅車旅行ニ在テハ乗下車セシ各停車場名ヲ發着地名ノ欄ニ掲記シ旅車陸路相跨ル旅行ニ在テハ各停車場名ヲ經歷地名ノ欄ニ(問旅車)便宜付記相成度此段

及通牒候也

追テ水路旅行ノ場合ニ於テモ本文ニ準シ記載相成度此段申添候也

●郡第四號 (明治二十六年一月十二日)

郡役所 縣立學校

郡書記及學校職員ノ俸給支給方ハ明治二十五年^{十二}大藏省令第十號文官俸給支給規則ヲ適用シ其支給定日ハ毎月二十一日ト心得ヘシ(明治三十年郡第三號ヲ以テ改正削除)

●廳中達第四一號 (明治三十五年五月一日)

知事官房 內務部

國庫費支辨ニ屬スル雇員俸給支給規程左ノ通相定メ明治三十五年五月一日ヨリ施行ス
但本規程ニ抵觸スル從前ノ規程等ハ總テ廢止ス

雇員俸給支給規程

第一條 雇員俸給ハ月給又ハ日給トス

第二條 月給ハ毎月三十一日日給ハ毎月末日(十二月ハ)ヲ以テ支給定日トス

前項支給定日休日ニ當ルトキハ月給ニ在テハ順延日給ニ在テハ繰上支給ス

第三條 新ニ採用シタルトキハ勤務ノ當日ヨリ増給減給ノトキハ發令ノ翌日ヨリ計算支給ス

但月給ヨリ日給ニ又ハ日給ヨリ月給ニ移リタルトキハ其當日ヲ以テ打切り計算ス

第四條 他ニ轉職シタルトキハ其當日迄日割計算ヲ以テ支給ス

第五條 月給ノモノニシテ退職及死亡ノトキハ當月分ノ俸給金額ヲ支給ス

第六條 月給ノモノニシテ病氣其他私事ノ故障ニ依リ欠勤三十日ヲ踰ユルトキハ其當日ヨリ俸給ヲ支給セス

第七條 月給ノモノニシテ豫備後備ノ軍籍ニアルモノ戰時若クハ事變ニ際シ召集ニ應シタルトキハ其翌日ヨリ解隊出勤スル前日迄俸給ヲ停止ス

第八條 日給ハ勤務日數ニ應シ支給ス

但日曜祭祝日其ノ他一般ノ休日及忌引七日迄ハ之ヲ勤務日數ニ算入ス

第九條 轉職退職及死亡ノトキハ第二條支給定日ニ拘ハラズ其際之ヲ支給ス

第十條 月給日割計算方ハ總テ其月ノ現日數ニ依ル

但計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ツ

●訓令甲第三十號 (明治三十四年十一月二十九日)

内務部 郡役所

土木事務出張員特別旅費支給規程左ノ通定ム

土木事務出張員特別旅費支給規程

第一條 縣若ハ郡ノ官吏ニシテ左ノ各號ニ掲クル用務ノ爲出張スルトキハ通常旅費ヲ支給セスシテ日額旅費ヲ支給ス

一 土木事務ニ關シ一定ノ區域ニ常時出張スルモノ

二 土木又ハ建築工事ノ監督

三 測量

第二條 常時出張スルモノ及出張日數八日以上ノモノハ甲號表ニ據リ其八日未滿ノモノハ乙號表ニ據ル

第三條 左ノ場合ニ於テハ一級日額ヲ支給ス

一 土木管理區主幹トシテ出張スルモノ

二 工事監督ノ爲三區域以上ヲ担任シ出張スルモノ

第四條 左ノ場合ニ於テハ二級日額ヲ支給ス

一 工事監督ノ爲メ二區域ヲ担任シ出張スルモノ

二 測量正副主任トシテ出張スルモノ

第五條 左ノ場合ニ於テハ三級日額ヲ支給ス

- 一 土木管理區員トシテ常時出張スルモノ
 - 二 工事監督ノ爲メ一區域ヲ担任シ出張スルモノ
 - 三 測量助手トシテ出張スルモノ
- 第六條 左ノ場合ニ於テハ四級日額ヲ支給ス
- 一 繼續ニ係ル道路河川改修工事監督ノ爲メ出張スルモノ
 - 二 一道一川又ハ其一部若ハ郡ノ一部ヲ担任シ常時出張スルモノ
- 第七條 左ノ場合ニ於テハ各相當級額ノ次級額ヲ支給ス
- 但四級額ニ相當スル場合ハ此限リニアラス
- 一 第二土木管理區ニ常時出張スルモノ
 - 二 擔任區域ノ近キ一端カ當該廳所在地ヲ距ルコト一里未滿ナルトキ
- 第八條 擔任區域ノ遠キ一端カ當該廳所在地ヲ距ルコト一里未滿ナルトキハ旅費ヲ支給セス但特ニ宿泊ヲ命シタルトキハ前條ノ日額ヲ支給ス
- 第九條 擔任區域内ニ在テハ臨時他ノ用務ニ従事スルモ各本條ニ定ムル日額ノ外支給セス
- 第十條 左ノ場合ニ於テハ通常旅費ヲ支給ス
- 一 當該廳ヨリ擔任區域ヘノ往復若ハ甲區ノ用務ヲ了リ乙區ヘ移ルトキ

- 二 擔任區域外ヘ特ニ出張ヲ命シタルトキ但此場合ニ於テハ擔任區域出發ヨリ飯着マテ一旅行トシテ打切計算スルモノトス
 - 三 擔任區域内ト雖モ上官ノ隨行又ハ他廳吏員ト同行ヲ命シ若ハ特ニ出張ヲ命シタルトキ
- 附 則
- 第十一條 本規程ハ明治三十四年十二月一日ヨリ施行ス
- 第十二條 明治三十二年^五四月第二六二五號土木工事出張員旅費日額支給規則ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

甲號 日額旅費等級表

	一級	二級	三級	四級
判任官	七拾五錢	七拾錢	六拾錢	五拾錢
雇	六拾五錢	六拾錢	五拾錢	四拾錢

乙號 日額旅費等級表

	一級	二級	三級	四級
判任官	壹圓五錢	壹圓	九拾錢	八拾錢
雇	八拾五錢	八拾錢	七拾錢	六拾錢

●四第二三四八號 (明治三十一年四月)

郡役所 警察署 監獄支署 縣立學校
 測候所 驅徴院 警察署 監獄署

静岡縣備員俸給支給規則左之通り改正シ明治三十一年四月ヨリ施行ス
但備員俸給支給ニ關スル從前ノ達等ハ總テ廢止ス

静岡縣備員俸給支給規則

- 第一條 備員ノ俸給ハ月俸ト日給トニ拘ハラズ毎月末日休日ニ當ルトキハ繰上ケニ於テ支給スルモノトス但解備及ヒ死亡等ノ場合ニ在テハ其際支給ス
- 第二條 月俸ノ備員解備ノトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ支給スルモノトス
- 第三條 日給ノ備員出勤セサルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外當日ノ俸給ヲ支給セサルモノトス
 - 一 賜暇日(出願許可ニ係ルモノハ包含セズ)
 - 二 忌引及父母ノ祭日
 - 三 傳染病豫防法ノ爲メ出勤スル能ハサルトキ
 - 四 公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ躰養スルトキ
- 前項一乃至三ニ當ルモ其前後トモ出勤セサルトキハ俸給支給ノ限外トス
- 第四條 豫備後備ノ軍籍ニアル備員ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集ニ應シタルトキハ其翌日ヨリ解隊出勤スル前日迄俸給ヲ停止スルモノトス
- 第五條 前各條及特ニ規定アルモノノ外文官俸給支給ニ關スル規則ヲ準用スルモノトス

●廳中達第四五號

(明治三十四年十一月三十日)

内務部

縣吏員給料額並ニ旅費額及支給方法左ノ通り定ム

縣吏員給料額並ニ旅費額及支給方法

- 第一條 縣吏員ノ給料ハ分チテ年俸及月俸ノ二トシ年俸ニ在テハ千五百圓以下月俸ニ在テハ六拾圓以下トス(三十五年八月廳中達第五十號ヲ以テ改正)
- 第二條 縣吏員給料支給方法ハ月俸ニ關シテハ判任官俸給令、年俸ニ關シテハ高等官俸給令ニ依ル但シ年俸參拾圓以下ノ者ハ判任官俸給令ニ依ル(全上)
- 第三條 縣吏員ノ旅費ハ通常旅費特別旅費ノ二種トシ其支給額ハ別表定ムル所ニ依ル
- 第四條 通常旅費ハ第五條ニ掲ケタル場合ヲ除ク外順路ノ行程ニ應シ之ヲ支給ス
- 第五條 特別旅費ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ之ヲ支給ス但特別旅費ヲ支給スル場合ニハ通常旅費ヲ支給セズ
 - 一 土木事務ニ關シ一定ノ區域ニ常時出張ヲ命シタル中及土木建築工事ノ監督若クハ測量ノ爲メ引續キ八日以上出張ヲ命シタルトキハ第一號ノ日額ヲ支給シ其日數八日未滿ナルトキハ第二號ノ日額ヲ支給ス

二 縣稅檢査ノ爲メ引續キ十日以上出張ヲ命シタルトキハ第三號ノ日額ヲ支給ス但シ縣廳ヨリ
 最初檢査ニ着手スヘキ地迄及檢査終了地ヨリ縣廳迄ノ旅行ニハ通常旅費ノ車馬賃汽車賃ヲ
 併給ス

第六條 縣吏員旅費支給方法ハ本規程ニ定ムルモノ、外内國旅費規則及本縣土木事務出張員特別
 旅費支給規程ヲ準用ス

第七條 縣吏員ノ職ニアリテ死亡シタル者ニハ給料月額三ヶ月分ヲ其遺族ニ給ス但シ遺族トハ官
 吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スルモノヲ謂フ

附 則

第八條 本令ハ明治三十四年十二月一日ヨリ施行ス
 通常旅費(三十五年八月廳中送
 第五十號ヲ以テ改正)

等	級	汽 車 賃	馬 賃	宿 泊 料	日 當 一 日
一等	年俸參拾圓以上ノモノ	五 錢	貳 拾 錢	壹圓五拾錢	壹 圓
二等	月俸六拾圓未滿拾五圓以上ノ モノ、及年俸參拾圓以下ノモノ	四 錢	拾 五 錢	壹 圓	五 拾 錢
三等	月給拾五圓未滿ノモノ	參 錢	拾 錢	七 拾 錢	參 拾 錢

特 別 旅 費

第一號		第二號		第三號	
等	級	等	級	等	級
一等	拾五圓以上	一等	拾五圓以上	一等	拾五圓以上
二等	拾五圓未滿	二等	拾五圓未滿	二等	拾五圓未滿
一等	七 拾 五 錢	一等	壹 圓 五 錢	一等	壹 圓 五 錢
二等	七 拾 錢	二等	壹 圓	二等	壹 圓
三等	六 拾 五 錢	三等	壹 圓	三等	壹 圓
四等	六 拾 錢	四等	壹 圓	四等	壹 圓
五等	六 拾 錢	五等	壹 圓	五等	壹 圓
六等	六 拾 錢	六等	壹 圓	六等	壹 圓
七等	六 拾 錢	七等	壹 圓	七等	壹 圓
八等	六 拾 錢	八等	壹 圓	八等	壹 圓
九等	六 拾 錢	九等	壹 圓	九等	壹 圓
十等	六 拾 錢	十等	壹 圓	十等	壹 圓

●訓令丙第二一六號

(明治三十五年四月十一日)

内 務 部

縣稅賦課徵收事務調査ニ際シ縣稅取扱費中調査費ノ支辨ヲ以テ出張セシムル場合ハ其官相當ノ旅
 費ヲ給シ其支給方法ハ内國旅費規則ニ據ル
 右訓令ス

●五第七七四號

(明治三十三年二月二十三日)

災害工事監督ニ關スル臨時雇旅費月額支給規則別紙ノ通り相定ム

災害工事監督臨時備旅費月額支給規則

第一條 災害工事監督ニ關スル臨時備出張旅費ハ左ノ區分ニ依リ月額旅費ヲ支給ス

月俸額 拾圓以上 八圓以上 八圓未満 旅費額 拾圓 八圓 六圓

第二條 土木工事出張員旅費月額支給規則第八條乃至第十三條ハ本規則ニ之ヲ準用ス

第三條 本規則ハ明治三十三年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●三第三六二一號 (明治三十二年九月十六日)

內務部 小學校教員恩給審査委員長

市町村立小學校教員恩給顧問醫手當及旅費支給規則左之通相定ム

市町村立小學校教員恩給顧問醫手當及旅費支給規則

第一條 恩給顧問醫恩給ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査スルトキハ一日金壹圓五拾錢ノ手當ヲ支給ス

第二條 恩給顧問醫恩給ニ關スル醫術上ノ事項ヲ審査スル爲出張ヲ要スル場合ニハ明治三十年勅令第三百三十三號內國旅費規則ヲ準用シ該規定ノ旅費額三等ニ依リ旅費ヲ支給ス(三十五年八月二日三等ニ改ム)

●四第二六五七號 (明治三十三年四月十日)

蚕種検査所員給與規則左之通相定ム

蚕種検査所員給與規則

第一條 検査員事務員及ヒ助手ハ勤務日數ニ應シ日給ヲ給ス

第二條 検査員事務員勤務中ニ係ル日曜日大祭日ハ勤務日數ニ算入ス

第三條 検査員採用解任又ハ縣廳へ往復スルトキハ旅費一哩金貳錢車馬一里金拾五錢日常金七拾

錢ヲ給與ス

第四條 検査員検査ノ爲メ出張スルトキハ旅費日額金七拾錢ヲ給シ別ニ瀛車賃車馬賃宿泊料ヲ支

給セズ

第五條 日給ハ勤務日數報告ヲ得テ前月分ヲ其月七日ニ之ヲ給シ旅費ハ其都度支給ス

●訓令丙第二四號 (明治三十三年六月十六日)

静岡縣內務部 全農事試驗場

農事試驗場員俸給及旅費支給規定別紙ノ通之ヲ定ム

右訓令ス 農事試驗場員俸給及旅費支給規程

第一條 場員俸給支給方法ハ職員ニ就テハ文官俸給支給細則ヲ準用シ傭員ニ就テハ静岡縣傭員俸給支給規則ニ依ル

第二條 場員旅費支給方法ハ凡テ内國旅費支給規則ヲ適用ス

第三條 場員ノ旅費支給額ヲ定ムル左ノ如シ

技 師

瀛車賃 一哩金五錢 車馬賃 一里金拾六錢 日當 一日金八拾錢 宿泊料 一夜金壹圓貳拾錢

技手以下

瀛車賃 一哩金參錢 車馬賃 一里金拾參錢 日當 一日金四拾錢 宿泊料 一夜金六拾錢

●廳中達第三十六號 (明治三十四年七月四日)

共進會品評會事務員給料旅費支給規程左之通定ム

共進會品評會事務員給料旅費支給規程

第一條 事務員ノ俸給ハ毎月二十一日支給ス但休日ニ當ル時ハ順延トス

第二條 事務員ノ俸給ハ新任増俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算支給シ退職及死亡ノ時ハ當月分ノ

全額ヲ其際支給ス

第三條 事務員ノ旅費ハ瀛車一哩四錢瀛船一海里四錢車馬賃一里拾五錢日當一日五拾錢宿泊一夜

壹圓ヲ支給スルモノトス

第四條 本規程ハ明治三十四年七月四日ヨリ施行ス

●廳中達第三三號 (明治三十五年三月三十一日)

內 務 部

林業手給料及旅費支給方法左之通相定ム

林業手給料及旅費支給方法

第一條 林業手旅費支給方法ハ本縣判任官ノ例ヲ準用ス

第二條 林業手ノ旅費ハ通常旅費特別旅費ノ二種トシ其支給額ハ別表定ムル所ニ依ル

第三條 通常旅費ハ第四條ニ掲ケタル場合ヲ除クノ外順路ノ行程ニ應シ之ヲ支給ス

第四條 特別旅費ハ左ノ場合ニ之ヲ支給ス但特別旅費ヲ支給スル場合ニハ通常旅費ヲ支給セス

一 森林調査ノ爲メ引續キ十日以上出張ヲ命シタルトキ但縣廳ヨリ最初調査ニ着手スヘキ地迄

及調査修了地ヨリ縣廳迄ノ旅行ニハ通常旅費ノ車馬賃瀛車賃ヲ併給ス

第五條 林業手旅費支給方法ハ本規定ニ定ムルモノ、外内國旅費規則ヲ準用ス

第六條 本規定ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

(別表) 通常旅費

瀛車賃	一哩	車馬賃	一里	宿泊料	一日	當	一日
金	四	錢	拾五	錢	八	拾	錢
金	拾	錢	五	錢	八	拾	錢
金	四	錢	拾五	錢	八	拾	錢

特別旅費

一日 金壹圓

●參議第九十號 (三十一年九月二十七日可決)

静岡地方森林會議員及書記手當并旅費支給規程

第一條 議員及書記ノ手當及官吏ニ非サル議員ノ旅費額ハ左ノ如シ

手當

議員 一ヶ年金參拾圓 書記 全金拾五圓

旅費

汽車賃 一哩金五錢 車馬賃 一里金貳拾錢(三十四年度限 算ニ依リ改ム) 日當 一日金貳圓五拾錢(全上)

第二條 議員書記ノ手當ハ年度末ニ於テ支給ス但其年度内會議ニ出席セサル議員ニハ之ヲ支給セ

ス

第三條 旅費ハ會議ノ都度之ヲ支給ス其方法ハ明治三十年勅令第三三三號内國旅費規則ノ規定ヲ

準用ス

●財第八號 (明治三十年十一月一日)

郡書記及備員旅費支給額左ノ通相定メ明治三十年十一月一日ヨリ施行ス

郡役所

郡書記	四	錢	拾	五	錢	拾	錢	五	拾	錢
備員	參	錢	拾	錢	參	拾	錢	五	拾	錢
汽車賃	一哩	車馬賃	一里	日當	一日	宿泊料	一日	當	一日	付
金	四	錢	拾	五	錢	拾	錢	七	拾	錢

●一第一五九八號ノ一 (明治三十三年四月十三日)

郡役所

郡視學旅費支給額ハ明治三十年^月財第八號郡書記旅費支給額ニ依ル

右訓令ス

●訓令丙第一七五號 (明治三十四年四月四日)

郡役所

郡技手旅費支給額ハ明治三十年^月財第八號郡書記旅費支給額ニ依ル

右訓令ス

●第一〇八三號 (明治三十三年三月十九日)

各 郡 長

郡吏員給料旅費及應中諸費中賄料支給額左ノ通改正候ニ付明治三十三年度ヨリ施行スヘシ

- 一 吏員宿直賄料 一 夜金八錢 一 全徹夜賄料 一 夜金拾貳錢
- 一 小使宿直賄料 一 夜金五錢 一 全徹夜賄料 一 夜金七錢五厘

右訓令ス

●訓令丙第六五三號 (明治三十四年十二月二十八日)

内務部 警察部 警察署 警察分署

警視警部徹夜勤務ニ服スル者ニ限り明治三十五年一月一日ヨリ食料一夜金八錢ヲ支給ス

但明治二十六年十二月費第六八號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

右訓令ス

●訓令丙第三七七號 (明治三十三年十二月二十一日)

警察部 警察署 警察分署

巡查特別手當給與細則左ノ通り相定ム

巡查特別手當給與細則

第一條 巡查看守俸給令ニ依リ巡查ニ給スル特別手當ハ發令ノ翌日ヨリ計算シ退職ノ月ハ日割ヲ以テ計算ス但廢廳若クハ事務ノ伸縮ニ因リ免職シタルトキ又ハ休職死亡ノトキハ當月分ノ全額ヲ給ス休職當月復職スルトキハ其ノ月ノ手當ハ更ニ支給セス

第二條 病氣ノ爲メ執務セサルコト二十日ヲ踰ユルモノハ其後手當支給セス公務ノタメ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此限りニアラス

第三條 特別手當ハ毎月末日ニ支給ス但當日休暇ナルトキハ繰上トス

●廳中達第三九號 (明治三十四年八月八日)

内務部 警察部

巡查教習所ニ於テ夜警スル巡查ニハ本年八月以降賄料一夜一度分ヲ支給ス

●警第五三二二號 (明治三十三年三月十一日)

警察部 警察署 警察分署

警部巡查警衛ノ爲メ駿東郡揚原村ニ滞在勤務ニ服スル者ノ旅費ハ明治三十三年四月一日ヨリ滞在中宿泊料警部ハ金五拾錢巡查ハ金參拾錢ニ減額シ宿泊料ノ外日當ヲ支給セス

●訓令丙第二六四一號 (明治三十四年三月三十日)

内務部 警察部 警察署 警察分署

警察醫俸給其他支給細則左ノ通相定ム

警察醫俸給其他支給細則

第一條 警察醫ノ俸給ハ毎月二十一日ニ於テ支給スルモノトス但休日ニ當ルトキハ順延トス俸給ノ支給方法ハ文官俸給支給細則ヲ準用ス

第二條 警察醫ノ旅費ハ判任官相當額ヲ支給スルモノトス旅費ノ支給方法ハ内國旅費規則ヲ準用ス

第三條 警察醫長ノ手當支給方ハ本則第一條ヲ準用ス

第四條 警察醫長ノ旅費ハ本官相當額ヲ支給スルモノトス旅費ノ支給方法ハ本則第二條ヲ準用ス

第五條 本則ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

臨檢第五七六號 (明治三十二年八月二十三日)

警察部 警察署 警察分署 檢疫委員事務所

檢疫事務取扱巡査ノ旅費ハ明治三十一年二月警第四四八號巡査給與細則第十一條第十二條第二十九條ニ依リ本月二十五日ヨリ普通旅費ヲ支給ス

第五四五二七號 (明治三十二年七月三十一日)

内務部 警察部

官吏ニアラサル醫師藥劑師等ニシテ檢疫委員タルモノ、旅費ハ内國旅費規則ニ依リ判任官相當額ヲ支給ス

訓令丙第二一六號 (明治三十四年四月十九日)

警察部

電話工手及電話工事監督囑託者ノ旅費ハ判任官相當額電話助手ノ旅費ハ雇員相當額ヲ支給ス前項支給法ハ内國旅費規則ヲ準用ス

訓令丙第二六七號 (明治三十五年五月二十二日)

警察部 警察署 警察分署

電話工夫給與規則左之通定ム

右訓令ス

電話工夫給與規則

第一條 電話工夫ノ等級及給料ハ左ノ如シ

一等	日給	七拾錢	二等	日給	六拾錢
三等	日給	五拾五錢	四等	日給	五拾錢

五等 日給 四拾五錢以下

第二條 電話工夫ニシテ一等日給ヲ受ケ勤勞拔群技倆優等ナルモノ在職滿二年ヲ越ヘタルトキハ漸次日給壹圓マテ増給スルコトヲ得

第三條 始メテ採用スル電話工夫ノ等級ハ四等以下トス

第四條 一旦解僱シタル者再ヒ電話工夫ニ採用スルトキハ其等級ハ解僱前ニ於ケル等級以下トス

第五條 電話工夫ノ給料支給方法ハ靜岡縣僱員俸給支給規則ニ依ルヘシ

第六條 電話工夫受持區内ノ巡回出張ニ關スル旅費ハ月額ニ依リ一ヶ月金八圓ヲ支給ス

第七條 電話工夫特ニ命令ヲ受ケ其事務ニ従事スル場合ニ於テハ警察官吏其他内國旅費概則甲號表ニ依リ内國旅費規則ヲ準用シ普通旅費ヲ支給スルコトヲ得

第八條 左ノ場合ニ於テハ旅費ハ日割計算ヲ以テ之ヲ支給ス

- 一 給與ノ初月及轉免死亡其他ノ事故ニ依リ勤務ニ就キ又ハ勤務ヲ離レタルトキ
- 二 病氣(職務上負傷及傳染病ニ屬シタル場合ヲモ包含ス)又ハ忌引ノ爲メ引續キ出勤日數八日以上ニ及フトキ
- 三 私事ノ故障ニ依リ勤務セサルトキ
- 四 第七條ニ依リ旅費ノ支給ヲ受ケタルトキ

第九條 前條ノ日割計算法ハ月額三十分ノ以テ一日分ノ支給額トス

第十條 月額ハ毎月初旬ニ於テ前月分ヲ支給ス但第八條第一號ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第十一條 電話工夫ニ給與スヘキ品目員數保存期限ハ左ノ如シ

- 一 帽 一個 一ケ年 一日覆 一個 一ケ年
- 一 法被 貳着 一ケ年 一 股引 貳着 一ケ年
- 一 肌着 貳着 一ケ年 一 外套加掛 頭巾付 壹着 二ケ年

第十二條 前條ノ被服及屬具ハ現品ヲ給與ス

第十三條 給與品ハ常ニ清潔ニシ若シ汚損シタルトキハ自費ヲ以テ速ニ補修洗淨スヘシ

第十四條 解職死亡等ノ場合ニ於テハ帽章及保存期限ノ終ラサル給與品ハ遲滞ナク之ヲ返納スヘシ

第十五條 過失怠慢ニ依リ保存期限ノ未タ終ラサル給與品ヲ毀損紛失シタルトキハ其原價ヲ辨償スヘシ

◎五第一八一六號 (明治三十四年五月二日)

郡長 縣立學校長 內務部長通牒 農事試驗場長 警察署長

月ノ半途ニ於テ俸給ニ異動ヲ生シタルモノ俸給支給方從來前後各俸給額ヲ日割計算シ各厘位未滿ヲ切捨テ之ヲ合算シテ其月ノ支給額ヲ算定セシ處自今前後各俸給額ハ厘位以下四位(毛未忽)ヲ存シ

之ヲ合算シ其月ノ額ヲ定ムルニ至リテ文官俸給支給細則第九條ニ依リ厘位未滿ヲ切捨テ候事ニ應
議決定候條三十四年度以降右ニ依リ支給相成度依命此段及通牒候也

●五第一〇九一號ノ一 (明治三十四年五月八日)

各郡長 內務部長通牒 各縣立學校長

文官懲戒令ニ依ル減俸支給方ニ關シ左ノ通決定相成候條右ニ依リ支給相成度依命此段及通牒候也

一 減俸ノ期間ハ民法第四百三三條ニ據リ之ヲ算ス

二 月ノ始ヨリ期間ヲ計算セサルトキ最初ノ月及最後ノ月ニ於ケル俸給支給高ハ俸給額ノ日
割ト減俸額ノ日割トヲ合シタルモノトス

例ヘハ月俸五拾圓ノ者五月十五日發令三ヶ月間月俸三分ノ一ヲ減セラレタリトスレハ其期
間ハ發令翌日即チ五月十六日ヨリ起算シ八月十五日ヲ以テ滿了シ五月分及八月分ノ俸給支
給高ハ左ノ如シ

(支給高計算方算ス)

●訓令甲第二十號 (明治三十四年五月三十一日)

郡役所 警察署 警察分署 縣立學校 測候所 農事試驗場
國庫費及縣經濟ヨリ支辨スル旅費ノ請求ニシテ本縣管外ニ涉ル陸路及水路旅行ニ對シテハ(郵便

線路圖ニ記載アルモノヲ除ク)自今所割官署ノ里程證明書ヲ添付請求スル義ト心得ヘシ

第四章 雜

●告示第六十九號 (明治三十四年三月二十日)

明治三十三年五月告示第九十六號工事請負及物件賣買貸借ニ關スル入札又ハ契約ノ保證金ニ代用ス
ル國債證書若公債
ヲ除クノ擔保價格ハ明治三十四年四月一日ヨリ額面百圓ニ付八拾五圓ト改ム

●五第五八〇號 (明治三十五年二月十二日)

各郡長 警察署長宛內務部長通牒

近來各縣購入ニ係ル書籍中執務ニ適切ナラサルモノ往々有之哉ニ見受ケラレ候依テ自今ハ法律書
ニシテ個人ノ解釋ニ係ルカ如キモノ其他學藝技術等ニ涉ル書籍雜誌等ニシテ要スルニ各自ノ研究
ニ資スルカ如キモノハ一切購入不相成儀ト御承知有之度依命此段及通牒候也

●告示第三十三號 (明治十七年二月十二日)

損傷紙幣交換ノ義本年三月一日ヨリ各地國庫金取扱所及大藏省爲換方ニ於テ取扱候條同所へ持參
引換候儀ト可相心得此旨告示候事

第十一編 警察獄務

第一章 警務

第一 願書

●甲第三十四號 (明治九年六月九日)

今般警察出張所及巡查屯所持區内別紙ノ通相定候ニ付テハ是迄ノ通縣廳へ差出來候左ノ條件ハ自今渾テ其所轄出張所へ差出可申此段布達候事

一 各巡查ニ保管救護ヲ請フノ類

但至急ノ事件ハ直ニ巡查屯所へ申出ヘシ

一 諸説諭願

但親族中ニ相生スル小事件ノ類ハ時トシテ直ニ巡查屯所へ申出ルコトアルヘシ

一 金穀及諸物品等渾テ遺失セシ届

一 同斷遺失物ヲ拾ヒ得シ届

一 盜難届

但遺失中座ノハ從前ノ通直ニ届出ヘシ

一 失火届

但本廳ニモ是迄ノ通届出ヘシ

一 變死人届

一 諸檢視願

一 人ノ罪狀ヲ告訴告發スルノ類

一 逃亡人其他犯罪自訴スル者

(警察出張所以下持區區別ハ改正ノ爲メ自然消滅セシテ以テ容ス)

●甲第三十七號 (明治九年七月十五日)

本年甲第三十四號ヲ以テ警察出張所へ可差出條件及布達候處尙左ノ二項自今出張所へ可申出此段布達候事

一 沿海ニ於テ舩船其他流失セシ届

一 同斷漂流物ヲ拾ヒ得シ届

●甲第三十三號 (明治十年四月二十三日)

是迄本支廳へ差出來リ候左ノ條件ハ來ル五月一日ヨリ其所轄警察署へ可差出此旨布達候事但失踪人ノ義ハ從前ノ通本支廳へキモ可届出事

- 一 銃砲彈藥賣買願何届
- 一 藝娼妓貸座敷引手茶屋營業并廢業願ノ類
- 一 失踪人届

●縣令第十五號 (明治二十年二月十六日)

從前警察署又ハ分署へ差出シ來リ候諸願届等自今便宜各巡查派出所又ハ巡查駐在所へ差出ス事ヲ得(明治二十一年縣令第(二十四號ヲ以テ追加)

●甲第三十九號 (明治二十六年十一月二十五日)

郡役所 市役所 警察署 警察分署 町村役場

從前郡役所ニ於テ取扱候左ノ事項ニ關スル件ハ來ル十二月一日ヨリ所轄警察官署ニ於テ取扱フ儀ト心得ヘシ

- 一 鍼灸治營業願
- 一 入齒々抜口中療治接骨從來營業者ニ關スル件
- 一 氷製造並販賣願
- 一 飲食物藥品使用願
- 一 飲食物並玩弄品着色料使用願

一 鑛泉試驗願

一 海水又ハ鑛泉ヲ酌取浴場若クハ蒸溜浴開設願

一 死骸解剖願

一 賣藥部外藥劑販賣願

一 中毒患者届

●縣令第七十一號 (明治二十年八月三十日)

文字書紋滲入紙製造取締ノ義今般勅令第三十六號及大藏省令第十二號ヲ以テ公布相成候ニ付テハ常關ニ差出ヘキ届書ハ所轄警察署又ハ分署ヲ經由スヘシ

●甲第三十七號 (明治十五年二月二十三日)

盜難届出方ノ儀ニ付テハ是迄相違置候趣モ有之候處右ハ行政警察事務上必要ノモノニ付告訴ヲ爲シタル場合ト雖モ從前ノ通警察署分署又ハ巡查交番所へ可届出此旨布達候事但本文届書ハ自今戸長ノ與書ニ及ハス候事

●縣令第一百四號 (明治二十年十一月十三日)

自今盜難ノ節ハ即時最寄警察署分署又ハ巡查派出所へ事實詳細書面又ハ口述ヲ以テ届出ツヘシ
●警第九六三八號ノ一 (明治三十四年十二月二十五日)

河	驍	國	郡	町村名	位置	國	郡	町村名
原	庵	大	大	浦原町 浦原 小金 中 堰澤 神澤	江尻警察署 富士川分署 位置 駿河國庵原郡 距縣廳 八里三十三丁 (三十三年告示第三十三號ヲ以テ新設)	原	三保村 折戸	三保村 三保
內房村	松野村 南松野	北松野	木島	堀澤 神澤	入江町受新田 增	原	三保村 折戸	三保村 三保
富士川町 岩淵	中ノ郷	木島	吉原	吉原	吉原	原	三保村 折戸	三保村 三保

千九十一

河	驍	國	郡	町村名	位置	國	郡	町村名
士	富	大	大	吉永村 比奈 桑崎 石井 間門 鵜無ヶ淵 富士岡	吉原警察署 位置 駿河國富士郡 距縣廳 十里十九町二十三間四尺	原	吉永村 比奈	吉永村 比奈
傳法村 香西新田	大淵村 中野	三ツ澤	永田 彌生 彌生新田 香西	中河原新田 青島 依田原	吉原	原	吉永村 比奈	吉永村 比奈
今泉村 今泉	石坂	一色 今宮 神戶 依田橋	今宮 神戶 依田橋	吉原	吉原	原	吉永村 比奈	吉永村 比奈
岩松村 松岡	長宮通	中島	中島	吉原	吉原	原	吉永村 比奈	吉永村 比奈
加島村 松本	宮下	五兵衛	五兵衛	吉原	吉原	原	吉永村 比奈	吉永村 比奈
田子浦村 柳宮	前貫島	田子	田子	吉原	吉原	原	吉永村 比奈	吉永村 比奈
島田村 外津	荒田島	中河原	中河原	吉原	吉原	原	吉永村 比奈	吉永村 比奈

警察職務 警務

千九十一

國	
須津村中里	江尾川尻
元吉原村	東柏原新田
鷹岡村厚原	大野新田
	中柏原新田
	四柏原新田
	久澤
	沼田新田
	田中新田
	大坪新田

吉原警察署 大宮分署 位置 駿河國富士郡 大宮町大宮 距縣廳 三十一里十六町五十八間五尺 警察署 三十一里二十間

國	
大宮町	大宮
富士根村粟倉	阿幸地
富丘村淀師	萬野原新田
北山村北山	源道寺
上井出村上井出	大岩
上野村下條	青木
上野村下條	馬見塚
上野村下條	精進川
上野村下條	龍根原
芝富村羽鉚	鳥並
芝富村羽鉚	貓澤
芝富村羽鉚	上稻子
白糸村内野	大久保
白糸村内野	長貫
白糸村内野	野宿

沼津警察署 位置 駿河國駿東郡 沼津町上土 距縣廳 十五里十町十六間二尺

國	
沼津町	全城内
片濱村大諏訪	西間門
原町原	小諏訪
浮島村根古屋	植田新田
應根村東椎路	松長今澤
金岡村東澤田	柳澤
金岡村東澤田	西熊堂
金岡村東澤田	青野
楊原村上香貫	東熊堂
楊原村上香貫	我入道
大岡村	江ノ浦
大岡村	多比野
靜浦村獅子濱	馬込
靜浦村獅子濱	江ノ浦
靜浦村獅子濱	多比野
大平村	江ノ浦
大平村	多比野
大平村	多比野
清水村	八幡
清水村	八幡
清水村	八幡
清水村	八幡
長泉村	納米里
長泉村	上土狩
長泉村	上土狩

警察署 警務

千九十三

千九十二

豆 伊 國		郡	町村名	三島警察署 位置	伊豆國君澤郡 距縣廳 十六里三十町五十一間	國									
方	田					郡	北	六	北	國					
内浦村三津	江間村南江間	川西村長岡	中郷村長新伏	北上村梅谷名倉	錦田村山中新田	三島町	菅沼村桑木	足柄村桑木	六合村小山	北郷村 <small>古一阿多野新田</small> 色澤	下小林野	上古城向	下古城神	大柳島	吉久田澤
小梅	北江間	戸ノ澤上	御園木呂	多呂原	玉原澤	大	新柴	竹ノ下	生士	上野	中向日	大御神	大柳島	柳島	湯船
重寺		花坂	安久	北野	佐野										
長濱		長瀬	大堀	中島	壹町田										
重須		小坂	平八	八反	澤地										
		天野	松本	鶴喰	笹原新田										

警察職務 警務

千九十五

河 駿 國		郡	町村名	沼津警察署 御殿場分署 (三十二年八月告示第 五十六號ニテ更正)	駿河國駿東郡 御殿場 距縣廳 二十二里三十二町十六間二尺	國												
東	駿					郡	須	富	深	泉	小							
須走村	高根村 <small>六日市場</small> 山尾田	玉穂村中畑	印野村	原里村杉名澤	富士岡村大坂山	御厨町 <small>深御殿</small> 澤	御厨町 <small>深御殿</small> 澤	新倉野新田	小倉野新田	西萩田中原	北久保橋	東田中	東山新田	駒門新田	保土澤新田			
塚原田	川根新田	永塚	神山子	板妻	中沼清水	萩蕪	竈新田	川島田	保土澤新田	千福	上ヶ田	葛山	須山	富岡村 <small>金御</small> 澤	深良村 <small>深</small> 瓦	泉村 <small>石平松新田</small> 脇	小泉村 <small>富</small> 澤	
上小林丸	柴萁澤	神場	川島田	柴怒田堰	柴怒田堰	清水野新田	山之尻	柴怒田堰	清水野新田	柴怒田堰	清水野新田	山之尻	柴怒田堰	柴怒田堰	清水野新田	山之尻	柴怒田堰	清水野新田

千九十四

豆 方	伊 田							國	三 島 警察署 大仁分署 (三十三 年八月 告示第 百五十六 號ニテ 改稱) 位置 伊豆國 田方郡 中村大仁 距縣廳 四里十間	豆 方	國
	下大見村 關野	上大見村 管原 引保	中大見村 德宮 永上	上狩野村 湯門 野島	中狩野村 青下 羽原	下狩野村 本立 野	北狩野村 柏牧 久之 保	田中村 守田 木京			

伊 田	國	三 島 警察署 伊東分署 位置 伊豆國 田方郡 松原 距縣廳 七里二十 九町九間	伊 豆 方	國	三 島 警察署 熱海分署 位置 伊豆國 田方郡 熱海 距縣廳 六里十三 町三十七 間三尺	國	國				
							郡	郡	郡		
伊東村 須美岡	新井 湯川 松原 鎌田	大	網代村	熱海町 熱海	熱海町 熱海	函南村 畑桑 日 肥 原 守 毛	韭山村 大 中 土 肥 條 山	西浦村 足古 保 宇	久平澤 料澤 江久 梨連 木負 河內 立保	平澤 久 古 谷 長 崎 原 木 四 日 市 寺 宮 家	平澤 久 古 谷 長 崎 原 木 四 日 市 寺 宮 家

伊賀	國郡	下田警察署 松崎分署	位置 伊豆國賀茂郡 松崎村松崎	距縣廳 三十九里七町 六里十一町	伊賀郡	稻取村	上河津村	下河津村	城東村
							湯ヶ野	見高	大川
伊賀	國郡	下田警察署 稻取分署	位置 伊豆國賀茂郡 稻取村	距縣廳 三十六里二十二町 五里十四町	伊賀郡	稻取村	南上村	南中村	南生澤村
							下小野	井石	立野
伊賀	國郡	下田警察署	位置 伊豆國賀茂郡	距縣廳 三十九里七町 六里十一町	伊賀郡	稻取村	下佐野	見高	見高
							川津篠場	谷津	白田
伊賀	國郡	下田警察署	位置 伊豆國賀茂郡	距縣廳 三十九里七町 六里十一町	伊賀郡	稻取村	梨本	細地	片瀨
							小鍋	笹原	瀨原
伊賀	國郡	下田警察署	位置 伊豆國賀茂郡	距縣廳 三十九里七町 六里十一町	伊賀郡	稻取村	大鍋	大鍋	大鍋
							大鍋	大鍋	大鍋

伊賀	國郡	下田警察署	位置 伊豆國賀茂郡 下田町	距縣廳 三十五里三十二町三十一間	伊賀郡	下田町	濱崎村	白濱村	朝日村
							須崎	須崎	大賀茂
伊賀	國郡	下田警察署	位置 伊豆國賀茂郡	距縣廳 三十五里三十二町三十一間	伊賀郡	下田町	竹麻村	南崎村	三坂村
							石手	下流	入間
伊賀	國郡	下田警察署	位置 伊豆國賀茂郡	距縣廳 三十五里三十二町三十一間	伊賀郡	下田町	三濱村	三濱村	三濱村
							妻良	妻良	妻良
伊賀	國郡	下田警察署	位置 伊豆國賀茂郡	距縣廳 三十五里三十二町三十一間	伊賀郡	下田町	蝶ヶ野	蝶ヶ野	蝶ヶ野
							一色	一色	一色
伊賀	國郡	下田警察署	位置 伊豆國賀茂郡	距縣廳 三十五里三十二町三十一間	伊賀郡	下田町	青市	青市	青市
							長津呂	長津呂	長津呂
伊賀	國郡	下田警察署	位置 伊豆國賀茂郡	距縣廳 三十五里三十二町三十一間	伊賀郡	下田町	岩殿	岩殿	岩殿
							毛倉野	毛倉野	毛倉野
伊賀	國郡	下田警察署	位置 伊豆國賀茂郡	距縣廳 三十五里三十二町三十一間	伊賀郡	下田町	青野	青野	青野
							市ノ瀬	市ノ瀬	市ノ瀬
伊賀	國郡	下田警察署	位置 伊豆國賀茂郡	距縣廳 三十五里三十二町三十一間	伊賀郡	下田町	瓜生野	瓜生野	瓜生野
							瓜生野	瓜生野	瓜生野